

# 令和2年度使用中学校教科用図書 採択地区調査研究報告書

令和元年7月11日

## 令和2年度使用中学校教科用図書調査研究の報告について

### 1. 教科用図書調査研究の観点

#### 観点1 基礎・基本の定着

教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る上で、内容の精選及び創意工夫がなされているか。

#### 観点2 主体的に学習に取り組む工夫

問題解決的な学習，体験的な学習を取り入れ，児童生徒の興味関心を生かし，自ら学び，自ら考える力の育成を図る工夫がなされているか。

#### 観点3 内容の構成・配列・分量

学習指導を効果的にすすめる上で，適切な内容の構成・配列・分量となっているか。

#### 観点4 内容の表現・表記

さし絵・地図・図表などの資料等が有効に使われるよう配慮されているか。

#### 観点5 言語活動の充実

基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動の充実や，言語に対する関心や理解を深め，言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整えることに配慮されているか。

《参考》 【中学校教科用図書の種目】

全種目（特別の教科 道徳を除く）
------------------

### 2. 調査研究・報告にあたっての留意点

- (1) 中学校においては、「特別の教科 道徳」を除く教科用図書の平成30年度検定における新たな図書の申請がなかったため、4年間の使用実績を踏まえつつ、平成27年度採択における調査研究の内容等を活用するなどして調査研究し、報告する。
- (2) 教科用図書調査研究の観点に基づく各教科・各種目別の具体的な調査研究の視点については、各調査員（会）において定める。
- (3) 報告書及び要約の作成については、発行者の長所だけでなく、課題と思われる点についても報告すること。

## 目 次

	ページ
国 語 . . . . .	1 ~ 27
書 写 . . . . .	28 ~ 40
社会 (地理的分野) . . . . .	41 ~ 49
社会 (歴史的分野) . . . . .	50 ~ 63
社会 (公民的分野) . . . . .	64 ~ 71
地 図 . . . . .	72 ~ 76
数 学 . . . . .	77 ~ 86
理 科 . . . . .	87 ~ 100
音楽 (一般) . . . . .	101 ~ 108
音楽 (器楽合奏) . . . . .	109 ~ 115
美 術 . . . . .	116 ~ 131
保健体育 . . . . .	132 ~ 142
技術・家庭 (技術分野) . . . . .	143 ~ 152
技術・家庭 (家庭分野) . . . . .	153 ~ 162
英 語 . . . . .	163 ~ 172



様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

種 目 名 ( 国 語 )

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 単元・題材の示し方
- ② 基礎的な言語の定着
- ③ 伝統的な言語文化に関する内容の記述

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ① 興味・関心を高めるための工夫
- ② 問題解決的な学習を実施するための工夫
- ③ 見通しを立てたり，振り返ったりする学習のための活動の工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- ① 単元・教材等の配列
- ② 発展的な学習に関する内容の記述

(4) 内容の表現・表記

- ① 本文記述と関連づけがなされた図表等の挿入
- ② 巻末資料の示し方

(5) 言語活動の充実

- ① 読書と情報活用  
読書に関わる内容及び紹介されている書籍数等  
情報活用に関わる内容
- ② 言語活動の種類

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 1 )

(1) 基礎・基本の定着

① 単元・題材の示し方

分かりやすく適切な単元・教材の目標の示し方になっているか。

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○学習の視点や方法が明確で分かりやすい目標になっている。</p> <p>○古典については、言語活動を意識した目標がある。 例：「故事成語について調べ、<u>体験や出来事を文章にまとめる</u>」(1年生) 「和歌の意味や使われている技法に注意して、<u>鑑賞文をまとめる</u>」(3年生)</p> <p>○目次の次に「領域別 学習材一覧」として「学習材」と「目標」及び「言葉の力」または「古典コラム」が一覧表にまとめられており、全体を把握できてよい。また、目標が各教材の冒頭ページの下段に示されているのも分かりやすい。</p> <p>○領域別学習材一覧表の次のページに、折り込みカラーでそれぞれの領域の全般的なねらいについて記載されているのは「何を学びどんな力を養うか」を意識した編集である。</p> <p>●ややあいまいな目標も一部ある。例：「作品を読み味わう」「作品を読み深める」</p>
学図	<p>○テーマ単元を意識した目標が設定されているのが特徴である。 例：「他者と関わる自己を考える」「社会の絆を考える」</p> <p>○「学びの窓」という学習の手引きに、目標を意識した課題が示され、手引きの最後に「ついた力を確かめよう」という表が付されている点に、学習者の自己評価活動を意識した工夫がうかがえる。</p> <p>○目標が各教材の冒頭ページの下段に示されており、学習者に分かりやすい。</p> <p>●国語科の目標として明確でないものがある。 例：「語りの構造から人物関係を捉える」「人物や風景の変化に象徴された時代状況を捉える」</p> <p>●全体的に表現が難解である。 例：「独自の意味を表す表現を捉える」「他者と共有し得る未来への願いを考える」</p> <p>●言語活動を意識した目標はほとんどない。</p>
三省堂	<p>○学習の視点や方法が明確で分かりやすい目標になっている。</p> <p>○目次の次に「領域」「つきたい力」「言語活動」「教材名」を表にまとめた「領域別教材一覧」(つきたい力を確かめよう)が掲載されているのは分かりやすく、工夫された点である。</p> <p>○教材の冒頭ページの下段に絵記号とともに目標が示されているのも分かりやすい。</p> <p>●「内容の理解に役立てる」「理解を深める」など、やや抽象的な表現になっている場合もある。</p> <p>●「読むこと」や古典の学習において言語活動を意識した目標は見られない。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 2 )

<p>教 出</p>	<p>○学習の視点や方法（何に着目して学習するか）が具体的で明確で分かりやすい。 例：「語り手に着目して作品を読み～」「『私』の抱いた『希望』や社会の中での人間の生き方について考え～」「筆者のものの見方や考え方を捉え、知識や体験と関連づけて自分の考えをまとめる」</p> <p>○言語活動を意識した目標がある。 例：「場面や登場人物の設定のされ方、構成や展開に着目し、<u>作品を批評する</u>」 ：和歌の<u>鑑賞文を書く</u></p> <p>○目次の次に「身につけたい言葉の力」「教科書の構成」が示され、その次のページに「教材で扱う内容」の表が示され、言語活動と学習内容の重点が記載されていて分かりやすい。</p> <p>○教材の冒頭ページの下段に「目標」として示されているのも学習者に分かりやすい。</p>
<p>光 村</p>	<p>○学習の視点や方法（何に着目して学習するか）が明確で分かりやすい。</p> <p>○教科書の使い方の説明の次に、表「学習の見通しをもとう」があり、学習内容や身につけたい言葉の力がまとめられていて分かりやすい。</p> <p>○教材の冒頭ページの下段に絵記号とともに目標が示されているのも分かりやすい。</p> <p>●「読むこと」において言語活動を意識した目標は見られない。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 3 )

②基礎的な言語の定着

言語・漢字・文法について基本的な内容を精選して取り上げているか。

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○脚注で新出漢字を取り上げ、音訓と用例を示す。</p> <p>○巻末に「新出漢字一覧」部首や筆順、用例が詳しく載っている。</p> <p>○脚注で調べたい語句をマークで示している。(意味、短文づくり、類義語など)</p> <p>○巻末「言葉を広げよう」は、表現に使えるような語句が分類されて数多く載っており、「書くこと」の学習で参考になるよう工夫されている。</p> <p>○漢字は「漢字道場」、言語は「日本語探検」が設けられ充実している。</p> <p>●文法は、単元間に5回「文法の窓」が入っており(1年生)、巻末の解説と合わせて使うようになっているが、解説のレイアウトが少し扱いにくい。</p>
学図	<p>○脚注には新出漢字の読みのみを示している。新出漢字は教材末に用例とともにまとめられているのみ。</p> <p>●脚注で調べたい語句をマークで示しているが、簡易なものは扱っておらず、数が少ない。</p> <p>●漢字や言語については「漢字を見抜く」「語を見抜く」というコーナーとして単元間にあるが、内容が発展的。基礎的な内容以外にこだわっている。</p> <p>●巻末に「文法の学習」「語句・語彙の学習」があり、ここで学習を深めるようになっているが、説明がやや難解で分かりづらい。</p>
三省堂	<p>○新出漢字、音訓、用例について脚注や教材末にまとめられている。巻末の新出漢字一覧表には、音訓、部首、筆順、用例が示されており、「漢字字典」のように使うことができる。</p> <p>○漢字・語句については「ことば発見」「漢字のしくみ」が設けられ、基礎的な内容にしぼられている。</p> <p>●脚注で調べたい語句をマークで示している。(意味、短文づくり、類義語など)短文作りが少なめ。</p> <p>●「文法のまど」が単元間に2回しかなく(1年生)、巻末の解説でも、簡単な説明しかないので、文法のワークなどで補足が必要。</p>
教出	<p>○新出漢字は、脚注に漢字のみを取り上げ、教材末で音訓、用例を示している。巻末の新出漢字一覧表には、音訓、部首、筆順、用例が示されており充実している。漢字の練習問題も巻末についており、確認できる。</p> <p>○脚注で調べたい語句をマークで示している。(意味、短文づくり、類義語など)</p> <p>△漢字・語句については「漢字の広場」「言葉の小窓」で学ぶが、熟語の構成が1年生に入っているのは、本書のみ。</p> <p>●文法は、「文法の小窓」で身近な言葉について考えさせてから巻末の解説に進むが、先に知識の整理をしないと関連性が分かりにくい。</p> <p>●漢和辞典の使い方についてあまり詳しく示されていない。</p>



様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 4 )

光 村	<p>○脚注に文中の漢字の読みが示されているので音読の支援になる。教材末には新出漢字の音訓，用例が示されている。巻末の新出漢字一覧表には音訓，部首，筆順，用例が示されており，充実している。漢字の練習問題も巻末についており，理解度を確認できる。</p> <p>○脚注で調べたい語句をマークで示している。（意味，短文づくり，類義語など）意味調べはやや少なめ。</p> <p>○「漢字」「言葉」のコーナーが各3回ずつ（1年生）。基本的な内容に絞っている。</p> <p>●「文法への扉」が3回あり，巻末の解説に入る導入となっている。解説の内容はすっきりと図示してあるが，例題がやや少なく，補足が必要。</p>
--------	---

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 5 )

③伝統的な言語文化に関する内容の記述

伝統的な言語文化に関する内容が充実しているか。

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元名「伝統文化に触れる」(1年生)「伝統文化を楽しむ」(2年生) 「伝統文化に親しむ」(3年生)</li> <li>○ 教材は、古文漢文ともに一般的な作品を取り上げている。</li> <li>○ 「古典コラム」で基礎的な事項が確認できる。</li> <li>○ 1年生の導入では「古典に出てくる猫」を挙げ、「猫また」など生徒が興味をもつような工夫がある。</li> <li>○ 巻末に古典作品の冒頭部分が7作品紹介されている。</li> <li>● 漢詩が2年生、論語が3年生での扱いは本書だけ。内容や量を考えると論語から入りたい。</li> </ul>
学図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元名「伝統一時を超えて」(1年生)「伝統一時の中で」(2年生) 「伝統一今に向かって」(3年生)</li> <li>○ 各学年古典のページが占める割合が比較的多い。(3年生では44ページ)</li> <li>○ 古典を学習する意義を意識させる説明があり、意欲を引き出す。</li> <li>● 長く、難解な作品もある。1年生の「宇治拾遺物語」、2年生の「敦盛の最期」の分量が多い。3年生の「遠野物語」は発展的な内容である。</li> <li>● 古文コラムが内容的に深い。「古典芸能」や「本歌取り」などと関連させた学習はやや難しい。</li> <li>● 巻末には「古典文法」「古語」を扱ったページがあるが発展的である。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元名「古典に学ぶ」(全学年共通)</li> <li>○ 1年生の導入では「月を思う心」として暦や和歌を挙げ、「竹取物語」につなげ興味を持たせる工夫がある。</li> <li>○ 古典の関連図書が紹介されている。</li> <li>○ コラムで古典に関する豆知識が紹介されている。</li> <li>○ 巻末に関連する古典作品1~2作品が紹介されている。</li> <li>● 漢文の読み方や漢詩の形式など、基礎的な事項が丁寧に解説されているが、平易な表現・内容でややもの足りない。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元名「古典と出会う」(1年生)「伝統を見いだす」(2年生) 「文化をつなぐ」(3年生)</li> <li>○ 1年生の導入では「古典の扉を開く」として川柳や「東海道中膝栗毛」が紹介され興味を持たせる工夫がある。</li> <li>○ 資料、解説が豊富に入り、巻末にも折り込みに資料がある。</li> <li>○ 教材は、古文漢文ともに一般的な作品を取り上げている。</li> <li>○ 「読んでみよう」で古典の関連図書が紹介されている。</li> <li>● 古典作品を書き写すことと音読することが活動として取り上げられている(全学年・全教材)が、示すべきなのか。</li> </ul>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 6 )

光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元名「いにしえの心に触れる」(1年生)「いにしえの心を訪ねる」(2年生) 「いにしえの心と語らう」(3年生)</li> <li>○ 1年生の導入は「いろは歌」「月に思う」。古典を学習する意義を意識させる始まり。</li> <li>○ 「故事成語を使って体験文を書こう」「古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう」など、言語活動例が学習末に用意されている。</li> <li>○ 資料編で古典芸能や古典名作の冒頭がいくつか紹介されている。</li> <li>● 「漢文を読む」「古典の言葉」など基礎的な事項が解説されているが、詳しくはないので、補足が必要。</li> </ul>
--------	---

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 7 )

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

①興味・関心を高めるための工夫

実生活とつながりのある事柄を取り上げた単元名・教材名・目標・学習活動

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<p>【1年生】</p> <p>〈単元名〉 伝統文化に触れる            〈教材名〉 案内や報告の文章を書こう            〈目 標〉 必要な情報を選び出し、分かりやすい構成でまとめる。            〈学習活動〉 保護者に宛てた合唱祭の案内状を書く活動や合唱祭の結果を学校便りに掲載するつもりで報告の記事を書く。</p> <p>【2年生】</p> <p>〈単元名〉 伝統文化を楽しむ            〈教材名〉 依頼状やお礼状を書こう            〈目 標〉 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方などに注意して推敲する。            〈学習活動〉 職場体験の受け入れ先へ依頼する手紙の推敲作業の次にメモをもとにお礼状を書く。</p> <p>【3年生】</p> <p>〈単元名〉 文章の展開を考える            〈教材名〉 編集して伝えよう            〈目 標〉 ・知識や体験をもとに、構成を工夫し、内容を膨らませて文章を書く。            ・書いた文章を読み返し、推敲して紙面を仕上げる。            〈学習活動〉 グループで課題を決め、材料となる事柄を生かしながら内容を膨らませて冊子を作る。</p> <p>○メモを上段に掲載し、案内状や通信などそれぞれの文章の形式の例を下段に掲載しているので対応させながら確認することができる。            ○同じページ内に「言葉の力」として文章に仕上げていく際のポイントが簡潔に書かれている。</p>
学 図	<p>【1年生】</p> <p>〈単元名〉 伝統一時を越えて            〈教材名〉 隠れた世界を知る            〈目 標〉 身近な出来事を報道文で伝える。            〈学習活動〉 運動会で、自分が見ていないところで友達がどのような仕事をしていたか取材し、記事に書く。</p> <p>【2年生】</p> <p>〈単元名〉 伝統一時の中で            〈教材名〉 意見文を書こう            〈目 標〉 意見を効果的に述べる文章の作り方を知る。            〈学習活動〉 自分が困っていることや問題と思っていることについて意見文を書く。</p> <p>【3年生】</p> <p>〈単元名〉 伝統—今に向かって            〈教材名〉 あのときかもしれない            〈目 標〉 今の自分を生かしているものを見つめる。            〈学習活動〉 同単元内で作成した自分の中学校生活の年表をもとにエッセイを書く。</p> <p>○初めに学習の見通しが示され、その後作業手順が例を交えながら分かりやすく説明されている。            ○意見文では例文の上段に構成が、下段には例文のポイントが書かれている。            ●できあがった作品例の文章が長く高度なもので生徒にはハードルが高く感じられる。</p>

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 8 )

三省堂

【1年生】

〈单元名〉 情報を読み解く

〈教材名〉 目的や相手に応じて、情報を編集する

〈目 標〉 ・目的と相手を明確にして集めた情報を分類・整理して、分かりやすく構成する。

・文章を読み返し、表記や表現の仕方などを確かめて、相手にとって必要な情報が正しく分かりやすく伝わるものにする。

〈学習活動〉 学校行事を案内するリーフレットを作る。

【2年生】

〈单元名〉 思いを伝える

〈教材名〉 分かりやすく、心をこめて書く

〈目 標〉 ・自分の立場と伝えたい事柄や気持ちを明確にして、手紙の形式を踏まえながら構成を工夫して書く。

・相手や目的に応じて、事柄が正しく分かりやすく、気持ちが十分に伝わる書き方になるように推敲する。

〈学習活動〉 手紙を書く。

【3年生】

〈单元名〉 かかわりを捉える

〈教材名〉 論理の展開を工夫して、説得力をもたせる

〈目 標〉 ・論理の展開や引用の仕方を工夫して、説得力のある文章を書く。

・書いた文章を読み返し、語句の使い方、構成、引用の仕方などに注意して文章全体を整える。

〈学習活動〉 歴史上の人物から現代の著名人までの友情に関する文章をもとに、小論文を書く。

○小論文は先人の名言を取り上げており、生徒の興味を引く。また、構想メモの例や小論文の例がそれぞれ2つ示されている。

●リーフレットは作業手順やレイアウトは分かりやすく書いてあるが、作品例がないので、イメージしにくい。

●手紙では例文に職場体験のお礼状が掲載されているが、自分たちが何についての手紙を書くかは示されていない。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 9 )

<p>教 出</p>	<p>【1年生】          〈单元名〉表現に立ち止まる          〈教材名〉行事などの案内文を書く          〈目 標〉・行事の案内文に必要な内容や構成を理解する。                    ・「推敲のポイント」に従って文章を推敲する。          〈学習活動〉合唱発表会の案内文を書く。</p> <p>【2年生】          〈单元名〉伝統を見いだす          〈教材名〉お礼の手紙を書く          〈目 標〉・相手や目的に応じて、お礼の手紙を書く。                    ・「推敲のポイント」にそって手紙を推敲する。          〈学習活動〉職場体験のお礼の手紙を書く。</p> <p>【3年生】          〈单元名〉語りと向き合う          〈教材名〉自己PR文を読み合う          〈目 標〉・中学校生活を振り返り、自己PR文を書く。                    ・文章を読み合い、自分の表現に生かす。          〈学習活動〉自己PR文を書く。          ●作業手順が簡単にしか書いていない。</p>
<p>光 村</p>	<p>【1年生】          〈单元名〉つながりの中で          〈教材名〉調べたことを報告しよう          〈目 標〉・課題に合わせて、集めた材料を整理する。                    ・調べた内容が分かりやすく伝わるように、構成に沿って文章にまとめる。          〈学習活動〉言葉についてレポートをまとめる</p> <p>【2学年】関わりの中で          〈单元名〉気持ちを込めて書こう          〈教材名〉手紙を書く          〈目 標〉・伝えたい内容を明確にし、気持ちや用件が的確に伝わるように表現や構成を工夫する。                    ・手紙の基本的な書き方を知り、相手や目的に応じた手紙を書く。          〈学習活動〉職場体験のお礼状を書く。</p> <p>【3学年】          〈单元名〉視野を広げて          〈教材名〉魅力的な紙面を作ろう          〈目 標〉・内容にふさわしい文章の形態や素材を選び、紙面構成を工夫して書く。                    ・書いた文章を読み返し、文章構成や表現、紙面の体裁を整える。          〈学習活動〉修学旅行記を編集する</p> <p>○作業の流れを上段に掲載し、例や注意事項を下段に掲載しているので対応させながら確認することができる。</p> <p>○同じページ内に「学習の窓」として文章に仕上げていく際のポイントが簡潔に書かれている。</p>

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 10 )

②問題解決的な学習を実施するための工夫

著者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○「言葉の力」でポイントを示している点に工夫が見られ、分かりやすい。</p> <p>○意見文の題材で「基礎・基本」定着状況調査の「活用」に当たるような問題例が取り入れられている。</p> <p>○1年生の「ニュースの見方を考えよう」(池上 彰)を取り上げた単元が情報の吟味という視点で興味深い。</p> <p>○3年生の第3単元は読む領域とのつながりが意識されており、「環境」のミニ雑誌を編集するという課題が単元を貫く言語活動を意識したものになっている。</p> <p>△3年生の批評文は、ポスターの批評を取り上げているが、「単なる好き嫌いや思いつきの感想にしない」という課題がどこまでクリアできるか、実践においてはやや難しい面がある。</p>
学図	<p>○1年生では「読む」と「書く」の領域のつながりが意識されていて発展性がある。</p> <p>○1年生のキャッチコピーをつくる題材や学校新聞をつくる題材が分かりやすく有効である。</p> <p>○3年生ではパブリックスピーキング(講演, プレゼン, スピーチなど)を取り上げている点に興味深く、取り上げられている例も生徒と同年代の少女の例で、内容も素晴らしく、意欲喚起につながる。</p> <p>●3年生の詩の批評文を書くという題材は、「感想文」や「鑑賞文」と「批評文」の違いがいま一つ明確になっておらず、指導しにくい面がある。</p> <p>●3年生のグループ・パネルディスカッションの題材は、難易度が高く、時間もかかり、評価が難しい点が難である。</p>
三省堂	<p>○1年生のレポート作成の題材は「読む」領域とのつながりが意識されており、分かりやすい。</p> <p>○1年生の意見文を書く題材は体験をベースにした学習の流れが分かりやすく、新聞の投書への発展など工夫がある。</p> <p>○3年生の企画会議の題材は会議の例も分かりやすく、注目したい発言が解説付きで示されていて、問題を解決する対話的な手法の学習に大変有効である。</p> <p>○3年生の批評文の教材では、意見文に説得力をもたせるための方法や観点が分かりやすく説明されており、例も生徒にとって身近な内容になっている。</p> <p>●3年生の小論文の学習は、生徒にとって身近な例が取り上げられているが、説得力のある文章にするための手立てが弱い。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 11 )

<p>教 出</p>	<p>○ 3年生の図表などの資料から意見文を書く題材は、構成が分かりやすく示されており、いわゆる「非連続的テキスト」の読解力の養成が意識されている。(ただ、教科書にある例以外にどんな課題をもってきて実際に授業を行うかは個々の教師が考えなければならない。)</p> <p>○ 3年生の第7単元「対話をひらく」は多数決によらない解決方法として「対話」が提示されており、コミュニケーション能力を向上させるための意義ある内容になっている。多田孝志氏の「『対話力』とは何か」という文章には対話の重要性が分かりやすくまとめられており、学級活動や生徒会活動にも生かしたい教材である。話合いの例として地球環境の問題を取り上げている点も適切である。</p> <p>● 1年生の行事案内リーフレット、意見文の題材ともに内容にあまり工夫がなく、取り上げられている例も生徒の興味・関心を喚起する内容とは言えない。</p> <p>● 3年生の批評文の題材として広告のコピーの比較が取り上げられているが、実際に生徒に書かせるときは別の課題を用意する必要がある、また東書の場合と同様に、批評の客観性を指導する面で難しさがある。</p>
<p>光 村</p>	<p>○ 3年生の「評価しながら聞く」という題材は、問題解決の前提としての「聞く力」を鍛える観点から有意義である。</p> <p>○ 第3単元の竹田青嗣氏の「『批評』の言葉をためる」という文章は、興味深い切り口で「批評」について説明されており、生徒の思考力・表現力を高めるうえで、意義ある教材である。</p> <p>○ 3年生の第6単元の「話し合って提案をまとめよう」は課題解決に向けての話合いについて分かりやすくまとめられた題材であり、三省堂の「企画会議」とほぼ同様の内容である。司会(ファシリテーター)の役割への意識づけはやや弱い、次の学習や生活につなげる視点が示されている。</p> <p>○ 3年生の批評文の題材は取り上げられた例文が分かりやすく、説得力のある文章にするための工夫も示されている。実際に生徒に書かせる場合は選材の指導が必要になるが、その際には資料編の「発想を広げる—表現テーマ例集」が活用できる。また、生活や次の学習に生かす視点も示されている。</p> <p>● 1年生の説明文やレポートの題材はやや工夫・新鮮味に欠け、生徒の興味・関心の喚起という点で例がいま一つである。</p>



様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 12 )

③見通しを立てたり、振り返ったりする学習のための活動の工夫

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○「領域別学習材一覧」で1年間の各領域の学習目標が示され、生徒向けの「これから1年間で学ぶこと」で学習の流れを親しみやすく図示している。</p> <p>○巻末の「言葉の力一覧」には3年間で付ける力が系統立てて書かれている。</p> <p>○教材冒頭に学習目標とその解説が示されている。学習方法（何に着目して学習するか）が明確な目標である。</p> <p>○「話す・聞く」「書く」領域では、学習の流れが示され、見通しがもてる。下段には解答例や題材例、付けたい言葉の力が詳細に示してある。</p> <p>○振り返りでは、付けたい力がついたか具体的に確認できるよう、振り返る視点を明らかにして自己評価させている。</p> <p>○「書く」領域では、教材末にさらに確かめの課題があり、検証や評価に使うことができる。</p> <p>○「読む」領域では、初めと終わりに目標があり、教材末に「てびき」として目標に関する設問が示してある。「言葉の力」で学習のポイントも確かめられる。</p>
学図	<p>○「読む」領域では、初めに目標が示されており、最後に「学びの窓」としてついた力を確かめる設問が書き込み式で設けられている。また、教材末に「ついた力を確かめよう」という自己評価表があり、「言葉の力」「考える力」「知識や技能」について振り返りができる。</p> <p>●「書く」領域では、目標が明記されておらず、活動内容のみである。</p> <p>●作品例や参考例が少なく、また難しく適切ではないものもある。</p> <p>●一年間で学ぶ内容が領域別にまとめられていないので、見通しをもちにくい。</p> <p>●単元の扉に、言葉にこだわった抽象的な目標があるが、分かりにくい。</p> <p>△振り返りがない教材もある。ある場合も、学習者に何がポイントか話し合ったり書かせたり自分で考えさせる形になっている。</p>
三省堂	<p>○「領域別学習材一覧」で1年間の各領域の学習内容が示され、学習指導要領に即して見通しを持つことができる。</p> <p>○巻末の折り込みに3年間で学んだ「読み方を学ぼう」がまとめてあり、振り返ったり生活や読書に生かしたりできるようになっている。</p> <p>○学習方法（何に着目して学習するか）が明確な目標である。</p> <p>○「話す・聞く」「書く」領域では、学習の流れが示され、見通しがもてる。下段には学習のポイント、が詳細に示してある。参考、思考ツールの例などが豊富に用意されている。</p> <p>○「読む」領域では、初めと終わりに目標があり、教材末に「学びの道しるべ」として目標に関する設問が示してある。</p> <p>●振り返りでは、「目標を確認し、ポイントをメモしておこう」と活動が指示してあるのみで、自己評価はできない。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 13 )

<p>教 出</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「話す・聞く」「書く」領域では、学習の流れが上段に示され、見通しが持てる。活動のポイントは、作品例の中で示してあり、参考にしやすい。</li> <li>○学習方法（何に着目して学習するか）が具体的で明確な目標である。</li> <li>○「読む」領域では、初めと終わりに「目標と振り返り」があり、教材末に「みちしるべ」として目標に関する設問が示してある。</li> <li>●「話す・聞く」「書く」領域では、学習過程における説明が少なく、活動の見通しが持ちにくい。</li> <li>●巻頭の「教材で扱う内容」で言語活動、学習の要点が示され、巻末の「領域別教材目標一覧」で1年間の各領域の学習目標が示されているがまとめてあった方が見やすい。</li> <li>●教材冒頭に「目標と振り返り」が簡単に示されているが、教材末に振り返りが無いため、自己評価できない。</li> </ul>
<p>光 村</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「領域別学習材一覧」では、1年間で付けたい力、言語活動が示されており、見通しがもてる。</li> <li>○教材冒頭に学習目標、教材末に振り返りが示されている。</li> <li>○「話す・聞く」「書く」領域では、学習の流れが示され、見通しがもてる。下段には学習のポイントや例、用いるとよい語例が詳細に示してある。モデル文は書き方を学べるようになっている。</li> <li>○学習方法（何に着目して学習するか）が明確な目標である。</li> <li>○振り返りでは、付けたい力が付いたか具体的に確認できるよう、振り返る視点を明らかにして自己評価させている。</li> <li>○「書く」領域では、教材末にさらに確かめの課題があり、検証や評価に使うことができる。</li> <li>○「読む」領域では、初めと終わりに目標があり、教材末に「学習」として目標に関する設問が示してある。「学習の窓」で学習のポイントも確かめられる。</li> </ul>

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 14 )

(3) 内容の構成・配列・分量

①単元・教材等の配列（学年に応じて選ばれているか）

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本文、「基礎編」「資料編」の3部からなり、「基礎編」は、「学びを支える言葉の力」についての練習問題も豊富である。</li> <li>○各学年、発達段階に応じて教材が取り上げられており、3年間で系統的に学習できるようになっている。</li> <li>○資料編は、「読むこと」「古典」「話すこと・聞くこと／書くこと」「言葉の資料」で構成されており、内容豊富である。</li> <li>○「領域別 学習材一覧」があり、目標が示されているので、どの教材で学習指導要領のどの指導事項を指導するのか、把握しやすい。</li> </ul>
学図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「読むこと」の学習は、第一教材・第二教材・選択教材と、段階を踏んで構成されている。</li> <li>●1年生の「読むこと」のページが195ページあり、量が多い上に、難解な教材が多い。</li> <li>●目標等、一覧できるページがないので、どの教材で学習指導要領のどの指導事項を指導するのか、把握できない。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年、発達段階に応じて教材が取り上げられており、3年間で系統的に学習できるようになっている。</li> <li>○「読むこと」教材の後ろや前に「読み方を学ぼう」が配列されており、同じような作品を読むとき活用することができる。</li> <li>○「領域別教材一覧」があり、付きたい力が示されているので、どの教材で学習指導要領のどの指導事項を指導するのか、把握しやすい。</li> <li>●「領域別教材一覧」の「言語（文法・漢字など）」の表では、教材名が「漢字のしくみ1～3」「文法のまど1・2」としか示されておらず何を学習するのか分からない。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年、発達段階に応じて教材が取り上げられており、3年間で系統的に学習できるようになっている。</li> <li>○小学校、高等学校との接続を意識している。1年生では、単元に入る前に「言葉と出会う」が設定され、「小学校で学んだこと」「中学校で学ぶこと」を意識させることができる。3年生では、最後の単元で、今までの学習を振り返り、さらにこれからの社会で求められる力について意識させることができる。</li> <li>○最初に「教材で扱う内容」があり、「学習内容の重点」で、学習指導要領の指導事項が確認でき、言語活動についても一覧できる。</li> <li>●文法は、1年生で「単語のいろいろ」まで学習し、2年生から各品詞について詳しく学習するようになっており、2年生で学習する内容が多い。</li> <li>●調査した教科書のうち、教出のみ「漢字の成り立ち」を2年生で学習する。</li> </ul>

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 15 )

光 村	<p>○各学年発達段階に応じて教材が取り上げられており、3年間で系統的に学習できるようになっている。1年生の冒頭に小学校での学習事項を確認できる単元が設定されている。</p> <p>○小学校、高等学校との接続を意識している。</p> <p>○2年生、3年生の最初に前の学年で学習した内容についてまとめられている。3年生の最後には、「3年間の言葉の力を確かめよう」があり、身に付けた言葉の力を確認することができる。</p> <p>●3年生の「書くこと」の言語活動に「修学旅行記を編集しよう」があるが、ほとんどの学校が2年生で修学旅行に行くので、そのままでは使えない。</p>
--------	--

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 16 )

(3) 内容の構成・配列・分量

② 発展的な学習に関する内容の記述

発行者名	意 見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<p>○ 2年生の短歌の学習(鑑賞)のあとに、「書く」学習として発展的に創作の題材「短歌のリズムで表現しよう」が組まれている。※3年生の俳句も同様</p> <p>○ 「読む」学習の最後に「読書案内」として同じ作家の作品や似た内容の作品が紹介され、その中のいくつかが巻末の資料編に収録されているので、比較の対象として、あるいは発展的に読ませることができる。</p> <p>○ 古典に関しても、巻末の資料編に、教科書のために書き下ろされた解説などが掲載されており、発展的な学習に生かすことができる。</p>
学 図	<p>○ 各単元はまず初めに「読む」学習として2～5の教材が設定され、その後に発展的に扱えるよう選択教材が設定されている。</p> <p>○ 単元構成として、「読む」学習の教材の後に「活動を考える」という題材(コラム)が設定され、その次の「話す・聞く」あるいは「書く」といった表現活動への橋渡し(準備)になっている点が工夫されている。</p> <p>○ 第4単元の古典の単元は、古典解説から入り、いくつかの教材の後に「古典読書」として発展的な解説の教材が設定されている。</p> <p>○ 巻末の「言語の学習」に<u>全学年共通の内容</u>で古典文法と古語の解説が掲載され、発展(中学校で学習すべき内容を超越する内容)という説明がついている。</p>
三省 堂	<p>○ 各教材の学習の手引き「学びのみちしるべ」の最後に「学びをひろげよう」というコーナーがあり、言語活動へつなぐ発展的な学習が提示されている。</p> <p>○ 「書く」学習に「やってみよう」というコーナーがあり、発展的な学習が示されている。</p> <p>○ 巻末の「資料編」に「読書の広場」や「考える広場」が設定されており、古典も含め、本編と関連させて読書の幅を広げ、発展的な学習を行うことができるよう工夫されている。</p>
教 出	<p>○ 各教材の学習の手引き「みちしるべ」の中にいくつか「書く」「話す・聞く」といった表現活動に発展させるような課題が提示されている。</p> <p>○ 巻末の「言葉の自習室」に、読み比べたり、読み広げたりできる教材が古典も含めて紹介されており、発展的な学習に生かすことができる。</p> <p>○ 巻末に「学びのチャレンジ」として、本編の教材と関連させて、「読んだり、話したり聞いたりしながら、考える力や目的に応じて判断する力、表現する力を高めていくための問題」が設定されており、発展的な学習に生かすことができる。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 17 )

光 村	<p>○「話す・聞く」「書く」領域の学習には「次へつなげよう」というコーナーが設定されており、「生活に生かす」「他教科に生かす」という形で発展的な言語活動が提示されている。</p> <p>○教材によっては、「読む」学習を「書く」学習に発展させる課題が設定されている。</p> <p>○巻末に「学習を広げる」として、古典も含めて読み比べたり読み広げたりできる教材や学習に関わる資料が掲載されており、発展的な学習に生かすことができる。</p>
--------	---

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 18 )

(4) 内容の表現・表記

①本文記述と関連づけがなされた図表等の挿入

発行者名	特 徴 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○図表などがカラーで示されている。</p> <p>○図表・折れ線グラフ・棒グラフ・分布図と文章が関連づけられた題材がある。 「スズメは本当に減っているか。(1年生)」「鯉節(2年生)」 →本文に関連づけたイラストによる説明もあり、生徒の理解の手助けとなる。また、その効果や関連・意図について考えることもできる。</p>
学 図	<p>○内容の補助となる写真が多く載せられている。「ものづくりにいきる」「変わる動物園」</p> <p>●図表・グラフと関連づけた読解をする目標の教材がない。(全学年) →図表グラフの活用の見本となる教材がなく、指導の上では、別教材の必要を感じる。</p>
三省堂	<p>○棒グラフが挿入された教材が2題ある。そのうち1題は、本文と関連のあるグラフになっている。「食感のオノマトペ(1年生)」</p> <p>○図表やグラフの活用の仕方が巻末にある。(学ぶ力を高めよう。) →図表やグラフを関連づけた作品はやや少ない。グラフバリエーションも少ない。</p>
教 出	<p>○写真と文章の関連を考える単元がある。「メディアと表現(1年生)」</p> <p>○文章と円グラフ・帯グラフ(アンケートの結果・調査結果)が関連づけられた教材が2題ある。「言葉の揺れを考える(1年生)」, 「花の形に込められたふしぎ(1年生)」→学びのチャレンジ。</p> <p>○各学年に、図表を活用した教材が仕組まれている。 →説明文全体を通して、図表と本文記述がマッチしている。グラフ等の挿入の効果や活用に向けた基礎的学習ができる。</p>
光 村	<p>○図・表・グラフと関連付けた教材が2題《短文・長文》「大根は大きな根」「落ち穂拾い」があり、その意味について考える単元がある。(1年生) 「生物が記録する科学」(2年生)</p> <p>○巻末の資料の工夫として、図・グラフの特徴についてまとめられている。(資料の工夫) →本文読解の補助となる写真や図・グラフが挿入されており、レポート作成等と結びつけた指導が考えられる。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 19 )

②巻末資料の示し方

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○テーマ別表現事例集があり、生徒の各活動やスピーチ等の手助けになる。</p> <p>○文法では、細かな使い分けが特集されている。紛らわしい文法を押さえる場合には有効。</p> <p>○ノートの取り方が記載されている。</p> <p>○発展的学習につながる追加教材が多様で豊富。特に書評。古典作品冒頭。</p> <p>●基本文法については、用語のみの説明のまとめとなっており、授業では扱いづらい。</p>
学図	<p>○古語一覧がかなり詳しく説明されており、古語辞典としての役割も果たす。</p> <p>●常用漢字のみ記載。読みのみ。漢字の学習と結びつけることが難しい。</p> <p>●文法は表でまとめられているが、使用語句の専門性が高く、生徒にとっては理解しづらい。補足教材が必要。</p> <p>●語彙の特集があるが、必要性を感じない。</p>
三省堂	<p>○《読み方をまなぶ》多様な文章の読解のポイントや図式化した読みについて端的にまとめられたものが全学年載せられている。</p> <p>○文法のまとめは、例文中心に端的にまとめられていて、授業に活用しやすい。</p> <p>○新出漢字一覧については、同義語・対義語が記載されている。</p> <p>○名作紹介が年表の形となっていることで分かりやすい。</p> <p>●文法練習問題は、他教材に比べやや少なめ。</p> <p>●古典作品が多く載せられていることは、良くもあるが、やや偏りが見られる。</p>
教出	<p>○敬語についてのまとめが段階的に説明されている。</p> <p>○各単元の発展的学習の指針となる《学びのチャレンジ》がまとめられている。</p> <p>○これまで教科書教材となった書籍が紹介されている。</p> <p>○単元ごとの読み書き問題が付属しており、生徒の自主学習等への活用が考えられる。</p> <p>○新出漢字には、熟語・例文が多く記述されている。(漢字に関する付録最多)</p> <p>○発展課題となる教材もバランスよくつけられている。</p> <p>○文法については、例題がやや少ないが、簡易な言葉で説明されている。</p>
光村	<p>○感想を表す言葉のコーナーがあり、生徒が作文を書く際の手立てとなり得る。</p> <p>○表現テーマ例集が充実しており、発展的学習の題材として身近なものが多く上げられている。</p> <p>○読書感想文の書き方については光村のみ記載されている。</p> <p>○漢字の補足として四字熟語・慣用句を中心に記載されている。</p> <p>●文法のまとめは文の成分と語と語の関係が混ざっているなどやや分かりにくい。</p>



様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 20 )

(5) 言語活動の充実

① 読書と情報活用

読書に関わる内容及び紹介されている書籍数等  
情報活用に関わる内容

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )		
東 書	【読書に関わる内容及び紹介されている書籍数等】		
	○各学年とも、本編作品の後に「読書案内」として、出展作品やその作家の他の作品、テーマに関する他の作家の作品を1～3冊紹介している。		
	○各学年とも、本編に読書単元「読書への招待」を設定し、3作品を掲載している。その後に「読書案内」として作品のテーマに関する15～20冊の書籍を紹介している。		
	○各学年とも、資料編に「本と出会おう」としてテーマ毎に分類した書籍紹介を掲載している。		
	書籍紹介数 3学年合計で305冊		
	○各学年とも資料編に「読書活動を楽しもう」として、読書活動に関する教材を掲載しており、作成の手順や教科書内の関連するページ、作品例が簡潔にまとめられている。		
	1年生	・読書カード作成	・本紹介のポスター作成
	2年生	・本の広告カード作成	・ミニ読書会
	3年生	・ビブリオバトル	・自分の読書傾向の把握
	【情報活用に関わる内容】		
	○各学年とも、本編に、情報活用に関する単元を設定し、それぞれ1作品を掲載している。さらに「てびき」で、カラー写真や比較記事を利用するなど発展的な書く活動の教材を掲載している。		
	○1年生・2年生には、同単元内に「情報発信」として、書く活動の教材を掲載しており、作成の手順や作品例が簡潔にまとめられている。		
1年生	ニュースの見方を考えよう (情報活用)		
	学校新聞の記事を書こう (書く活動)		
2年生	「正しい」言葉は信じられるか (情報活用)		
	タウン誌の記事を推敲しよう (書く活動)		
3年生	いつものように新聞が届いた (情報活用)		
○資料編では、1年生に情報活用に関する教材が掲載されている。			
1年生	情報の調べ方		

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 21 )

学 図	<p>【読書に関わる内容及び紹介されている書籍数等】</p> <p>○各学年とも、本編作品の後に「読書に広げるために」として、出展作品やその作家の他の作品を1～2冊紹介している。</p> <p>○各学年とも、本編に読書単元「読書1」「読書2」を設定し、3～4作品を掲載している。</p> <p>●全体的に掲載図書の本数は少ない。</p> <p>●各学年とも、巻末の「読書案内」で、読書の幅の広げ方が具体的な書籍についての感想と共に紹介しているが、本編中で紹介された作品が中心である。</p> <p>書籍紹介数 3学年合計で99冊</p> <p>●読書活動に関する教材は、書く活動の教材として1学年のみ掲載している。作成の手順や作品例が分かりやすくまとめられている。</p>	
	1年生	・ブックカバー・帯の作成
	<p>【情報活用に関わる内容】☆</p> <p>○各学年とも、本編に情報活用に関する2教材を掲載している。カラー写真や文章を比較するなど書く活動の教材が工夫されている。</p>	
	1年生	発想をひらく・情報を集める 見ることと読むこと
	2年生	情報を読む・世界を編集する 言葉で伝える 手紙とメール
3年生	情報を自分のものとするために 言葉による発見	
三 省 堂	<p>【読書に関わる内容及び紹介されている書籍数等】</p> <p>○各学年とも、本編作品の後に「私の本棚」として、出展作品やその作家の他の作品、テーマに関する他の作家の作品を3～4冊紹介している。</p> <p>●各学年とも、本編に読書単元を設定しているが、1作品のみである。</p> <p>○各学年とも、資料編に「小さな図書館」としてテーマ毎に分類した書籍紹介を掲載している。</p> <p>書籍紹介数 3学年合計で289冊</p> <p>●1年生・2年生では読書活動に関する教材を掲載しているが、手順の説明が不十分であり、数も少ない。</p> <p>●各学年とも、巻末の「読書の広場」では、テーマ毎に書籍が紹介されている。また、「情報探しのヒント」「情報活用のヒント」で書籍の探し方と引用の仕方が紹介されているが、3年生とも同じ内容である。</p>	
	1年生	・読書郵便
	2年生	・本の帯・ポップづくり
	<p>【情報活用に関わる内容】</p> <p>○各学年とも、本編に情報活用に関する1教材を掲載している。また、同単元内に書く活動の教材を掲載しており、カラー写真などを使って作業手順や各手順でのポイントを丁寧に説明している。</p>	
	1年生	食感のオノマトペ 目的や相手に応じて情報を編集する
	2年生	人間はほかの星に住むことができるのか 資料や機器を効果的に活用する
	3年生	情報社会を生きるーメディアリテラシー 観察や分析をとおして、判断する
	○資料編では、全学年に情報活用に関する教材が掲載されているが、3学年とも全く同じ内容である。	
	全学年	情報探しのヒント
		情報活用のヒント

教出	<p><b>【読書に関わる内容及び紹介されている書籍数等】</b></p> <p>○各学年とも、本編作品の後に「読んでみよう」として、出展作品やその作家の他の作品、テーマに関する他の作家の作品を3～9冊紹介している。</p> <p>○各学年とも、本編に読書単元「読書への招待」を設定し、2作品を掲載している。そのうち1作品は近代文学であり、作品の後に「作品解説」として視点をもった作品の読み方を1ページ使って書いている。また、「作者紹介」は、3ページ使って複数の写真や直筆の手紙・原稿、エピソードが紹介されており、生徒が興味を引く作りとなっている。</p> <p>●読書単元の後には、日本の名作を「本の世界へ」として掲載しているが、内容などの解説は書かれていない。</p> <p>○各学年とも、資料編に「各学年のための読書案内」としてテーマ毎に分類した書籍紹介を掲載している。</p> <p style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">書籍紹介数 3学年合計で260冊</p> <p>●読書活動に関する教材は、1年生・3年生の単元3「みちしるべ」において紹介しているが、作業手順は書かれていない。また、第1・2学年では資料編に「本の構造」「十進分類法」を掲載しているが、詳しい説明はない。</p>	
	1年生	・本文以外の情報の見方 ・本の帯・ポップづくり
	3年生	・自分の読書傾向確認シートづくり ・おすすめ本の紹介 ・ビブリオバトル
	<p><b>【情報活用に関わる内容】</b></p> <p>●各学年とも、本編に情報活用に関する1教材を掲載している。複数のカラー写真や映画などを取り上げて興味を引くが、書く学習としては不十分である。</p>	
	1年生	メディア 写真と言葉が生み出す世界ーメディアリテラシー入門ー
	2年生	メディア 物語を読み解くーメディアの解釈ー
	3年生	メディア 情報を編集するしかけーメディアにひそむ意図ー
	<p>○資料編では、全学年に情報活用に関する2教材を掲載しており、メディアを活用する上での注意点が分かりやすく書かれている。</p>	
	1年生	メディアと情報 瞬間を切り取る
	2年生	インターネット利用上の注意点 3つのCと3つのS
3年生	見つめる新聞広告 江戸時代のメディア戦略	

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 23 )

光 村	<p><b>【読書に関わる内容及び紹介されている書籍数等】</b></p> <p>○各学年とも、本編作品の後に「広がる読書」として、その作家の他の作品やテーマに関する他の作家の作品を1～2冊紹介している。</p> <p>○各学年とも本編に読書単元として「読書生活を豊かに」「読書に親しむ」を設定し、2作品を掲載している。また、作家による「読書コラム」を1編ずつ紹介している。</p> <p>○読書単元の後には、「本の世界を広げよう」として特定のテーマ毎に書籍が紹介されている。</p> <p>書籍紹介数 3学年合計で243冊</p> <p>●各学年とも、本編に「読書活動」として、読書活動に関する教材を掲載しているが各学年とも「お薦め本の紹介」である。作成の手順・作品例は簡潔にまとめられている。資料編では、1年生にのみ「読書感想文の書き方」を掲載している。</p>	
	1年生	・私が選んだこの一冊
	2年生	・二年一組のお薦め三十五冊
	3年生	・未来の私にお薦めの本
	<p><b>【情報活用に関わる内容】</b></p> <p>○各学年とも、本編に情報活用に関する1教材を掲載し、その後に「学習」「情報コラム」で情報の活用の仕方や注意点を掲載している。</p>	
	1年生	情報の集め方を知ろう
	2年生	メディアと上手に付き合うために
	3年生	「想いのリレー」に加わろう
	○資料編には、1年生・2年生情報活用に関する教材を掲載している。	
	1年生	<p>情報を集める</p> <p>いろいろな通信文</p>
	2年生	新聞記事を比べよう

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 24 )

(5) 言語活動の充実

② 言語活動の種類

学習指導要領の各領域に示された言語活動例が具体的に示してあるか。

発行者名	特徴 ( ○ 長所 ● 課題 )	
東書	○学習指導要領の言語活動例が網羅されている。 ○本編で学習したことを「学びの扉」で簡潔にまとめ、その後に言語活動を設定している。学習の手順を分かりやすくまとめている。 ○基礎編の「学びを支える言葉の力」で具体例を使いながらトレーニングできる。	
		話すこと・聞くこと
	1年生	3教材 質問ゲーム・スピーチ グループディスカッション
		書くこと
2年生	3教材 吟味して聞く・話し合い プレゼンテーション	6教材 作詩・説明文・意見文 案内文・報告文・学校新聞 鑑賞文
3年生	3教材 評価して聞く・条件スピーチ チャート式討論	4教材 句会・ミニ雑誌・批評文 手紙
学図	●学習指導要領の「話すこと・聞くこと」「書くこと」は言語活動例が2教材掲載されているが少ない。「読むこと」については具体的な言語活動例を示していない。	
		話すこと・聞くこと
	1年生	2教材 スピーチ・インタビュー
		書くこと
2年生	2教材 プレゼンテーション ディベート	2教材 ブックカバー・報道文 物語・作詩・意見文
3年生	2教材 パブリック・スピーキング パネルディスカッション	2教材 批評文・エッセイ
三省堂	○学習指導要領の言語活動例が網羅されている。 ○本編で学習したことを「読み方を学ぼう」で簡潔にまとめさらにそれに続く言語活動で具体例を使いながらトレーニングできる。学習の手順を分かりやすくまとめている。 ○言語活動例が領域間でリンクする構成になっている。 ○資料編「考える広場」で、言語活動を支える学習方法がまとめられている。	
		話すこと・聞くこと
	1年生	4教材 スピーチ・質問・討論ゲーム 即興劇
		書くこと
2年生	3教材 プレゼンテーション パネルディスカッション 対話劇	6教材 レポート・リーフレット なりきり作文・鑑賞文 意見文・学級新聞
3年生	4教材 句会・ブックトーク 企画会議・ワールドカフェ	5教材 創作文・主張文・超訳・手紙 地域情報紙
		4教材 小論文・批評文・紹介文 名言集

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 25 )

教 出	○学習指導要領の言語活動例が網羅されている。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、生徒に密着した学習材を使いながらトレーニングできる。 ○各学年とも、本編に情報活用に関する教材を掲載している。		
		話すこと・聞くこと	書くこと
	1年生	3教材 報告・スピーチ・討論	5教材 随筆・鑑賞文・案内文 意見文・報告文
	2年生	4教材 プレゼンテーション スピーチ・提案・討論	5教材 投書・物語・手紙・意見文
3年生	4教材 講演・自己PR・話し合い 対話	4教材 批評文・意見文・鑑賞文 作品集	
光 村	○学習指導要領の言語活動例がほぼ網羅されている。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、生徒に密着した学習材を使いながらトレーニングできる。		
		話すこと・聞くこと	書くこと
	1年生	4教材 メモを取りながら聞く スピーチ・討論 ポスターセッション	4教材 説明文・レポート・鑑賞文 メッセージ
	2年生	2教材 プレゼンテーション パネルディスカッション	5教材 職業ガイド・手紙・意見文 物語・報告書
3年生	2教材 スピーチ・話し合い	3教材 修学旅行記・批評文・冊子	

様式2

【報告書要約】

中学校国語

著者名	意見（○ 長所 ● 課題）
東書	<p>○教材冒頭に学習の視点や方法が明確でわかりやすい目標が示されている。</p> <p>○実生活とつながりのある、単元を貫く言語活動が意識された課題が設定されており、課題を解決するためのポイントが「言葉の力」に簡潔に示されている。</p> <p>○各学年とも、資料編に「読書活動を楽しもう」として、読書活動に関する教材を掲載しており、作成の手順が簡潔にまとめられている。</p> <p>○古典においては、1年生の導入に生徒が興味を持つような工夫がある。</p> <p>●文法の解説のレイアウトがやや扱いにくい。</p>
学図	<p>○「学びの窓」という学習の手引きに、目標を意識した課題と「ついた力を確かめよう」という表があり、学習者の自己評価活動を意識している。</p> <p>○各単元、初めに「読む」学習として2～5の教材が設定され、その後に発展的に扱えるような選択教材が設定されている。</p> <p>●学習の目標が言語活動を意識したものになっていない。</p> <p>●図表・グラフと関連付けた「読む」教材がない。</p> <p>●「読むこと」の教材が難解で分量も多い。</p>
三省堂	<p>○本編で学習した読み方のスキル（技術）が「読み方を学ぼう」に簡潔にまとめられ、3学年とも巻末の一覧に集約されており、活用できる。</p> <p>○巻末の「資料編」に「読書の広場」や「考える広場」が設定されており、古典を含め、本編と関連させて読書の幅を広げ、発展的な学習を行えるよう工夫されている。</p> <p>○資料編「考える広場」で、言語活動を支える学習方法がまとめられている。</p> <p>●「情報探しのヒント」「情報活用のヒント」で書籍の探し方と引用の仕方が紹介されているが、3学年とも同じ内容である。</p> <p>●「読むこと」や古典の学習において、言語活動を意識した目標は見られない。</p>
教出	<p>○学習の視点や方法が具体的でわかりやすい目標が示されている。</p> <p>○巻末の「学びのチャレンジ」は、本編の教材と関連させて発展的な学習に生かすことができる。</p> <p>○古典は、資料、解説が豊富に入り、巻末にも折り込みに資料がある。</p> <p>●問題解決的な学習の内容に工夫がなく、生徒の興味・関心を喚起する内容とは言えない。</p> <p>●読書活動に関する教材が少なく、活動手順についての詳しい説明がない。</p>
光村	<p>○「次へつなげよう」というコーナーでは、「生活に生かす」「他教科に生かす」という形で発展的な言語活動が提示されている。</p> <p>○古典教材の後に、言語活動が設定されている。</p> <p>○表現テーマ例集が充実している。</p> <p>●「読むこと」において、言語活動を意識した目標は見られない。</p> <p>●古典においては、基礎的な事項が解説されているが、詳しくないので補足が必要。</p>

様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

## 種 目 名 ( 書 写 )

## 【観点ごとの具体的な視点】

## (1) 基礎・基本の定着

 姿勢・執筆法，用具の扱いの示し方

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

 見通しを立てたり振り返ったりする学習のための工夫

## (3) 内容の構成・配列・分量

 学年に応じた題材や資料が配置されているか。

## (4) 内容の表現・表記

 手本の字が平明で学びやすいものであり，挿絵や図及び資料が用いられているか。

## (5) 言語活動の充実

 日常生活に生かされる学習活動が示されているか。



様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 1 )

## (1) 基礎・基本の定着

## 姿勢・執筆法，用具の扱いの示し方

発行者名	特 徴 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の学習内容をふまえ、姿勢を正しく書くことの意義が示されている。</li> <li>○毛筆と硬筆の姿勢で気を付けるべき項目が同じ記述であり、写真(横向き)がある。正しい姿勢と傾いた姿勢の写真とイラストがあり、文字の見え方の違いが示してある。</li> <li>○毛筆・硬筆の持ち方、用具の置き方、片付け方については記述がある。筆の各部の名称、筆以外の用具の扱い方については墨のすり方と筆の構え方について記述がある。</li> <li>○姿勢を正しくする必要性について理由が示されている。</li> <li>○鉛筆・チョークの持ち方について写真とイラストがある。鉛筆を持った状態が分かりやすいように、鉛筆を横から見たところと鉛筆の先から見たところが示されている。</li> <li>○基本の点画の説明に擬態語を用いて筆の動きを分かりやすく示している。</li> <li>●姿勢で気を付けるべき項目は、毛筆・硬筆とも同じである。</li> <li>●基本の点画の「点」が一種類のみ。「縦画」は二種類で、払いがない。</li> </ul>
学 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○姿勢(毛筆・硬筆)、腕の構え方・筆の持ち方(大筆・小筆)の適切な例の写真がある。</li> <li>○墨のすり方が写真とともに示されている。</li> <li>○筆の各部について、名称だけでなく働きの記述がある。</li> <li>●硬筆についての記述は姿勢のみであり、持ち方についての記述が少ない。</li> <li>●筆や鉛筆以外の用具の持ち方としての例がない。</li> <li>●片づけ方の記述がない。</li> <li>●「点」「縦画」は三種類ずつを掲載しているが、基本的な点画の記述が簡潔。</li> </ul>
三 省 堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆の姿勢と構え、持ち方について写真をもとにチェック項目を示している。大筆と小筆の持ち方が写真とともに示してある。</li> <li>○用具の名前・置き方・片付け方はイラストとともに記述があり、用具の扱い方については墨のすり方の記述がある。片づけ方のイラストと記述が詳しい。</li> <li>○鉛筆の望ましい持ち方を、不適切な持ち方と写真で比較して確認できる。ボールペンは持ち方のポイントのみ記述がある。</li> <li>○基本的な点画のポイントとして穂先・軸・筆圧を取り上げ、説明では主に穂先と筆圧について述べている。</li> <li>○基本的な点画の「点」「縦画」は各三種類を掲載。</li> <li>●硬筆の姿勢についての記述がない。</li> </ul>

## 様式 1 - 2

## 【調査研究結果】

No. ( 2 )

教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆の姿勢についてのチェック項目が写真（横向き）とともに記載されている。</li> <li>○用具の置き方，毛筆の持ち方，硬筆の持ち方，墨の持ち方・すり方，片づけ方，硯と筆の各部の名称について，写真とともに示されている。</li> <li>○鉛筆・ボールペンの持ち方について写真がある。</li> <li>○毛筆・硬筆（鉛筆）の持ち方，指の位置が写真付きで示されている。</li> <li>○基本的な点画の説明で，穂先の向きと筆圧が分かるよう写真に穂先の形が書き込まれている。</li> <li>○筆を回す動きの記載があり，基本の点画の指導へつなげやすい。</li> <li>●硬筆の姿勢についての記述がない。</li> <li>●基本の点画の「点」は三種類あるが，「縦画」は二種類で，払いがない。</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆の姿勢と構え方が写真付き（横と正面）で記述されており，チェック項目がある。</li> <li>○用具の置き方，筆の各部の名称，毛筆の持ち方，硬筆の持ち方，片づけ方について，写真とともに示されている。</li> <li>○毛筆・硬筆（鉛筆のみ）の筆記具の持ち方が写真とともに示してある。</li> <li>○基本的な点画の説明で，穂先の向きと筆圧が分かるよう写真の横に穂先の形が書き込まれている。</li> <li>●墨のすり方の記述がない。</li> <li>●硬筆の姿勢についての記述がない。</li> <li>●基本の点画の「点」が一種類のみ。「縦画」は二種類で，払いがない。</li> </ul>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 3 )

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

## 見通しを立てたり振り返ったりする学習のための工夫

発行者名	意 見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習のはじめに」の部分で，3年間の学習内容と学習の進め方，身に付けたい力が示されており，教科書を用いてどのように学習していくか見通しが立てやすくなっている。</li> <li>○学習の目標を示し，「調べよう」「確かめよう」「広げよう」の三段階の活動に分けて学習内容や手順が書かれているので，目的が分かりやすく，見通しが立てやすい。</li> <li>○「学習のポイント」で学習の進め方や学習事項を確認することができる。</li> <li>○毛筆の手本と同一ページに「書くときのポイント」が図入りで示されており，文字を整えて書く学習要素をその場で確認しながら書くことができる。</li> <li>○学習の振り返りのチェック項目が簡潔に示されており，自己評価や相互評価が可能。(できた○・もう少し△)</li> <li>○学習事項について振り返ったり，知識を広げたりすることができるよう，関連した内容が「しょしゃのつぼ」「しょしゃのたね」として掲載されている。</li> <li>●課題ごとに学習の流れが異なっており，課題が変わる度に確認する必要がある。</li> </ul>
学 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2ページ，3ページに「学習の進め方」が示されており，毛筆学習の進め方の見通しが立てやすくなっている。</li> <li>○毛筆・硬筆の注意点を印によって区別し，示している。</li> <li>○課題ごとに注意点が1つから3つ程度に絞られており，気を付けて書くべき点を判断しやすい。</li> <li>○毛筆の小さい手本の中に筆順やとめはね，運筆のスピードなどが示されているので，注意点が見て分かりやすく，指導に生かしやすい。</li> <li>○手本を輪郭で示した図があるので，穂先の動きが分かりやすい。</li> <li>○発展学習用に「書写の窓」が掲載されている。</li> <li>●学習の振り返りのチェック項目は示されているが，直接記入はできない。</li> <li>●3年間通してや学年ごとの目標がないので，見通しを立てたり振り返ったりすることは指導者に任される。</li> </ul>
三 省 堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の目標を示し，「考えよう」「話し合おう」の活動によって生徒に課題解決の方法を考えさせ，「書いて確かめよう」で実際に書くためのポイントを示しており，活動内容や学習の流れが分かりやすい。</li> <li>○筆跡の写真とともに書くときのポイントとなる言葉がまとめられている。</li> <li>○文字や漢字，書写に関する知識を広げるためのコラムや記事が掲載されている。</li> <li>●課題ごとに注意する点をA・B・Cの三点に絞って図示しているが，簡潔な図と説明なので実際の指導には言葉を補うことが必要。</li> <li>●3年生の毛筆については，書き初め以外は「生活に生かそう」の中に示されている小さいものしか手本がない。</li> <li>●学習の振り返りのチェック項目は示されているが，直接記入はできない。</li> </ul>

## 様式 1 - 2

## 【調査研究結果】

No. ( 4 )

教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体の目次とともに各学年の学習の初めに学年ごとの目次が示されていて、学年で学習する内容をとらえやすい。学年ごとの学習の目標も示してある。</li> <li>○書写学習の構図が木のイラストとともに示されている。</li> <li>○書写を学ぶ意義として、初めの扉のページで目的・相手・工夫・方法を必要な場面に応じて書くことの大切さについて示されているので、学習と実生活とのつながりがとらえやすい。</li> <li>○「目標」→試し書き→「考えよう」→「生かそう」→まとめ書き→「振り返ろう」の学習手順を示し、基礎・基本の習得場面から学習や日常生活への活用場面を考えて作られている。</li> <li>○学習の振り返りのチェック項目が簡潔に示されており、自己評価や相互評価が可能。(できた○・もう少し△)</li> <li>○学習事項について振り返ったり、知識を広げたりできるよう、「知ってる!？」が掲載されている。</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目次に中学校3年間の学習の見通しがもてるよう、「3年間の目標」や基本的な学習の流れが掲載されている。</li> <li>○「目標」で学習の見通しをもち、「学習の窓」で文字の特徴や書き方を理解するためのヒントを確認して活動し、「学習を振り返る」で目標が達成できたかを確認するという学習手順が分かりやすく示されている。</li> <li>○学習の振り返りのチェック項目が簡潔に示されており、自己評価や相互評価が可能。(できた○・もう少し△)</li> <li>○「知識・理解の確認」「確認(毛筆)」「応用(硬筆)」「自己評価」が見開きのページで構成されており、基礎・基本の定着を図るための工夫が丁寧である。</li> <li>○発展的な学習について、実生活と結びつける例が明示されている。コラムや資料編(「日常の書式」「活用のヒント」「書写事典」)が豊富である。</li> <li>○毛筆教材の字形の特徴と同じ学習要素がある硬筆課題が設定されている。</li> <li>●3年生の手本数が少ない。</li> </ul>

## 様式 1 - 2

## 【調査研究結果】

No. ( 5 )

## (3) 内容の構成・配列・分量

学年に応じた題材や資料が配置されているか。

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )	毛筆 (教材数) 硬筆 (ページ数)
東 書	<p>○小学校書写との関連や高校書道へのつながりが分かる構成になっている。</p> <p>○言語活動と関連した「生活に広げよう」では、目的や相手に応じて学習過程を示し、作品例も複数提示されている。</p> <p>○生活に生かす内容として、1年生ではがき、手紙、新聞、原稿用紙の書き方を紹介している。2年生では、メモ、ファクス、ポスター、レポート、送り状、のし袋の書き方を、3年生では、ノート、メール、志願理由書、願書などの書き方を紹介。国語の学習に生かせる内容が配置され、ポイントが細かく示されている。それらは「資料編」と関連付けてある。</p> <p>○用紙や用具の選び方や作成するための学習の進め方なども、矢印などを使って構造化されているので指導に生かしやすい。</p> <p>○各学年とも「調べよう」で自分の考えを書いたり、意見交流をしたりできるようになっている。</p> <p>○学年ごとに学習内容を生かした言語活動ができるよう設定されており、学習の手順も示されている。</p> <p>○「資料編」に書写テストを掲載。</p> <p>○「資料編」に「常用漢字表」として常用漢字2,136字の楷書と行書を掲載している。</p> <p>○「人名漢字」一覧も掲載しており、名前の指導に使いやすい。</p>	<p>1年生 毛筆5 硬筆14</p> <p>2年生 毛筆5 硬筆7</p> <p>3年生 毛筆2 硬筆0</p>
学 図	<p>○1年生では楷書→楷書と仮名→行書、2年生では楷書→行書→行書と仮名のように、各単元をはっきり分けて示している。</p> <p>○3年生の「書写を生活に生かそう」で、手紙、はがき、のし袋、送り状、エアメール、原稿用紙、メモの書き方などが紹介されている。</p> <p>○高校での学習に向けて、発展学習として「九成宮醴泉銘」「蘭亭序」、臨書、篆刻が設定されている。</p> <p>●生活に生かす言語活動例が学年ごとに細かく提示されていない。3年生の「書写を生活に生かそう」にほとんどまとめられている。</p> <p>●「資料編」に「漢字一覧表」として常用漢字2,136字の行書のみが掲載されている。</p>	<p>1年生 毛筆8 硬筆12</p> <p>2年生 毛筆8 硬筆3</p> <p>3年生 毛筆4 硬筆0</p>

## 様式 1 - 2

## 【調査研究結果】

No. ( 6 )

三省堂	<p>○1年生「行書で書こう」は1ページで行書と楷書を比較し、隣のページで行書の特徴を確認するつくりになっている。</p> <p>○筆跡の写真とともに書くときのポイントとなる言葉がまとめられている。</p> <p>○各学習の見通しを持つための目標が示され、「考えよう・話し合おう」「書いて確かめよう」「振り返ろう」の流れで、見開きのページで構成されている。</p> <p>○学年とも「考えよう・話し合おう」の活動で、意見交流や話し合いなどの言語活動の過程が示され、言語活動を仕組めるつくりになっている。</p> <p>○学年ごとに「生活に生かそう」「書体を使い分けよう」のページがあり、学校生活や総合的な学習の時間に書写を活用できるようになっている。</p> <p>○「資料編」に手紙、はがき、送り状、のし袋、願書、掲示物、ノート、原稿用紙の書き方を掲載。</p> <p>○「楷書・行書一覧」によって、常用漢字2, 136字の楷書と行書が示されている。</p> <p>●毛筆手本数が少ない。</p> <p>●3年生の毛筆については、書き初め以外は「生活に生かそう」の中に示されている小さいものしか手本がない</p>	<p>1年生 毛筆7 硬筆14</p> <p>2年生 毛筆4 硬筆8</p> <p>3年生 毛筆1 硬筆0</p>
教 出	<p>○書写を学ぶ意義として、初めの扉のページで目的・相手・工夫・方法を必要な場面に応じて書くことの大切さ、身に付ける力について示されているので、学習と実生活とのつながりがとらえやすい。</p> <p>○硬筆の教材には、「竹取物語」「走れメロス」「枕草子」「平家物語」「奥の細道」など、国語の教科書と関連した文学作品が掲載されている。学年に応じて、国語と関連した学習計画が立てやすい。</p> <p>○「目標」→試し書き→「考えよう」→「生かそう」→まとめ書き→「振り返ろう」の学習手順を示し、基礎・基本の習得場面から学習や日常生活への活用場面を考えて作られている。</p> <p>○1年生「楷書と行書の違い『和』」では、楷書と行書を見開きで比較できるようになっている。</p> <p>○「書式の教室」として手紙、はがき、のし袋、エアメール、原稿用紙、国語ノート、メモ、志望理由書、送り状の書き方が紹介されている。</p> <p>○「補充教材集2」として毛筆の補充教材が7つ、硬筆の補充教材が1つある。</p> <p>○「小学校で学習した漢字一覧表」「中学校で学習する漢字一覧表」によって常用漢字2, 136字の楷書と行書が掲載されている。掲載順は部首によるもので、字形の似た漢字を確認したり、部首を組み合わせて掲載されていない漢字を書いたりすることが可能。</p>	<p>1年生 毛筆6 硬筆10</p> <p>2年生 毛筆5 硬筆10</p> <p>3年生 毛筆3 硬筆2</p>

## 様式 1 - 2

## 【調査研究結果】

No. ( 7 )

光 村	○学習の見通しを持つための目標と、学習したことを振り返り次の学習に生かすための項目が示されている。	1年生 毛筆6
	○課題で確認しながら3年間のまとめ（振り返り）ができる。	硬筆6
	○毛筆教材の字形の特徴と同じ学習要素がある硬筆課題が設定されている。	2年生
	○1年生の「行書の特徴」では、行書と楷書を見開きで比較できるようになっている。また、行書の手本は折込になっており、折り込みを開けば、行書の特徴や、楷書と行書の横画の筆遣いの違いを確認できるようになっている。	毛筆5 硬筆4
	○「資料」として「日常の書式」「活用のヒント」「書写辞典」を掲載。「日常の書式」は手紙・はがき・送り状・願書・のし袋・原稿用紙の使い方など、生活に用いる書写。「活用のヒント」は情報の取り出し方、まとめ方、ポスターやレポート、新聞やリーフレットなど、国語科の言語活動や学校行事、総合的な学習の時間と関連付けて活用できる内容になっている。学年や段階に応じて多様な活用ができる。	3年生 毛筆2 硬筆0
	○常用漢字2, 136字の楷書と行書を硬筆で掲載している。	
	○楷書・行書に調和する平仮名・片仮名・数字・アルファベット、部首別行書一覧を硬筆で掲載している。	
	○学年別の手本とは別に、毛筆補充教材を10点掲載しており、学年の学習進度や生徒の学習状態に応じて補充することが可能。	
	●3年生の手本数が少ない。	

## 様式 1 - 2

## 【調査研究結果】

No. ( 8 )

## (4) 内容の表現・表記

手本の字が平明で学びやすいものであり、挿絵や図及び資料が用いられているか。

発行者名	特 徴 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朱と黒の二色の淡墨で筆跡が写真で示されているので、分かりやすい。</li> <li>○中心線や補助線も色を変えて示されている。</li> <li>○単元の初めに原寸サイズの大きな手本があり、平明な文字で示されている。</li> <li>○行書を書くときのポイントを4つ(二, 十, 口, 人)にしぼって示している。</li> <li>○トン・スー・ピタというキャラクターが「調べよう」「確かめよう」「広げよう」の活動を担当し、文字の形、筆の動き、学習の確認等のポイントを示している。</li> <li>○手本にはページの端に書くときのポイントのみまとめて示され、余分なことは書かれていない。</li> <li>○「生活に広げよう」などの活動の紹介に写真やイラストが多用され、活動の手順が図で示されるなどしている。</li> <li>○「資料編」が30ページ近い(99～128ページ)。</li> <li>●筆の動きは写真や絵では示されていない。</li> <li>●写真や図が多く、活動ごとに学習の手順が異なる形で示されているため、統一感に欠け、分かりにくい印象。</li> </ul>
学 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楷書・行書ともに基本点画のページには、淡墨で筆使いを示す写真が掲載されているので、基本を学ぶときに確認して指導することができる。</li> <li>○筆跡は輪郭線で示されており、穂先の向きや筆圧が分かりやすく示されている。</li> <li>○学習内容の最初に手本がまとめて示されていて、見開きの形で大きく見やすい。毛筆の手本はすべて原寸サイズである。</li> <li>○行書の書き方の点画が細かく示されている。</li> <li>○筆順や書くときのポイントは細かく示されている。</li> <li>○朱筆, 筆, 鉛筆を擬人化したキャラクターが振り返りや文字を書くときのポイントを示している。</li> <li>○1年生・2年生の挿絵や写真は少なめで簡易なレイアウト。その分、文字の形に集中しやすいのではないかとと思われる。</li> <li>○3年生の「書写を生かそう」の単位では実際に書写を活用した作品の写真を大きめに掲載している。レイアウトは簡素で見やすい。</li> <li>●「資料編」は10ページで少なめ(111～121ページ)。漢字表は行書のみ。</li> </ul>



## 様式 1 - 2

## 【調査研究結果】

No. ( 9 )

三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体の筆跡は灰色の線で示されている。課題となる文字のポイントになる部分のみ、朱と黒の淡墨で筆跡を示している。</li> <li>○毛筆字形例・硬筆字形例が、手本の近くに掲載されているので、既習事項について振り返りやすい。</li> <li>○「書いて確かめよう」で毛筆・硬筆ともに直接書き込む欄があるので、学習内容を確認することができる。</li> <li>○手本の中に名前を示したものがあり、配置や字の大きさなどを考えて取り組ませることができる。</li> <li>○モジコ・モジオ・考古学者とその助手(トリ)という「書写の探検隊」のキャラクターが学習のヒントを示している。</li> <li>○「生活に生かそう」などの活動の紹介に大きめの写真やイラストを用い、活動の手順を短く簡潔に示している。</li> <li>○学習活動の流れがどの課題でも統一されており、分かりやすい。</li> <li>○「資料編」が30ページある(78～108ページ)。小学校で学習した漢字と中学校で学習する漢字に分け、楷書・行書一覧がまとめてある。</li> <li>●課題となる文字の特徴を、平易な形の図で示しており、分かりやすいが、実際の筆跡は見えにくい。</li> <li>●3年生の学習内容には、書き初めを除くと、大きい毛筆手本がない。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朱と黒の二色の淡墨で筆跡が写真で示されているので、分かりやすい。</li> <li>○中心線と字形の特徴を示す補助線が示されているので、指導に役立てることができる。</li> <li>○手本の文字は平明である。</li> <li>○手本の中に名前を示したものがあり、配置や字の大きさなどを考えて取り組ませることができる。</li> <li>○「行書の筆使い『大』」では筆の動きや行書の筆使いを二色の淡墨の写真で示し、円を描く筆の動きを確認できるようになっている。</li> <li>○生徒の写真や先生・生徒のイラストを用いて学習のヒントなどを示している。</li> <li>○学習内容の示し方が統一されており、分かりやすい。</li> <li>○「学習を生かして書く」などの活動の紹介には大きめの写真が用いられ、例として挙げられている写真も多い。活動の手順や留意点が簡潔に文で示されている。</li> <li>●原寸サイズの手本は楷書の最初のみ示されている。</li> <li>●「資料編」のページはない。</li> </ul>
光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朱と黒の二色の淡墨で筆跡が写真で示されている。筆順の数字はないが、点面の連綿が点線で加えられている。</li> <li>○イラストや写真によって筆脈を確かめることができる。</li> <li>○生徒や動物がイラストで描かれ、「学習の窓」で学習のポイントやヒントなどを示している。</li> <li>○学習内容の示し方が統一されており、分かりやすい。</li> <li>○「行書と楷書の使い分け」など活動のページではイラストや写真を用い、書き込みなどもできるようになっており、使いやすい。</li> <li>○「資料」が50ページもあり、情報の活用の仕方等も掲載されている(59～109ページ)。</li> </ul>

## 様式 1 - 2

## 【調査研究結果】

No. ( 10 )

## (5) 言語活動の充実

日常生活に生かされる学習活動が示されているか。

発行者名	特 徴 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<p>○「生活を豊かにする文字」の単元や「生活に広げよう」のページが各学年に設定されており、その他にも文字の印象や道具の特徴、相手や目的に合わせた書き方を話し合う活動例がある。また、それらは「資料編」と関連付けてある。</p> <p>○生活に生かす活動例の説明が詳しいので、実行しやすい。</p> <p>○メモをとることや箇条書きのポイントなど、国語の学習や他教科での活用ができ、実生活との関連が図れるような工夫がある。</p> <p>○実際の学習や生活と結びつく活動が取り上げてあり、自分で考えることと書写の学習がつながっている。</p> <p>1年生:目標を書こう、年賀状を書こう、書き初めをしよう (はがき、手紙、新聞、原稿用紙の書き方)</p> <p>2年生:好きな言葉を書こう、書き初めをしよう (メモ、ファックス、ポスター、レポート、お礼状、送り状、のし袋の書き方)</p> <p>3年生:書き初めをしよう (ノート、絵はがき、メール、ポスター、卒業制作、志願理由書、願書の書き方)</p>
学 図	<p>○2年生の「硬筆で書いてみよう」の中で、行書と楷書の使い分けの例として、話し合いのメモ、依頼状、聞き取りメモ、告知ポスターなどが挙げられている。</p> <p>○3年生の「書写を生かそう」で、いろいろな筆記具の活用、手紙、はがき、のし袋、送り状、エアメール、原稿用紙、メモ、ポスターの書き方などが紹介され、作品作りの例も挙げられている。</p> <p>●1年生に書写を生活に生かすための記述がない。</p> <p>●2年生の学習の終わりに「活用する場面を考えて書いてみよう」(話し合いのメモ、依頼状)「確かめよう」(聞き取りメモ、お知らせのポスター)は示してあるが、少ない。</p> <p>●3年生の学習の中で「書写を生活に生かそう」として生活に生かす活動が示してあるが、手紙や原稿用紙の書き方のポイントの記述以外は手本(作品)のみ示してある。</p> <p>●考えさせたり、話し合わせたりする課題は明記されていない。</p>

## 様式 1 - 2

## 【調査研究結果】

No. ( 1 1 )

三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「考えよう・話し合おう」の学習活動が設定されているので、言語活動につながるやすい。</li> <li>○学習内容ごとに「生活に生かそう」が設定され、具体的な学習活動が示されている。(行事の目標、本の紹介、手紙、座右の銘、ポスター、卒業記念冊子)複数の紹介形式が提示され、自分で選んで活用できる。</li> <li>○「学習のまとめ」のページが各学年に設定されており、総合的な学習の時間や行事、国語科の指導と関連付けて扱いやすい。</li> <li>○2年生に「書体を使い分けよう」、3年生に「効果的に書こう」の単元があり、生活の場面や身の回りの文字について考えるようになっている。</li> <li>○「資料編」に手紙、送り状、のし袋、願書、掲示物、ノート、原稿用紙の書き方を掲載しており、資料が充実している。</li> <li>1年生:行事の目標を書こう、文化としての「書く」一年賀状と書き初め</li> <li>2年生:手紙を書こう、生活の場面と書体について考えよう、 書の名手たち【発展】</li> <li>3年生:身のまわりの文字の工夫を見つけよう、卒業記念冊子を作ろう</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「考えよう」「生かそう」の学習活動を利用すれば、言語活動につながる。</li> <li>○「学習を生かして書く」課題が各学年に設定されており、書写を生活で生かす例が挙げられている。</li> <li>○学習活動や日常生活に生かして書く場面や例(年賀状、新聞、掲示物、案内状、カレンダー、メッセージカードなど)が示されている。</li> <li>○「書式の教室」として、手紙、はがき、のし袋、エアメール、原稿用紙、ノート、メモ、志願理由書、送り状の書き方が掲載されている。</li> <li>1年生:原稿用紙に書く、レポートの形式に書く、手紙を書く、学校生活に生かして書く、年賀状を書く、書き初めを書く</li> <li>2年生:新聞を書く、掲示物(ポスター)に案内を書く、案内状を書く、書き初めを書く</li> <li>3年生:卒業カレンダー、メッセージカード、書き初めを書く</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○字形のポイントを書き込んだり、読みやすく書くポイントを書き込んだり、仮名との調和を考えたり文字を効果的に使う方法を考えたりするページを利用すれば、言語活動に結び付けることができる。</li> <li>○「情報を集めて整理する」「情報を発信する」ときの書き方の例で、作品とともに書き方のポイントが朱の文字で示されている。生活に生かす活動の仕方について説明が詳しいので、実行しやすい。</li> <li>○「資料」に「日常の書式」として、手紙、はがき、送り状、願書、のし袋、原稿用紙の書き方が掲載されている。</li> <li>○「資料」に「活用のヒント」があり、情報収集、情報発信、読書環境、学校行事について述べられているので、総合的な学習の時間や国語科の学習、学校行事と関連付けて指導しやすい。</li> <li>○目的や相手に合わせて考える場面や課題も明示され、話し合う言語活動につながるやすい。</li> <li>○2年生に「楷書か行書を選択して書こう」、3年生に「目的に応じて効果的に書こう」「学習したことを生かして書こう」の単元があり、生活の場面や身の回りの文字について考えられるようになっている。</li> <li>●3年生の「目的に応じて効果的に書こう」「学習したことを生かして書こう」の単元の内容が少なく、不十分に感じられる。</li> </ul>

## 様式 2

## 【報告書要約】

## 中 学 校 書 写

発着名	特 徴 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆と硬筆の姿勢の項目の記述に写真(横向き)とイラストがあり、姿勢による文字の見え方の違いも示されていて分かりやすい。</li> <li>○「目標→調べよう→確かめよう→広げよう」という学習の手順が示され、活動の見通しが立てやすい。</li> <li>○単元の初めに原寸サイズの大きな手本があり、手本は平明な文字で示されている。</li> <li>○「常用漢字表」だけでなく、「人名漢字」一覧も掲載しており、名前の指導に使いやすい。</li> <li>○「生活に広げよう」の他にも、相手や目的に合わせた道具や書き方について話し合う活動例があり、活動手順などの説明も詳しく、「資料編」と関連付けて使いやすい。</li> <li>●写真や図が多く、活動ごとに学習の手順が異なる形で示されているため、統一感に欠け、分かりにくい印象を与える。</li> </ul>
学 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭(2ページ, 3ページ)に「学習の進め方」が示され、毛筆学習の手順の見通しが立てやすい。</li> <li>○1年生では「楷書→楷書と仮名→行書」、2年生では「楷書→行書→行書と仮名」のように、各単元を明確に分けて示している。</li> <li>○学習内容の初めに手本がまとめて示されている。毛筆の手本はすべて原寸サイズで大きく、見やすい。</li> <li>●硬筆についての記述は姿勢のみで、持ち方についての記述が少ない。</li> <li>●1年生の学習内容に、書写を生活に生かすための記述がない。</li> </ul>
三 省 堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆の姿勢や持ち方等のチェック項目を写真とともに示している。鉛筆の持ち方の適切・不適切も写真で比較して確認できる。</li> <li>○「目標→考えよう・話し合おう→書いて確かめよう」という学習の手順が示され、活動内容が分かりやすい。</li> <li>○「考えよう・話し合おう」では、話し合いの過程が示されており、言語活動を仕組みやすい。</li> <li>○「書いて確かめよう」で、毛筆・硬筆ともに直接書き込む欄があるので、学習内容を確認しやすい。</li> <li>○学習内容ごとに「生活に生かそう」のページがあり、具体的な学習活動が示されている。</li> <li>●毛筆手本数が少ない。3年生では、書き初めを除くと大きい毛筆手本がない。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆の姿勢についてのチェック項目が写真(横向き)とともに記載されている。</li> <li>○「目標→試し書き→考えよう→生かそう→まとめ書き→振り返ろう」という学習の手順が示され、基礎・基本の習得から生活での活用場面まで考えて学習させることができる。</li> <li>○手本の文字が平明である。</li> <li>○部首別に常用漢字が掲載されており、字形の似た漢字を確認したり、部首を組み合わせて掲載されていない漢字を書いたりすることができる。</li> <li>○「学習を生かして書く」課題が各学年に設定されており、書写を生活で生かす例が挙げられている。</li> <li>●原寸サイズの手本は、1年生の楷書の最初だけである。</li> <li>●「資料編」のページはない。</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毛筆の姿勢と構え方が写真(横と正面)とともに記載されており、チェック項目がある。</li> <li>○「目標→学習の窓→筆写→学習を振り返る」という学習の手順が示され、活動の見通しを立てやすい。</li> <li>○「行書と楷書の使い分け」など活動のページは、イラストや写真が用いられ、直接書き込みなどもできるようになっており、使いやすい。</li> <li>○「情報を集めて整理する」「情報を発信する」など、情報を利用する活動例や学習活動の説明が詳しいので、実行しやすい。</li> <li>○「資料」が50ページもあり、国語科の言語活動や総合的な学習の時間と関連付けて、学年や段階に応じた多様な活用ができる。</li> <li>●3年生の手本数が少ない。また、単元の内容も少なく、不十分に感じられる。</li> </ul>

様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

種 目 名（ 社会【地理的分野】 ）

【調査研究の具体的視点】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 生徒の基礎・基本の定着を図るうえで、教科書の記述や单元ごとの内容が適切であるか。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点① 課題を明確にしたうえで、その解決に向けて生徒が調べ方や学び方、見方や考え方を身につけることができるような内容となっているか。

(3) 内容の構成・配列・分量

視点① 生徒にとって理解しやすい内容の構成・配列・分量となっているか。

(4) 内容の表現・表記

視点① 内容の表現・表記が中学生にとってわかりやすいものになっているか。

(5) 言語活動の充実

視点① 生徒が調べたり考えたりしたことを適切に表現させるなど、ことばの力を育てるための工夫がなされているか。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 1 )

## (1) 基礎・基本の定着

発行者	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<p>○世界の各州や日本の地域の導入ページには、学習する地域の面積・人口・GDPが地図とともに示されており、全体像をとらえやすい。（P44 など）</p> <p>○資源エネルギーについて、日本の資源自給率もグラフで示されているなど、資料が充実している。（P162, P163）</p> <p>○竹島、尖閣諸島、北方領土についての特設ページが設けられており、位置だけでなく島の様子まで文で示されている。（P132～P135）</p> <p>○地理の学習を進める上での基礎的・基本的技能を習得する「スキルアップ」のコーナーが随所に設けられている。（P4に一覧表があり、利用しやすい）</p>
教出	<p>○「世界各地の人々の生活と環境」の章（P26～P35）では、それぞれの気候帯ごとに気候分布図が示されており、場所と気候の特色を関連づけて理解するのに適している。</p> <p>●第1編第2章で、各気候帯の特色を知るため雨温図が掲示されているが、日本の雨温図が併記されていないので、気候の特色をイメージしづらい。（例えばP31図③）</p> <p>●アジア州で、中央アジアについての記述がない。（P42～P55）</p> <p>●東南アジアの輸出品目の経年変化の図で、同じ品目を別の色で表現してあるため読みづらい。（P50図④）</p> <p>●日本の各工業地帯・地域の工業生産額を比較する図がないため、各工業地帯・地域の特色を読み取ることができない。（P157）</p>
帝国	<p>○北方領土周辺の国境の変遷が地図でわかりやすく提示されていて、北方領土が一貫して我が国の領土であることがわかりやすい。（P126, P127）</p> <p>●第1部第1, 2章, 第2部第1, 2章では、単元の終わりに「振り返り」のページがなく、単元の学習内容の基礎・基本を振り返るのに不便。</p>
日文	<p>○「世界各地の人々の生活と環境」の章（P14～P23）では、それぞれの気候帯ごとに気候分布図が示されており、場所と気候の特色を関連づけて理解するのに適している。</p> <p>○北方領土周辺の国境の変遷がわかりやすく図示されていて、北方領土が一貫して我が国の領土であることがわかりやすい。（P118）</p> <p>●地図やグラフの読み取りなど、地理の学習を進める上での基礎的・基本的な技能を学習する「スキルUP」が用意されているが、IVにある一覧表が大雑把で、必要な箇所を探すのが困難である。</p> <p>●他社では、裏表紙の見開きに農産物や家畜の写真といった視覚的情報を掲載することで、学習内容のより具体的なイメージの定着を図ろうと工夫しているが、本書にはそのような写真資料がない。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 2 )

## (2) 主体的な学習に取り組む工夫

発行者	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	○「地図にアクセス」のコーナーを50カ所設けて生徒の興味・関心を喚起し、生徒の主体的な学びを促している。（例えばP65など） ○小学校との接続を意識し、各章の最初のページで小学校での学習内容を想起させるよう配慮している。（例えばP5, P21, P43 右上のキャラクターの吹き出しなど）
教出	○各節に1箇所程度「読み解こう」のコーナーを設け、生徒が自主的に学習できるよう工夫している。（P55, P65, P71など） ○ほぼ全ての節末に、その節のテーマに関わる発展的な内容が掲載され、生徒の主体的な学びを促している。（例えばP81など）
帝国	●第1部第3章「世界の諸地域」の各節の節末に発展的課題が設定されていないため、生徒の主体的な学びに結びつきにくい。
日文	○ほぼ全ての節末に、その節のテーマに関わる発展的な内容が掲載されていて、生徒の主体的な学びを促している。（例えばP78） ○ページ下部の「矢印」マークで、小学校で学習した内容を想起させるよう工夫している。（P2, P4, P13など）

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 3 )

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「世界の諸地域」では、各州に住む人々のエピソードが掲載されており、そこで生活する人々の生活をイメージしやすい。（P54, P67, P79, P89, P98, P111）</li> <li>○「世界の諸地域」の各州の最初に、各州を概観する項を設け、これから学習する地域へのイメージ作りに役立つよう工夫されている。（例えば P60, P61）</li> <li>○「日本の諸地域」の全地域で共通の人口分布図・産業分布図が使われており、使い勝手がよい。（例えば P194 図①, ⑤）</li> <li>○「身近な地域の調査」の内容が充実していて、調査の進め方をイメージしやすい。（P264～P281）</li> <li>○巻末の統計資料がグラフ化されており、視覚的に理解しやすい。また、主要な国についてはさらに詳しい資料を準備しているので便利</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末の統計資料がグラフ化されており、視覚的に理解しやすい。</li> <li>●「世界のさまざまな地域の調査」（P112～）の内容が具合性に欠け、調べ学習のイメージがわきにくい。</li> <li>●「身近な地域の調査」（P251～）で「仮説をたてる」段階がなく、課題解決型の調べ学習になっていない。</li> <li>●「災害への備え」（P148～P149）の内容はあるものの、特集ページを組んでいる他社と比較すると、防災に関して内容面で見劣りする。</li> </ul>
帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「世界の諸地域」では、各州に住む人々のエピソードが掲載されており、そこで生活する人々の生活をイメージしやすい。（P46, P53, P67, P70, P80, P96, P107）</li> <li>○「世界の諸地域」の各州の最初に、各州を概観するページを設け、これから学習する地域へのイメージ作りに役立つよう工夫されている。（例えば P50, P51）</li> <li>●巻末に統計資料がないので、本書だけでは学習に必要なデータの検索や比較が難しい。</li> </ul>
日文	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末に「日本の世界遺産」が掲載してあり、興味をもちやすい。</li> </ul>



様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 4 )

(4) 内容の表現・表記

発行者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ヨーロッパ州」で、北大西洋海流と偏西風が表記されており、西岸海洋性気候の特色を理解しやすい。(P62 図④)</li> <li>○「日本の諸地域」において、九州、近畿地方など各地域のテーマ設定の流れが、他社より具体的で分かりやすい。(例えば P183 の後半にある「九州地方の探究テーマは？」を参照)</li> <li>○「世界の諸地域」では、アジア州、ヨーロッパ州など各州の降水量分布図が同一様式になっているため、違う地域を比較しながら理解するのに便利。</li> <li>○本書に記載されている全ての雨温図で、年平均気温が赤の波線で示されており、他の雨温図と比較する際に分かりやすい。(例えば P84 図③)</li> <li>●「世界の諸地域」において、各州に気候分布図が掲載されていないため、農業分布の特色を理解しづらい。(例えば P62 からのヨーロッパ州参照)</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他社と比べて、本文中に出てくる用語に対する関連ページの指示が少ないため、学習内容を互いに関連させながら習得していく上で不便。(例えばヨーロッパ州の「自然の特色」(P68~P69)の部分了他社と比較すると、東書 12 箇所、教出 5 箇所、帝国 10 箇所、日文 7 箇所)</li> </ul>
帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「世界の諸地域」において、各州に気候分布図が掲載されていないため、農業分布の特色を理解しづらい。(例えば P52 からのヨーロッパ州参照)</li> <li>○「解説」コーナーが 58カ所設けられ、本文中に出てくる難しい語句や事柄をその場で分かりやすく説明する工夫がなされている。(例えば P6「世界遺産」)しかし、用語集として見た場合他社と比べて掲載項目数が圧倒的に少ないし、PⅢにある索引があいいうえお順になっていないので、後から探そうとすると煩雑である。</li> <li>●巻末に用語解説がないので、難しい用語に遭遇したとき、生徒が学習内容を理解する上での妨げとなる可能性がある。</li> </ul>
日文	<ul style="list-style-type: none"> <li>●使用するグラフとその解説が離れた場所にあり、見づらい。(P15の「雨温図」とP14の「雨温図の読み取り方」)</li> <li>●第1編第2章だけ、一行が教科書の横幅いっぱいにとってあり、他の章と表記方法が異なるため統一性に欠ける。また、目の横移動の距離が大きくなり、生徒にとって読みづらい可能性がある。(P14~P29)</li> </ul>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 5 )

(5) 言語活動の充実

発行者	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	○調査結果をレポートにまとめる際、7つの構成を意識させるとともに、図や写真を入れることで内容を伝えやすくするための例を示している。
教出	○調査結果をまとめる際、5つの構成を意識させるとともに、図や地図などの資料を適切に載せることでわかりやすく表現する例を示している。
帝国	○調査結果をレポートにまとめる際、6つの構成を意識させるとともに、写真やグラフを入れることで内容を伝えやすくする例を示している。
日文	○調査結果をまとめる際、4つの構成を意識させるとともに、地図やグラフなどを取り入れてわかりやすく表現する例を示している。また、資料の引用の仕方についてのルールも示している。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 5 )

(5) 言語活動の充実

発行者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○調査結果をレポートにまとめる際、7つの構成を意識させるとともに、図や写真を入れることで内容を伝えやすくするための例を示している。
教出	○調査結果をまとめる際、5つの構成を意識させるとともに、図や地図などの資料を適切に載せることでわかりやすく表現する例を示している。
帝国	○調査結果をレポートにまとめる際、6つの構成を意識させるとともに、写真やグラフを入れることで内容を伝えやすくする例を示している。
日文	○調査結果をまとめる際、4つの構成を意識させるとともに、地図やグラフなどを取り入れてわかりやすく表現する例を示している。また、資料の引用の仕方についてのルールも示している。

様式 2

【報告書要約】

中 学 校 社 会 （地理的分野）

発行部	意 見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○竹島、尖閣諸島、北方領土についての特設ページが設けられており、位置だけでなく島の様子まで文で示されている。（P132～P135）</li> <li>○地理の学習を進める上での基礎的・基本的技能を習得する「スキルアップ」のコーナーが随所に設けられている。（P4に一覧表があり、利用しやすい）</li> <li>○「日本の諸地域」（P179～）の7つの地域全てにおいて、地域の追求テーマが具体的に設定され、そのテーマに沿って学習が進み、学習したことをもとにテーマをまとめる設問が設定されている。（例えば P195「中国・四国地方の追求テーマは」→P201「中国・四国地方の学習を振り返ろう」問<sup>3</sup>）</li> <li>○ほぼ全ての節の終わりに「深めよう」のページがあり、その節のテーマに関わる発展的な内容が掲載されていて、生徒の主体的な学びを促している。（例えば P71 など）</li> <li>○小学校との接続を意識し、各章の最初のページで小学校での学習内容を想起させる配慮がある。（例えば P5, P21, P43 右上のキャラクターの吹き出しなど）</li> <li>○「日本の諸地域」において、九州、近畿地方など各地域のテーマ設定の流れが、他社より具体的で分かりやすい。（例えば P183 の後半にある「九州地方の探究テーマは？」を参照）</li> <li>●「世界の諸地域」において、各州に気候分布図が掲載されていないため、農業分布の特色を理解しづらい。（例えば P62 からのヨーロッパ州参照）</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「世界各地の人々の生活と環境」の章（P26～P35）では、それぞれの気候帯ごとに気候分布図が示されており、場所と気候の特色を関連づけて理解するのに適している。</li> <li>○各節に1箇所程度「読み解こう」のコーナーを設け、生徒が自主的に学習できるよう工夫している。（P55, P65, P71など）</li> <li>○ほぼ全ての節末に、その節のテーマに関わる発展的な内容が掲載され、生徒の主体的な学びを促している。（例えば P81 など）</li> <li>●第1編第2章で、各気候帯の特色を知るため雨温図が掲示されているが、日本の雨温図が併記されていないので、気候の特色をイメージしづらい。（例えば P31 図③）</li> <li>●「世界のさまざまな地域の調査」（P112～）の内容が具合性に欠け、調べ学習のイメージがわきにくい。</li> <li>●「災害への備え」（P148, P149）の内容はあるものの、特集ページを組んでいる他社と比較すると、防災に関して内容面で見劣りする。</li> <li>●他社と比べて、本文中に出てくる用語に対する関連ページの指示が少ない。学習内容を互いに関連させながら習得していく上で不利。（例えばヨーロッパ州の「自然の特色」（P68, P69）の部分了他社と比較すると、東書12箇所、教出5箇所、帝国10箇所、日文7箇所）</li> </ul>

帝 国	<p>○北方領土周辺の国境の変遷が地図でわかりやすく提示されていて、北方領土が一貫して我が国の領土であることが分かりやすい。（P126～127）</p> <p>○「世界の諸地域」では、各州に住む人々のエピソードが掲載されており、そこで生活する人々の生活をイメージしやすい。（P46, P53, P67, P70, P80, P96, P107）</p> <p>○「世界の諸地域」の各州の最初に、各州を概観するページを設け、これから学習する地域へのイメージ作りに役立つよう工夫されている。（例えば P50～P51）</p> <p>●第1部第1,2章、第2部第1,2章では、単元の終わりに「振り返り」のページがなく、単元の学習内容の基礎・基本を振り返るのに不便。</p> <p>●第1部第3章「世界の諸地域」の各節の節末に発展的課題が設定されていないため、生徒の主体的な学びに結びつきにくい。</p> <p>●「世界の諸地域」において、各州に気候分布図が掲載されていないため、農業分布の特色を理解しづらい。（例えば P52 からのヨーロッパ州参照）</p> <p>●巻末に用語解説がないので、難しい用語に遭遇したとき、生徒が学習内容を理解する上での妨げとなる可能性がある。</p>
日 文	<p>○「世界各地の人々の生活と環境」の章（P14～P23）では、それぞれの気候帯ごとに気候分布図が示されており、場所と気候の特色を関連づけて理解するのに適している。</p> <p>○北方領土周辺の国境の変遷がわかりやすく図示されていて、北方領土が一貫して我が国の領土であることが分かりやすい。（P118）</p> <p>○ほぼ全ての節末に、その節のテーマに関わる発展的な内容が掲載されていて、生徒の主体的な学びを促している。（例えば P78）</p> <p>○ページ下部の「矢印」マークで、小学校で学習した内容を想起させるよう工夫している。（P2, P4, P13 など）</p> <p>○巻末に「日本の世界遺産」が掲載してあり、興味をもちやすい。</p> <p>●使用するグラフとその解説が離れた場所にあって見づらい。（P15の「雨温図」とP14の「雨温図の読み取り方」）</p>

様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

種 目 名 ( 社会【歴史的分野】 )

【調査研究の具体的視点】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 生徒の基礎・基本の定着を図るうえで、教科書の記述や單元ごとの内容が適切であるか。

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点① 課題を明確にしたうえで、その解決に向けて生徒が調べ方や学び方、見方や考え方を身につけることができるような内容となっているか。

(3) 内容の構成・配列・分量

視点① 生徒にとって理解しやすい内容の構成・配列・分量となっているか。

(4) 内容の表現・表記

視点① 内容の表現・表記が中学生にとってわかりやすいものになっているか。

(5) 言語活動の充実

視点① 生徒が調べたり考えたりしたことを適切に表現させるなど、ことばの力を育てるための工夫がなされているか。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 1 )

## (1) 基礎・基本の定着

著者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○小学校の学習内容が第1章として設けられている。絵・イラストと振り返りのヒントがある。P10・P11には振り返り方の設問がある。 ○重要語句についてゴシック体で明らかにしている。その語句には全てふりがながある。 ●語句の解説は、量が少ない。
教出	○小学校の学習内容は、第1章として設けている。取り上げている分量は少ない。時代ごとではなく、西暦で区切って振り返り方の設問が少ない。 ○重要語句についてゴシック体で明らかにしている。その語句には、ふりがながあるものもないものがある。語句の解説が多い。 ○「現代」で扱われている人物の数 (25人)
清水	●小学校の振り返りが冒頭部分にあるが、文量が少なく一つ一つの絵に対しての解説や考えるヒントがない。また、章として設定されていない。 ○重要語句についてゴシック体で明らかにしている。 ●重要語句にふりがながあるものもないものがある。語句の解説が少ない。 ●学習内容が難しい。P134懐徳堂 P220霧社事件など
帝国	○小学校の振り返りが第1章として設けてある。(P2~P4) ●振り返りの設問が少ない。 ●重要語句にふりがながあるものもないものがある。また、語句の解説は少ない。 ○「現代」で扱われている人物の数 (32人)
日文	○小学校の振り返りが、第1編として設定されている。P7・P8に絵・イラスト・ヒントなどが時代ごとにある。 ○重要語句についてゴシック体で明らかにしている。その語句は全てふりがながある。また、語句の解説も多い。 ○「現代」で扱われている人物の数 (13人)
自由社	●小学校の振り返りについて、P16に人物名が並べられているが、絵・イラストはない。振り返りの方法は「人物カードづくり」である。 ○重要語句について、ゴシック体で明らかにしている。その語句には全てふりがながある。語句の解説の量が多い。 ○「現代」で扱われている人物の数 (28人)
育鵬社	●小学校の振り返りについて序章として扱っているが内容が少ないP9。 ●重要語句についてゴシック体で明らかにしているが、その語句にふりがながあるものもないものがある。語句の解説が少ない。 ○「現代」で扱われている人物の数 (57人)
学び舎	●小学校の振り返りについて冒頭にあるが量が少ない。 ●重要語句についてゴシック体がなく定着しにくい。 ●学習内容が分かりにくく、読み物のようでポイントがつかみにくい。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 2 )

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行社	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○毎時間ごとに課題とまとめが提示されており、そのつながりもある。 ○まとめ方として、年表や地図が提示されている。まとめ方の種類が多い。 ○章のはじめの資料が多く工夫がある。(絵・年表・流れ)
教出	○毎時間課題提示があり、課題とまとめの関連性もある。 ○まとめ方として、年表・地図・資料が提示されている。まとめ方の種類は少ない。 ●章の初めの資料が少ない。
清水	○毎時間の学習課題「まとめてみよう」が提示されているが、その関連性が薄い。 ○まとめ方として、年表・絵・イラストが提示されている。 ●まとめ方の種類は少ない。
帝国	○学習課題は、毎時間提示されている。課題とまとめの関連性では、教科書本文からまとめる方法と説明する方法の2種類を提示している。 ○まとめ方として、年表・資料・地図が提示されている。まとめ方の提示も種類が多い。 ●章の初めの資料はない。
日文	○課題が毎時間ごとに提示ある。「活用」はまとめではなくて、発展的課題になっている。 ○まとめ方として、年表、地図を使った作業を提示している。あるひとつの視点に着目したまとめ方になっている。 ○章の初めの資料が大きく示されている。世界の動きを示す地図資料も用意してある。P14・P15とP16・P17, P58・P59とP60・P61
自由社	○課題について毎時間提示があり、課題とまとめの関連性もある。 ●章末のまとめ方の内容が少ない。まとめ方のヒントになる年表、図、資料などが無い。 ●章の初めの資料が少ない。
育鵬社	○課題が毎時間提示されている。課題とまとめの関連性もある。 ○まとめ方として年表・地図・資料を提示している。その種類も多い。 ○章の初めの資料が多く工夫がある。(海洋国家、鳥の目、虫の目)
学び舎	●各単元に課題の提示がされていない。 ●章末のまとめ方の例が少ない。 ●章の初めの動機付けの資料は多いが、本文とのつながりがわかりにくい。



様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 3 )

## (3) 内容の構成・配列・分量

発行者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○十字軍, ルネサンス, 絶対王政の内容(本文)がある。(P100, P101, P146) ○領土問題について, 詳しく資料を載せてある。 ○防災について詳しく資料を載せている。(P270, P271)
教出	○十字軍, ルネサンス, 絶対王政の内容がある。(P88, P89, P132)
清水	●十字軍の語句は本文にあるが(P91), 内容が少なく資料付きの解説として記載されている。(P61) ルネサンスの内容と絶対王政の内容が少ない。 ○古代では, 人類誕生→日本(先時・縄文)→四大文明→日本(弥生)の配列になっている。 ●領土問題についての資料はない。 ●防災について特に取り上げていない。
帝国	●十字軍, ルネサンスの内容が本文にある。絶対王政の語句・内容がない。 ○領土問題について詳しく資料を載せている。 ●防災について取り上げているが, 量は少ない。(P260)
日文	●十字軍, ルネサンスの内容はあるが, 絶対王政の内容がない。 ●領土問題について地図があるが, 詳しい説明はない。 ○防災について詳しく取り扱っている。(P274, P275)
自由社	●十字軍・ルネサンス・絶対王政の記述がない。 ○飛鳥, 天平文化を同時に扱い, 神話の記述が多い。(P44, P45, P46, P47) ○鎌倉文化・室町文化が続けて取り上げられている。(P102, P103, P104, P105) ●領土問題について, 本文の記述以外に資料などはない。 ○防災について取り扱っている。(P276)
育鵬社	●十字軍, ルネサンスの内容があるが, 本文とは別に「その頃世界は?」というタイトルのページでまとめている。(P80, P104) ○絶対王政の語句について簡単な説明がある。(P156) ○白鳳文化を取り上げている。(P44) ●領土問題について, 本文以外に資料があるが量が少ない。 ○防災について取り扱っていない。
学び舎	●絶対王政, ルネサンス, 十字軍の記述が本文中にない。 ●日本史の内容が細かく多すぎる。 ●領土問題について本文以外の資料などはない。 ○防災について詳しく取り扱っている。(P286, P287)

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 4 )

(4) 内容の表現・表記

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○章の初めに絵，年表があり，資料を示しながらその章で取り上げる時代の流れをつかむように工夫している。 ○資料には番号があり，本文の内容との関連を示す表記がある。
教出	○各ページのタイトルが生徒には分かりやすい。 ●章の初めに資料はあるが少ない。学習する時代の年表もあるが簡素である。 ○資料には番号があり，本文の内容とのつながりを示す表記がある。
清水	○章の初め 1 ページに資料があるが，流れをつかむ工夫は少ない。 ●資料は番号をつけているが，本文の内容とのつながりを示す表記はない。
帝国	○章の初めには資料はないが，時代ごとにタイムトラベル（絵）が 2 ページにわたって提示してある。 ○資料には番号があり，本文の内容とのつながりを示す表記がある。
日文	○編の初めに大きな資料を示している。また，取り扱う時代の年表と，世界の地図資料がある。 ○資料には番号があり，本文の内容とのつながりを示す表記がある。
自由社	●章の初めに資料（絵・写真）はあるが，流れをつかむための工夫は少ない。 ●資料に番号がない。本文の内容とのつながりを示す表記がない。
育鵬社	○章の初めに資料があり，「歴史絵巻」というタイトルで流れをとらえる工夫をしている。 ●資料には番号があるが，本文の内容とのつながりを示す表記はない。
学び舎	●各ページのタイトルは興味の引くものとなっているが，内容がすぐにはわかりにくい。 ●章の初めの資料があるが，年表としては扱えない。 ●資料に本文と関連する表示がない。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 5 )

## (5) 言語活動の充実

発行名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○まとめ方の種類 (11種類) の提示が多く、目的に応じた選択がしやすい。
教出	○まとめ方の種類 (7種類) の提示がやや少なく、ミニレポート作りが中心になっている。
清水	●まとめ方の種類の提示が他社に比べて多い (9種類) が、具体的な指示が少ない。
帝国	○まとめ方の種類の提示が他社に比べてとても多く (13種類) 、目的に応じて選択できる。
日文	●まとめ方の種類の提示が他社に比べて少なく (5種類) 、紙面にまとめることが中心である。
自由社	●まとめ方の種類の提示が他社に比べて多いが (11種類) 、具体的でない。
育鵬社	●まとめ方の種類の提示が他社に比べて少ない。 (6種類)
学び舎	●章末の振り返りに言語活動の内容が少ない。 ●言語活動のスキルに関連した内容のまとめ方の種類 (8種類) が少なく、具体的な内容の提示がない。

様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

## 種 目 名 ( 社会【歴史的分野】 )

## 【調査研究の具体的視点】

## (1) 基礎・基本の定着

視点① 生徒の基礎・基本の定着を図るうえで、教科書の記述や單元ごとの内容が適切であるか。

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点① 課題を明確にしたうえで、その解決に向けて生徒が調べ方や学び方、見方や考え方を身につけることができるような内容となっているか。

## (3) 内容の構成・配列・分量

視点① 生徒にとって理解しやすい内容の構成・配列・分量となっているか。

## (4) 内容の表現・表記

視点① 内容の表現・表記が中学生にとってわかりやすいものになっているか。

## (5) 言語活動の充実

視点① 生徒が調べたり考えたりしたことを適切に表現させるなど、ことばの力を育てるための工夫がなされているか。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 1 )

## (1) 基礎・基本の定着

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○小学校の学習内容が第1章として設けられている。絵・イラストと振り返りのヒントがある。P10・P11には振り返り方の設問がある。 ○重要語句についてゴシック体で明らかにしている。その語句には全てふりがながある。 ●語句の解説は、量が少ない。
教出	○小学校の学習内容は、第1章として設けている。取り上げている分量は少ない。時代ごとではなく、西暦で区切って振り返り方の設問が少ない。 ○重要語句についてゴシック体で明らかにしている。その語句には、ふりがながあるものもないものがある。語句の解説が多い。 ○「現代」で扱われている人物の数 (25人)
清水	●小学校の振り返りが冒頭部分にあるが、文量が少なく一つ一つの絵に対しての解説や考えるヒントがない。また、章として設定されていない。 ○重要語句についてゴシック体で明らかにしている。 ●重要語句にふりがながあるものもないものがある。語句の解説が少ない。 ●学習内容が難しい。P134懐徳堂 P220霧社事件など
帝国	○小学校の振り返りが第1章として設けてある。(P2~P4) ●振り返りの設問が少ない。 ●重要語句にふりがながあるものもないものがある。また、語句の解説は少ない。 ○「現代」で扱われている人物の数 (32人)
日文	○小学校の振り返りが、第1編として設定されている。P7・P8に絵・イラスト・ヒントなどが時代ごとにある。 ○重要語句についてゴシック体で明らかにしている。その語句は全てふりがながある。また、語句の解説も多い。 ○「現代」で扱われている人物の数 (13人)
自由社	●小学校の振り返りについて、P16に人物名が並べられているが、絵・イラストはない。振り返りの方法は「人物カードづくり」である。 ○重要語句について、ゴシック体で明らかにしている。その語句には全てふりがながある。語句の解説の量が多い。 ○「現代」で扱われている人物の数 (28人)
育鵬社	●小学校の振り返りについて序章として扱っているが内容が少ないP9。 ●重要語句についてゴシック体で明らかにしているが、その語句にふりがながあるものもないものがある。語句の解説が少ない。 ○「現代」で扱われている人物の数 (57人)
学び舎	●小学校の振り返りについて冒頭にあるが量が少ない。 ●重要語句についてゴシック体がなく定着しにくい。 ●学習内容が分かりにくく、読み物のようでポイントがつかみにくい。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 2 )

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○毎時間ごとに課題とまとめが提示されており、そのつながりもある。 ○まとめ方として、年表や地図が提示されている。まとめ方の種類が多い。 ○章のはじめの資料が多く工夫がある。(絵・年表・流れ)
教出	○毎時間課題提示があり、課題とまとめの関連性もある。 ○まとめ方として、年表・地図・資料が提示されている。まとめ方の種類は少ない。 ●章の初めの資料が少ない。
清水	○毎時間の学習課題「まとめてみよう」が提示されているが、その関連性が薄い。 ○まとめ方として、年表・絵・イラストが提示されている。 ●まとめ方の種類は少ない。
帝国	○学習課題は、毎時間提示されている。課題とまとめの関連性では、教科書本文からまとめる方法と説明する方法の2種類を提示している。 ○まとめ方として、年表・資料・地図が提示されている。まとめ方の提示も種類が多い。 ●章の初めの資料はない。
日文	○課題が毎時間ごとに提示ある。「活用」はまとめではなくて、発展的課題になっている。 ○まとめ方として、年表、地図を使った作業を提示している。あるひとつの視点に着目したまとめ方になっている。 ○章の初めの資料が大きく示されている。世界の動きを示す地図資料も用意してある。P14・P15とP16・P17, P58・P59とP60・P61
自由社	○課題について毎時間提示があり、課題とまとめの関連性もある。 ●章末のまとめ方の内容が少ない。まとめ方のヒントになる年表、図、資料などが無い。 ●章の初めの資料が少ない。
育鵬社	○課題が毎時間提示されている。課題とまとめの関連性もある。 ○まとめ方として年表・地図・資料を提示している。その種類も多い。 ○章の初めの資料が多く工夫がある。(海洋国家、鳥の目、虫の目)
学舎	●各単元に課題の提示がされていない。 ●章末のまとめ方の例が少ない。 ●章の初めの動機付けの資料は多いが、本文とのつながりがわかりにくい。

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 3 )

## (3) 内容の構成・配列・分量

発行社名	意見（○ 長所 ● 課題）
東書	○十字軍，ルネサンス，絶対王政の内容（本文）がある。（P100, P101, P146） ○領土問題について，詳しく資料を載せてある。 ○防災について詳しく資料を載せている。（P270, P271）
教出	○十字軍，ルネサンス，絶対王政の内容がある。（P88, P89, P132）
清水	●十字軍の語句は本文にあるが（P91），内容が少なく資料付きの解説として記載されている。（P61）ルネサンスの内容と絶対王政の内容が少ない。 ○古代では，人類誕生→日本（先時・縄文）→四大文明→日本（弥生）の配列になっている。 ●領土問題についての資料はない。 ●防災について特に取り上げていない。
帝国	●十字軍，ルネサンスの内容が本文にある。絶対王政の語句・内容がない。 ○領土問題について詳しく資料を載せている。 ●防災について取り上げているが，量は少ない。（P260）
日文	●十字軍，ルネサンスの内容はあるが，絶対王政の内容がない。 ●領土問題について地図があるが，詳しい説明はない。 ○防災について詳しく取り扱っている。（P274, P275）
自由社	●十字軍・ルネサンス・絶対王政の記述がない。 ○飛鳥，天平文化を同時に扱い，神話の記述が多い。（P44, P45, P46, P47） ○鎌倉文化・室町文化が続けて取り上げられている。（P102, P103, P104, P105） ●領土問題について，本文の記述以外に資料などはない。 ○防災について取り扱っている。（P276）
育鵬社	●十字軍，ルネサンスの内容があるが，本文とは別に「その頃世界は？」というタイトルのページでまとめている。（P80, P104） ○絶対王政の語句について簡単な説明がある。（P156） ○白鳳文化を取り上げている。（P44） ●領土問題について，本文以外に資料があるが量が少ない。 ○防災について取り扱っていない。
学び舎	●絶対王政，ルネサンス，十字軍の記述が本文中にない。 ●日本史の内容が細かく多すぎる。 ●領土問題について本文以外の資料などはない。 ○防災について詳しく取り扱っている。（P286, P287）

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 4 )

## (4) 内容の表現・表記

発行者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○章の初めに絵、年表があり、資料を示しながらその章で取り上げる時代の流れをつかむように工夫している。 ○資料には番号があり、本文の内容との関連を示す表記がある。
教出	○各ページのタイトルが生徒には分かりやすい。 ●章の初めに資料はあるが少ない。学習する時代の年表もあるが簡素である。 ○資料には番号があり、本文の内容とのつながりを示す表記がある。
清水	○章の初め1ページに資料があるが、流れをつかむ工夫は少ない。 ●資料は番号をつけているが、本文の内容とのつながりを示す表記はない。
帝国	○章の初めには資料はないが、時代ごとにタイムトラベル（絵）が2ページにわたって提示してある。 ○資料には番号があり、本文の内容とのつながりを示す表記がある。
日文	○編の初めに大きな資料を示している。また、取り扱う時代の年表と、世界の地図資料がある。 ○資料には番号があり、本文の内容とのつながりを示す表記がある。
自由社	●章の初めに資料（絵・写真）はあるが、流れをつかむための工夫は少ない。 ●資料に番号がない。本文の内容とのつながりを示す表記がない。
育鵬社	○章の初めに資料があり、「歴史絵巻」というタイトルで流れをとらえる工夫をしている。 ●資料には番号があるが、本文の内容とのつながりを示す表記はない。
学び舎	●各ページのタイトルは興味の引くものとなっているが、内容がすぐにはわかりにくい。 ●章の初めの資料があるが、年表としては扱えない。 ●資料に本文と関連する表示がない。



様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 5 )

## (5) 言語活動の充実

発着名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○まとめ方の種類 (11種類) の提示が多く、目的に応じた選択がしやすい。
教出	○まとめ方の種類 (7種類) の提示がやや少なく、ミニレポート作りが中心になっている。
清水	●まとめ方の種類の提示が他社に比べて多い (9種類) が、具体的な指示が少ない。
帝国	○まとめ方の種類の提示が他社に比べてとても多く (13種類) 、目的に応じて選択できる。
日文	●まとめ方の種類の提示が他社に比べて少なく (5種類) 、紙面にまとめることが中心である。
自由社	●まとめ方の種類の提示が他社に比べて多いが (11種類) 、具体的でない。
育鵬社	●まとめ方の種類の提示が他社に比べて少ない。 (6種類)
学び舎	●章末の振り返りに言語活動の内容が少ない。 ●言語活動のスキルに関連した内容のまとめ方の種類 (8種類) が少なく、具体的な内容の提示がない。

様式 2

【報告書要約】

中学校社会（歴史的分野）

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の学習内容が第1章として設けられている。絵・イラストと振り返りのヒントがある。P10, P11には振り返り方の設問がある。</li> <li>○重要語句についてゴシック体で明らかにしている。その語句には全てふりがながある。</li> <li>●語句の解説は、量が少ない。</li> <li>○毎時間ごとに課題とまとめが提示されており、そのつながりもある。</li> <li>○十字軍, ルネサンス, 絶対王政の内容（本文）がある。（P100, P101, P146）</li> <li>○防災について、詳しく資料を載せてある。</li> <li>○資料には番号があり、本文の内容との関連を示す表記がある。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校の学習内容は、第1章として設けている。取り上げている分量は少ない。時代ごとではなく、西暦で区切って振り返り方の設問が少ない。</li> <li>○毎時間課題提示があり、課題とまとめが関連性もある。</li> <li>●章初めの資料が少ない。</li> <li>○十字軍, ルネサンス, 絶対王政の内容がある。（P88, P89, P132）</li> <li>●章の初めに資料はあるが少ない。学習する時代の年表もあるが簡素である。</li> <li>●防災について特に取り上げていない。</li> <li>○資料には番号があり、本文の内容とのつながりを示す表記がある。</li> </ul>
清水	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校の振り返りが冒頭部分にあるが、文量が少なく一つ一つの絵に対しての解説や考えるヒントがない。また、章として設定されていない。</li> <li>●学習内容が難しい。P134懐徳堂 P220霧社事件など</li> <li>●毎時間の学習課題「まとめてみよう」が提示されているが、その関連性が薄い。</li> <li>●十字軍の語句は本文にあるが（P91）、内容が少なく資料付きの解説として記載されている。（P61）ルネサンスの内容と絶対王政の内容が少ない。</li> <li>●古代では、人類誕生→日本（先時・縄文）→四大文明→日本（弥生）の配列になっている。</li> <li>○防災について、詳しく資料を載せてある。</li> <li>●資料は番号をつけているが、本文の内容とのつながりを示す表記はない。</li> </ul>
帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の振り返りが第1章として設けてある。（P2～P4）</li> <li>●重要語句にふりがながあるものもないものがある。また、語句の解説は少ない。</li> <li>○学習課題は毎時間提示されている。課題とまとめの関連性では、教科書本文からまとめる方法と説明する方法の2種類を提示している。</li> <li>○まとめ方として、年表・資料・地図が提示されている。まとめ方の提示も種類が多い。</li> <li>●章の初めの資料はない。</li> <li>●十字軍, ルネサンスの内容が本文にある。絶対王政の語句・内容がない。</li> <li>●防災について取り上げているが、量は少ない。</li> </ul>

日 文	<p>○小学校の振り返りが、第1編として設定されている。P7・P8に絵・イラスト・ヒントなどが時代ごとにある。</p> <p>○重要語句についてゴシック体で明らかにしている。その語句は全てふりがながある。また、語句の解説も多い。</p> <p>○まとめ方として年表、地図を使った作業を提示している。あるひとつの視点に着目したまとめ方になっている。</p> <p>●十字軍、ルネサンスの内容はあるが、絶対王政の内容がない。</p> <p>○防災について、詳しく取り扱っている。</p> <p>○編の初めに大きな資料を示している。また、取り扱う時代の年表と世界の地図資料がある。</p>
自由 社	<p>●小学校の振り返りについて、P16に人物名が並べられているが、絵・イラストはない。振り返りの方法は「人物カードづくり」である。</p> <p>○課題について毎時間提示があり、課題とまとめの関連性もある。</p> <p>●章末のまとめ方の内容が少ない。まとめ方のヒントになる年表、図、資料などが無い。</p> <p>●十字軍・ルネサンス・絶対王政の記述がない。</p> <p>○防災について、取り扱っている。</p> <p>●資料に番号がない。本文の内容とのつながりを示す表記がない。</p>
育 鵬 社	<p>●小学校の振り返りについて序章として扱っているが内容が少ない。(P9)</p> <p>○まとめ方として年表・地図・資料を提示している。その種類も多い。</p> <p>○章の初めの資料が多く工夫がある。(海洋国家、鳥の目、虫の目)</p> <p>○章の初めに資料があり、「歴史絵巻」というタイトルで流れをとらえる工夫をしている。</p> <p>●防災について取り扱っていない。</p> <p>●資料には番号があるが、本文の内容とのつながりを示す表記はない。</p>
学 び 舎	<p>●小学校の振り返りについて冒頭にあるが量が少ない。</p> <p>●重要語句についてゴシック体がなく定着しにくい。</p> <p>●各単元に課題の提示がされていない。</p> <p>●章末のまとめ方の例が少ない。</p> <p>●絶対王政、ルネサンス、十字軍の記述が本文中にない。</p> <p>○防災について、詳しく取り扱っている。</p> <p>●資料に本文と関連する表示がない。</p>

様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

## 種 目 名（ 社会【公民的分野】 ）

## 【調査研究の具体的視点】

## (1) 基礎・基本の定着

視点① 生徒の基礎・基本の定着を図るうえで、教科書の記述や單元ごとの内容が適切であるか。

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点① 課題を明確にしたうえで、その解決に向けて生徒が調べ方や学び方、見方や考え方を身につけることができるような内容となっているか。

## (3) 内容の構成・配列・分量

視点① 生徒にとって理解しやすい内容の構成・配列・分量となっているか。

## (4) 内容の表現・表記

視点① 内容の表現・表記が中学生にとってわかりやすいものになっているか。

## (5) 言語活動の充実

視点① 生徒が調べたり考えたりしたことを適切に表現させるなど、ことばの力を育てるための工夫がなされているか。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 1 )

(1) 基礎・基本の定着

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<p>○見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。</p> <p>○単元の終わりに、「学習を確認しよう」が設定され、学習内容の定着を図る課題・設問が配置されている。</p> <p>○「公民にアクセス」が設定されていたり、地理的分野・歴史的分野との関連が示されたりして、学習内容を習得させる工夫がなされている。</p> <p>○対立と合意、効率と公正について身近な学校生活の問題から考えさせる工夫がある。</p>
教出	<p>○見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。</p> <p>○単元ごとに「学習のまとめと表現」が配置され、学習内容の定着を図る課題・設問が配置されている。</p> <p>○世界各国の憲法が記載されている。</p> <p>○シビリアン・コントロールの記述がある。</p> <p>○対立と合意、効率と公正について身近な学校生活の問題から考えさせる工夫がある。</p>
清水	<p>○単元ごとの学習のまとめは、穴埋め問題中心となっている。</p> <p>○重要な語句や補足の必要な語句について、欄外の説明が丁寧になされている。</p> <p>○身近の生活に即した事例や題材が取り上げられている。</p> <p>○対立と合意、効率と公正について身近な学校生活の問題から考えさせる工夫がある。</p>
帝国	<p>○見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。</p> <p>○単元ごとに「学習をふりかえろう」が配置され、一問一答形式の問題と課題を設定した問いや、地理的分野と歴史的分野との関連を図る工夫がなされていて、学習内容を習得させる工夫がなされている。</p>
日文	<p>○見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。</p> <p>○「学習の確認と活用」という学習内容の定着や活用のための問いがあったり、地理的分野・歴史的分野との関連を図った学習が配列されたりしている。</p> <p>○単元の終わりに「学習の整理と活用」が配置されている。重要語句が確認でき、具体的な説明が求められる問いとなっている。</p> <p>○各国の憲法を記載している。</p>
自由社	<p>●1時間の終わりに学習のまとめが掲載されているが、生徒自身の課題として扱いにくい。</p> <p>○単元の終わりに「学習のまとめと発展」として、重要語句の確認、紹介する主な人物と発展的な課題が設定されている。</p> <p>○憲法第9条についての解釈が4つ詳しく掲載されている。</p> <p>○対立と合意、効率と公正について身近な学校生活の問題から考えさせる工夫がある。</p>
育鵬社	<p>○見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。</p> <p>○単元の終わりに「学習のまとめ」として、重要語句の確認や文章表現の課題が設定されている。</p> <p>○シビリアン・コントロールの記述がある。</p> <p>○対立と合意、効率と公正について身近な学校生活の問題から考えさせる工夫がある。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 2 )

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

著者	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<p>○各章の導入に見開きの課題が設定され、興味・関心を持って学習に入る工夫がなされている。</p> <p>○見開きごとの「確認」で学習内容の振り返りや、自分の言葉で短く要約したり、説明したりする言語活動が取り入れられている。</p> <p>○「公民にチャレンジ」、「インタビューコラム」、「深めよう」を設け、小集団による話し合いなどの活動の工夫が図られるようになっている。</p> <p>○コンビニエンスストアの経営者としてのシミュレーションをすることで生徒の興味・関心を高める工夫がされている。</p> <p>○環境問題についてのディベート学習が用意されている。</p>
教出	<p>○学習の流れに即した「読み解こう」のコーナーを設け、グラフや年表、資料の読み取りや考察など、思考力や判断力の育成を重視している。</p> <p>○見開き最後に課題「ふりかえり」を設け、学習の振り返りや発展的な考察を求める課題を提起し、個に応じた学習に取り組める工夫がなされている。</p> <p>○学習内容をさらに深めていく「コラム」が設定されている。</p>
清水	<p>○全編で「深める公民」という資料ページが設けられ、手記、統計資料、図、表などが提示され、生徒のまとめ、学習の整理、課題解決のための材料として活用できる。</p> <p>●課題解決学習が少ない。</p> <p>●裁判員裁判のシミュレーションがない。</p>
帝国	<p>○本時の内容と関連するページが明示されており、学習内容の整理に生かすことができる。</p> <p>○テーマについての賛成・反対意見を載せた「Yes No」という欄を設けたり、「技能をみがく」が設定され、自分の意見を考えるための参考に利用できる。 (例；「タレントのプライバシー保護について」)</p>
日文	<p>○見開きの最初に「学習課題」が提起され、その課題に即した「学習の整理と活用」で学習の定着と活用の課題がさらに提起されている。</p> <p>○各章に課題解決学習をおき、各編の始めに「ナビ」を置いて、学習を見とおす工夫がされている。</p> <p>○環境問題について、みじかな例から考えさせている。</p>
自由社	<p>○年表が充実している。</p> <p>●さまざまな学習方法の提示について、その手法はほとんど提示されていない。</p> <p>●裁判員裁判のシミュレーションがない。</p>
育鵬社	<p>○世界の動きや年表が充実している。</p> <p>○「理解を深めよう」で多様な観点を示しながら本文と関連した事項についての情報の提示がなされている。</p> <p>○学習方法の提示「考えよう」「やってみよう」等の課題解決学習がある。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 3 )

## (3) 内容の構成・配列・分量

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	○各章の初めに学習を見通す内容の時間が設定されている。 ○写真・グラフ・表等の刷新が図られていて、その種類も豊富である。 ○領土問題について、歴史的背景・地図・写真・新聞記事が詳しく提示されている。
教出	○平和主義についての記述が多い。 ○領土問題について、一定の記述がなされている。 ○各国の憲法の平和に関する条文が掲載されている。
清水	○平和主義についての記述が多い。 ○領土問題については、個別の問題についての文章記述はある。 ○憲法第9条や自衛隊との関係など平和や安全保障に関して様々な面からの記載がある。 ●写真・新聞記事が少ない。
帝国	○国際社会に関する内容が充実している。 ○領土問題について、一定の記述がなされている。
日文	○初めにイラスト、資料が配置され、生徒の学習意欲を高める工夫がある。 ○小学校、地理・歴史的分野との関連を図る発問や「連携コーナー」が設定されている。 ○領土問題について、一定の記述がなされている。 ○各国の憲法の平和に関する条文が掲載されている。
自由社	○領土問題については、見開き2ページで扱っている。 ○憲法第9条の解釈を4つ掲載している。 ●地図・写真・新聞記事が少ない。
育鵬社	○領土問題について、歴史的背景・地図・写真・新聞記事が詳しく提示されている。 ○各国の憲法の平和に関する条文が掲載されている。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 4 )

## (4) 内容の表現・表記

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	○地図や現代史年表、重要語句の解説が添付されている。 ○地図やグラフなどの図表は、見やすい色を使用している。
教出	○世界地図、現代史の年表が組み込まれている。 ○各ページに重要語句などの解説がおかれている。
清水	○世界地図、現代史の年表が添付されている。
帝国	○第二次世界大戦後の年表が添付されている。 ○グラフや地図は、色調の違いや地紋を用いることで判別しやすくしている。
日文	○世界地図、現代史の年表が添付されている。 ○写真・図表の掲載が多い。
自由社	○重要語句などの解説がおかれている。 ○関連した内容の記載ページを語句の下に示している。 ○年表が充実している。
育鵬社	○各ページに重要語句などの解説がおかれている。



様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 5 )

(5) 言語活動の充実

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<p>○毎時間の「確認」マークのところで、キーワードを示し、「箇条書きでまとめよう」など言語活動を意識した課題設定がされている。</p> <p>○章の始めと終わりに、その章での学習についての課題が設定され、まとめる、書く、意見を発表するなどの活動が仕組まれている。</p>
教出	<p>○各章に1つ、言語（表現）活動についてのテーマが設定され、「ディスカッション」、「ディベート」「プレゼンテーション」等様々な方法が例としてあげられている。</p> <p>○「特設ページ」という言語活動を意識した、内容を深化させるような課題の設定がされている。</p>
清水	<p>○既習内容を活用して解決していく課題が設定されている。</p>
帝国	<p>○章末には、「学習をふりかえろう」が配置され、言語活動を意識した課題が設定されている。</p> <p>○見開きごとに「説明しよう」が設定され、表現力の育成が図られている。</p>
日文	<p>○見開きごと「学習の活用」が配置され、具体的な説明（文章や箇条書き）が求められる問いとなっている。</p> <p>○各章に「チャレンジ公民」「情報スキルアップ」「アクティビティー」「学習の整理と活用」という課題解決の設定がされている。</p>
自由社	<p>○章末の「学習のまとめと発展」のところでは、既習内容を整理する課題を設定している。</p> <p>○「発展」として、各章にかかわる4つの課題から1つを選択し、400字でまとめる発展的な学習が提示されている。</p>
育鵬社	<p>○「やってみよう」というページで課題が設定され、「ディベート」、「レポートの作成」などが例としてあげられている。</p> <p>○各章末に「学習のまとめ」が1ページ置かれ、そこには、「課題についての自分の意見をまとめ、意見交流する」という言語活動を意識した設問が提示されている。</p>

様式 2

【報告書要約】

中学校社会（公民的分野）

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。</li> <li>○単元の終わりに「学習を確認しよう」という学習内容の定着を図る課題が配置されている。</li> <li>○「公民にチャレンジ」、「インタビューコラム」、「深めよう」を設け、小集団による話し合いなどの活動の工夫が図られるようになっている。</li> <li>○コンビニエンスストアの経営者としてのシミュレーションや環境問題についてのディベート学習など、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。</li> <li>○写真・グラフ・表等の刷新が図られていて、その種類も豊富である。</li> <li>○領土問題について、歴史的背景・地図・写真・新聞記事が詳しく提示されている。</li> <li>○地図や現代史年表、重要語句の解説が添付されている。</li> <li>○毎時間の「確認」マークのところで、キーワードを示し、「箇条書きでまとめよう」など言語活動を意識した課題設定がされている。</li> <li>○章の始めと終わりに、その章での学習についての課題が設定され、まとめる、書く、意見を発表するなどの活動が仕組まれている。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。</li> <li>○單元ごとに「学習のまとめと表現」があり、学習内容の定着を図る課題が配置されている。</li> <li>○学習の流れに即した「読み解こう」のコーナーを設け、グラフや年表、資料の読み取りや考察など、思考力や判断力の育成を重視している。</li> <li>○見開き最後に課題「ふりかえり」を設け、学習の振り返りや発展的な考察を求める課題を提起し個に応じた学習に取り組める工夫がなされている。</li> <li>○平和主義についての記述が多く、シビリアン・コントロールや各国の憲法が掲載されている。</li> <li>○世界地図、現代史の年表が組み込まれている。</li> <li>○各章に1つ、言語活動についてのテーマが設定され「ディスカッション」、「ディベート」「プレゼンテーション」等様々な方法が例としてあげられている。</li> <li>○「特設ページ」という言語活動を意識した、内容を深化させるような課題の設定がされている。</li> </ul>
清水	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全編で「深める公民」という資料ページが設けられ、手記、統計資料、図、表などが提示され、生徒のまとめ、学習の整理、課題解決のための材料として活用できる。</li> <li>○領土問題については、個別の問題についての文章記述はある。</li> <li>○憲法第9条や自衛隊との関係など平和や安全保障に関して様々な面からの記載がある。</li> <li>○世界地図、現代史の年表が添付されている。</li> <li>○既習内容を活用して解決していく課題が設定されている。</li> <li>●裁判員裁判のシミュレーション学習等の課題解決学習が少ない。</li> <li>●写真・新聞記事が少ない。</li> </ul>

<p>帝国</p>	<p>○見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。</p> <p>○単元の終わりに「学習をふりかえろう」という学習内容の定着を図る課題が配置されている。</p> <p>○テーマについての賛成・反対意見を載せた「Yes No」という欄や「技能をみがく」という自分の意見をつくるための工夫が見られる。</p> <p>○国際社会についての記述が多く、領土問題についても一定の記述はある。</p> <p>○第二次世界大戦後の年表が添付されている。</p> <p>○グラフや地図は、色調の違いや地紋を用いることで判別しやすくしている。</p> <p>○章末には、「学習をふりかえろう」が配置され、言語活動を意識した課題が設定されている。</p> <p>○見開きごとに「説明しよう」が設定され、表現力の育成が図られている。</p>
<p>日文</p>	<p>○見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。</p> <p>○「学習の整理と活用」という学習内容の定着や活用のための問いがあり、地理的分野・歴史的分野との関連を図った学習が配列されている。</p> <p>○各編の初めに「ナビ」をおき学習の見通しをもたせ、各章に課題解決学習をおいている。</p> <p>○各国の憲法の平和に関する条文が掲載されている。</p> <p>○世界地図、現代史の年表が添付されている。</p> <p>○見開きごと「学習の活用」が配置され、具体的な説明（文章や箇条書き）が求められる問いとなっている。</p> <p>○各章に「チャレンジ公民」「情報スキルアップ」「アクティビティー」「学習の整理と活用」という課題解決の設定がされている。</p>
<p>自由社</p>	<p>○単元の終わりに「学習のまとめと発展」として、重要語句の確認、紹介する主な人物と発展的な課題が設定されている。</p> <p>○9条についての解釈が4つ詳しく掲載されている。</p> <p>○年表が充実している。</p> <p>○領土問題については、見開き2ページで扱っている。</p> <p>○憲法第9条の解釈を4つ掲載している。</p> <p>○章末の「学習のまとめと発展」のところでは、既習内容を整理する課題を設定している。</p> <p>○「発展」として、各章にかかわる4つの課題から1つを選択し、400字でまとめる発展的な学習が提示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●1時間の終わりに学習のまとめが掲載されているが、生徒自身の課題として扱いにくい。</li> <li>●太平洋戦争における加害や集団的自衛権の記述が明示されていない。</li> <li>●さまざまな学習方法について、その手法はほとんど提示されていない。</li> <li>●裁判員裁判のシミュレーションがない。</li> <li>●地図・写真・新聞記事が少ない。</li> </ul>
<p>育鵬社</p>	<p>○見開き2ページの学習の課題が明示されている。</p> <p>○「理解を深めよう」で多様な観点を示しながら本文と関連した事項についての情報の提示がなされている。</p> <p>○学習方法の提示「考えよう」「やってみよう」等の課題解決学習がある。</p> <p>○領土問題について、歴史的背景・地図・写真・新聞記事が詳しく提示されている。</p> <p>○各国の憲法の平和に関する条文が掲載されている。</p> <p>○各章末に「学習のまとめ」が1ページ置かれ、そこには、「課題についての自分の意見をまとめ、意見交流する」という言語活動を意識した設問が提示されている。</p>

様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

## 種 目 名 ( 地 図 )

## 【調査研究の具体的視点】

## (1) 基礎・基本の定着

視点1 生徒の基礎・基本の定着を図るうえで、地図帳の基本的な使い方（地図の見方、索引の引き方、地図活用の仕方）が理解できる内容になっているか。

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点1 生徒が課題に沿って地図を活用した多様な学び方ができる内容になっているか。

## (3) 内容の構成・配列・分量

視点1 教科書で取り上げられている国・地域について、生徒が理解しやすい資料や構成の工夫がなされているか。

## (4) 内容の表現・表記

視点1 内容の表現・表記が中学生にとってわかりやすいものになっているか。

## (5) 言語活動の充実

視点1 生徒が調べたり考えたりしたことを適切に表現させるなど、ことばの力を育てるための工夫がなされているか。

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 1 )

(1) 基礎・基本の定着

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○地図帳の基本的な見方や使い方について、言葉による指示が多く、扱いづらい (P6)</p> <p>○他社と比べ、鳥瞰図 (※) での情報量が少ない。 (例えばP37・P38を帝国P51・P52と比較するとよい)</p> <p>※地図の技法及び図法の一つで、上空から斜めに見下ろしたような形式のもの。</p>
帝国	<p>○地図帳の基本的な見方や使い方が、すっきりしていて見やすい。(P6)</p> <p>○提示された地図のどこに注目すればよいか「地図を見る目」として示されているため、地図の基本的な見方がつかみやすい。(例えばP18, P25, P31など)</p>

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○関連するページが「ジャンプ」として示してあり、生徒が複数の資料を関連づけて考えるのに役立つ。(例えばP31図②, 32図③など)</p>
帝国	<p>○生徒の主体的な学習を促す「やってみよう」の設問が、他社より豊富に設定されている。(例えばP7, P8, P10, P11, P24)</p> <p>○「複数の地図を活用することで分かること」を丁寧に説明しており、生徒の主体的な活動を促している。(P7「やってみよう」)</p> <p>○「地図を見る目」を通して、地図を活用して主体的に学習を進められる設問が設けられている。(例えばP40など)</p> <p>○東アジアと日本との歴史的関係を表した地図が示されており、生徒に歴史的分野での学習内容との関連を意識させるよう工夫がなされている。(P31, P103など)</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 2 )

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○ヨーロッパ, 南アメリカ, オセアニアの基本図に, 同緯度の日本列島が掲載されていないので, 緯度のイメージがつかみにくい。(P39, P64, P69)
帝国	○ヨーロッパやロシアの資料が他社より豊富である。(P49~50, P54) ○ヨーロッパ, 南アメリカ, オセアニアの基本図に, 同緯度の日本列島が掲載されており, 緯度のイメージがつかみやすい。(P46, P66, P69) ○巻末の統計資料が他社より詳しく, 視覚的にも見やすい。(P156~) ○索引に掲載されている項目が他社より豊富で, 地名の検索に有利である。(P165)

(4) 内容の表現・表記

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○地図記号の凡例の区分が小さく, 見づらい。また, 地図記号以外のものも掲載しているため, 全体に窮屈で見にくくなっている。(P4) ○ヨーロッパの基本図にヨーロッパとアジアの境界線が表記されていないので, 説明しづらい。(P40) ○他社に比べ, 気温と降水量を示す地図の色が読み取りにくい。 (例えば東書のP21と帝国のP22を比較)
帝国	○地図記号の凡例が一頁全部を使って示されているため, 他社よりゆったりして見やすい。また, 地図記号の区分も大きく見やすい。(P4) ○世界と日本の諸地域の導入ページにある「大観図」が, イラストなどを多用することで, 他社よりもその地域のイメージをつかみやすいものになっている。(例えば帝国のP21と東書のP21を比較) ○世界各州の鳥瞰図を比較すると, 記述されている情報量が他社より豊富である。(例えば帝国のP63~64と東書P61~62を比較)  ※地図の技法及び図法の一つで, 上空から斜めに見下ろしたような形式のもの

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 3 )

(5) 言語活動の充実

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○読図のポイントや考察の視点を示したキャラクターの吹き出しを設けて、地図を活用した言語活動を促している。
帝国	○「やってみよう」のコーナーを多数設けて、地図を活用した言語活動を促している。(例えばP62など)

様式2  
【報告書要約】

中学校地図

著者名	意見（○ 長所 ● 課題）
東書	<p>○関連するページが「ジャンプ」として示してあり，生徒が複数の資料を関連づけて考えるのに役立つ。（例えばP31図②，32図③など）</p> <p>●地図帳の基本的な見方や使い方について，言葉による指示が多く，扱いづらい（P6）</p> <p>●ヨーロッパ，南アメリカ，オセアニアの基本図に，同緯度の日本列島が掲載されていないので，緯度のイメージがつかみにくい。（P39，P64，P69）</p> <p>●地図記号の凡例の区分が小さく，見づらい。また，地図記号以外のものも掲載しているため，全体に窮屈で見にくい。（P4）</p> <p>●ヨーロッパの基本図にヨーロッパとアジアの境界線が表記されていないので，説明しづらい。（P40）</p>
帝国	<p>○地図帳の基本的な見方や使い方が，すっきりしていて見やすい。（P6）</p> <p>○「地図を見る目」を通して，地図を活用して主体的に学習を進められる設問が設けられている。（例えばP40など）</p> <p>○東アジアと日本との歴史的関係を表した地図が示されており，生徒に歴史的分野での学習内容との関連を意識させるよう工夫されている。（P31，P103など）</p> <p>○ヨーロッパ，南アメリカ，オセアニアの基本図に，同緯度の日本列島が掲載されており，緯度のイメージがつかみやすい。（P46，P66，P69）</p> <p>○巻末の統計資料が他社より詳しく，視覚的にも見やすい。（P156～）</p> <p>○地図記号の凡例が一頁全部を使って示されているため，他社よりゆったりして見やすい。また，地図記号の区分も大きく見やすい。（P4）</p> <p>○世界と日本の諸地域の導入ページにある「大観図」が，イラストなどを多用することで，他社よりもその地域のイメージをつかみやすいものになっている。（例えば帝国のP21と東書のP21を比較）</p> <p>○「やってみよう」のコーナーを多数設けて，地図を活用した言語活動を促している。（例えばP62など）</p>



様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

種 目 名 ( 数 学 )

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- 視点① 単元の目標を達成するための工夫  
 視点② 学び直しの機会の設定

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点① 数学への興味関心を高める工夫  
 視点② 主体的な学びを促す課題提示の工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- 視点① 学習内容の構成・配列や練習問題の分量

(4) 内容の表現・表記

- 視点① 挿絵やマーク等，数学的語彙の表記や説明の工夫

(5) 言語活動の充実

- 視点① 数学的な表現を用いて自分の考えを説明し伝えあう活動の工夫

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標を達成するための工夫

(方法) 例題, 問題の提示の仕方

1年 比例と反比例, 2年 式の計算, 3年 平方根

視点② 学び直しの機会の設定

(方法) 前学年までの振り返りマーク, 復習問題の量と提示の仕方

発行者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>①単元の目標を達成するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●例題のねらいが書かれていない。</li> <li>○例題と問題の間に「たしかめ」の確認問題が設定されている。</li> </ul> <p>②学び直しの機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前学年までの振り返りマークの数(1年 19, 2年 18, 3年 4)</li> <li>○巻末にある前学年までの復習問題のページ数(1年 3P, 2年 6P, 3年 6P)</li> </ul>
大日本	<p>①単元の目標を達成するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○例題のねらいが提示されている。</li> <li>●練習問題が例題を用いて解く形式であり, 利用しにくい。</li> </ul> <p>②学び直しの機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前学年までの振り返りマークの数(1年 10, 2年 8, 3年 14)</li> <li>○巻末にある前学年までの復習問題のページ数(1年 3P, 2年 0P, 3年 11P)</li> </ul>
学図	<p>①単元の目標を達成するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○例題のねらい, 解き方のコメントが提示されている。</li> <li>○問題の横に「やってみよう」というマークをつけ節末に類題が設定されている問題もある。</li> </ul> <p>②学び直しの機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前学年までの振り返りマークに学習学年が書かれている。 マークの数(1年 13, 2年 9, 3年 10)</li> <li>○巻末にある前学年までの復習問題のページ数(1年 1P, 2年 1P, 3年 6P)</li> </ul>
教出	<p>①単元の目標を達成するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○例題のねらい, 考え方が提示されている。</li> <li>○問題が難易度に応じて「問」と「たしかめ」の2種類に分けて設定されている。 また, 「たしかめ」の横に補充問題のページも書かれている。</li> </ul> <p>②学び直しの機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前学年までの振り返りマークの数(1年 19, 2年 7, 3年 15)</li> <li>○各章の初めにある前学年までの復習問題のページ数 (1年 7P, 2年 6P, 3年 8P)</li> </ul>
啓林館	<p>①単元の目標を達成するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○例のねらい, 考え方が提示されている。</li> <li>○問題の類題が設定してあるページを提示している。</li> </ul> <p>②学び直しの機会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前学年までの振り返りマークに学習学年が書かれている。 マークの数(1年 16, 2年 10, 3年 15)</li> <li>○巻末にある前学年までの復習問題のページ数(1年 0P, 2年 0P, 3年 6P)</li> </ul>

数 研	<p>①単元の目標を達成するための工夫 ○例のねらい，解き方のコメントがある。 ○発展問題にマークをつけてあり，利用しやすい。</p> <p>②学び直しの機会の設定 ○前学年までの振り返りマークの数(1年 20，2年 16，3年 9) ○巻頭と巻末にある前学年までの復習問題のページ数 (1年 2P，2年 3P，3年 8P)</p>
日 文	<p>①単元の目標を達成するための工夫 ○例のねらい，解き方のコメント，前学年の振り返りが書かれている。 ○問題の類題や発展問題のページを提示している。</p> <p>②学び直しの機会の設定 ○前学年までの振り返りマークに学習学年が書かれている。 マークの数(1年 20，2年 9，3年 14) ○各章のはじめと巻末にある前学年までの復習問題のページ数 (1年 12P，2年 11P，3年 11P)</p>

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点① 数学への興味関心を高める工夫

(方法) 扱われているテーマの問題数(ただし近似値と有効数字は除く)

1年「資料の活用」

視点② 主体的な学びを促す課題提示の工夫

(方法) 「調べてみよう，深めてみよう」といった課題提示のコーナーがあるか

2年「三角形・四角形」

発行者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<p>①数学への興味関心を高める工夫 ○テーマ数2 (ルート別の所要時間 (11ページ分)，大繩の並び方)</p> <p>②主体的な学びを促す課題提示の工夫 ○「やってみよう」2，「数学のまど」1 (2つの正三角形) ○「調べてみよう」「みなおしてひろげよう」「考えてみよう」の言葉で学習が進められている。</p>

大日本	<p>①数学への興味関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テーマ数9 (おもに, 平均気温, 通学時間, 選手の身長, ゲームの得点, 販売個数, 中学校の数, テレビの消費電力量)</li> <li>●扉の内容と内容の第1ページ目が違うテーマになっている。資料の活用では近似値という内容から学習が始まっているので, 生徒は困難さを感じやすい。</li> </ul> <p>②主体的な学びを促す課題提示の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「利用しよう」(1/3ページ分), 「考えてみよう」(1/3ページ分)</li> </ul>
学 図	<p>①数学への興味関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テーマ数5 (おもに, ルーラーキャッチ (11ページ以上), 都道府県別人口, 投球の速さ, 最高気温)</li> <li>○ルーラーキャッチで学習を進めている。生徒の操作活動(実験)を通して資料を収集し, それらを用いて学習の流れを作っている。また, 広島県の人口がテーマの問題がある。</li> </ul> <p>②主体的な学びを促す課題提示の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「深めよう」(条件を変えて考えよう, 2ページ分)</li> <li>○巻末にピッグの定理, はじめ返し</li> <li>○図が詳しく(コンピュータ画面を設定), その証明も掲載し, さらに発展的な問題も加えている。</li> </ul>
教 出	<p>①数学への興味関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テーマ数6 (おもに, 練馬の気温, 通学距離)</li> </ul> <p>②主体的な学びを促す課題提示の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「数学のひろば」(2つの正三角形, 1ページ分)</li> <li>○「ジャンプ」(立方体の切り口, 2ページ分)</li> <li>○巻末「自由研究」(長方形の分解, 2ページ分, ピッグの定理, 4ページ分)</li> </ul>
啓 林 館	<p>①数学への興味関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○テーマ数7 (おもに, 紙コプター, 水泳の記録, 運動靴のサイズ, 通学時間, 卵の重さ, 借りた本の数)</li> <li>○紙コプターで学習を進めている。生徒の操作活動(実験)を通して資料を収集し, それらを用いて学習の流れを作っている。また, 活動しやすいように, 付録がついている。</li> </ul> <p>②主体的な学びを促す課題提示の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「数学展望台」(折り紙で正三角形, 半ページ分+別冊2ページ分)</li> <li>○「千思万考」(線分の長さの関係は?, 2/3ページ分)</li> <li>○巻末「ひろがる数学」(点の集合とその性質の証明, 2ページ分, 三角形の外接円と内接円, 2ページ分, 問題をつくり変える, 2ページ分)</li> <li>○「数学展望台」や「千思万考」など, 学習したことを活用するうえで, 資料が豊富である。</li> </ul>

数 研	<p>①数学への興味関心を高める工夫 ○テーマ数10（おもに，鹿せんべい飛ばし大会の記録，ハンドボール投げの記録，通学時間，都道府県別の面積，地球温暖化問題，少子高齢化問題）</p> <p>②主体的な学びを促す課題提示の工夫 ○「やってみよう」（直角三角形の斜辺の midpoint は，この三角形の3つの頂点から等しい距離にある，半ページ分） ○「やってみよう」（空間図形の中に二等辺三角形や正三角形を見る，1ページ分）</p>
日 文	<p>①数学への興味関心を高める工夫 ○テーマ数4（おもに，大阪市の最高気温，ハンドボール投げ，駅までのルート，睡眠時間）</p> <p>②主体的な学びを促す課題提示の工夫 ○「深める数学」（条件を変えて考えよう，1ページ半） ○巻末（はと目返し，1ページ分，ピッグの定理，2ページ分）</p>

(3) 内容の構成・配列・分量

視点① 学習内容の構成・配列や練習問題の分量

(方法) ア 章末問題

1年「正の数・負の数」，第2学年「1次関数」，第3学年「円」

イ 1・2年の復習問題の分量

ウ 内容の構成

3年の素因数分解を学習するタイミング

エ 配列

3年「2次方程式」の解法

発行者	意見（ ○ 長所      ● 課題 ）
東 書	<p>○章末問題は「基本・応用・活用」の区分がはっきりしている。</p> <p>○3年の教科書に1・2年の復習問題が領域別に設定されている。（大問数30）</p> <p>●平方根の章内に素因数分解があり，利用しにくい。</p> <p>○2次方程式の解法が，平方根の考え→解の公式→因数分解の利用の順である。</p>
大 日 本	<p>●章末問題は「基本・応用・活用」の区分がなく利用しにくい。</p> <p>○1～3年の問題があるが，1・2年の振り返りは設定されていない。</p> <p>○素因数分解が乗法公式の後，因数分解の前である。</p> <p>○2次方程式の解法が，因数分解の利用→平方根の考え→解の公式の順である。</p>
学 図	<p>○章末問題は「基本・応用・活用」の区分がはっきりしている。</p> <p>○3年の教科書に1・2年の復習問題が領域別に設定されている。（大問数31）</p> <p>○素因数分解が乗法公式の後，因数分解の前にある。</p> <p>○2次方程式の解法が，因数分解の利用→平方根の考え→解の公式の順である。</p>

教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各領域の学習後の章末に基本的な内容の練習問題（2ページ）があるが、章末問題は「基本・応用・活用」の区分がなく利用しにくい。</li> <li>○1・2年の簡単な振り返りが章の初めにある。</li> <li>○素因数分解が因数分解の後、式の活用の前にある。</li> <li>○2次方程式の解法が、因数分解の利用→平方根の考え→解の公式の順である。</li> </ul>
啓 林 館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○章末の問題量が多い。基本のたしかめでは、ページの右側に学習を振り返るためのページが書かれている。</li> <li>○3年の教科書に1・2年の復習問題が領域別に設定されている。（大問数36）</li> <li>○素因数分解が乗法公式の後、因数分解の前にある。</li> <li>○2次方程式の解法が、平方根の考え→解の公式→因数分解の利用の順である。</li> </ul>
数 研	<ul style="list-style-type: none"> <li>●章末に、章で学んだ内容を振り返るページがあるが、応用問題、活用問題がやや少ない。</li> <li>○1・2年の復習問題に「式の計算」、「式の値」などのタイトルが書かれている。（大問数12）</li> <li>●素因数分解が式の計算の利用の後にあり、利用しにくい。</li> <li>○2次方程式の解法が、因数分解の利用→平方根の考え→解の公式の順である。</li> </ul>
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>○章末問題は「基本・応用・活用」の区分がわかりやすい。</li> <li>○巻末にA問題・B問題がある。また、1～3年の問題が巻末にあるが、1・2年の振り返りは設定されていない。</li> <li>●素因数分解が式の計算の利用の後にあり、利用しにくい。</li> <li>○2次方程式の解法が、因数分解の利用→平方根の考え→解の公式の順である。</li> </ul>

(4) 内容の表現・表記

視点① 挿絵やマーク等，数学的語彙の表記や説明が理解しやすいか

(方法) ア 答えまで導いている例題の数と応用問題に関する絵や図の数  
1年「方程式」（「方程式」で例題，「方程式の利用」で絵や図の数）

イ 巻末索引の表記の仕方

発行者	意見（○長所 ●課題）
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○方程式の意味から解き方まで例題9間を使って導く表記になっている。</li> <li>○方程式を利用する問題では、代金、速さ・時間・道のり、過不足、比例式の6種類を線分図、絵、表を用いて理解を助ける表記になっている。</li> <li>○さくいんは3ページで109項目掲載している。簡単なイラストがついているものが38項目あり、理解を助けている。</li> </ul>
大 日 本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○例題より教科書に空欄を設定して書き込む問題6間で理解を図る表記になっている。ただ、解答例まで書いてある例題は4問である。</li> <li>○方程式を利用する問題では代金、速さ・時間・道のり、過不足の5種類を線分図と表を用いて理解を助ける表記になっている。</li> <li>○さくいんは2ページで173項目掲載しており、重要事項として17項目が別枠に表記してある。</li> </ul>

<p>学 図</p>	<p>○等式の性質，不等式の説明から方程式の解き方まで例題 13 問で丁寧に理解を導く表記になっている。</p> <p>○方程式を利用する問題では代金，面積，速さ・時間・道のり，過不足，比例式縮図の 6 種類を線分図，絵，表を用いて理解を助け，答えの書き方まで理解できる表記になっている。</p> <p>○さくいんは 2 ページで 113 項目である。</p>
<p>教 出</p>	<p>○方程式の解き方の理解を図るために，等式の性質から分数の方程式まで例題 11 問を使って導く表記になっている。特に，式の中の移項のときには色を付けて表現している。</p> <p>○方程式を利用する問題では代金，個数，速さ・時間・道のり，過不足の 6 種類を線分図，絵，表を用いて理解を助ける表記になっている。</p> <p>○さくいんは 2 ページで 138 項目であり，英語の表記がある。記号 10 種も別枠で表記されている。</p>
<p>啓 林 館</p>	<p>○方程式の意味から，等式の性質や移項を利用して，分数の方程式を解くまで例題 11 問で丁寧に理解を導く表記になっている。特に，式の中の移項に色を付け，説明まで表記している。</p> <p>○方程式を利用する問題では代金，速さ・時間・道のり，過不足，比例式，縮図の 6 種類を線分図，絵，表を用いて理解を助け，答えを導く表記になっている。</p> <p>○さくいんは 2 ページで 132 項目である。記号は別枠に 10 項目あり，もくじもついている。</p>
<p>数 研</p>	<p>○方程式の解の意味から比例式の解き方まで例題 13 問を使って導く表記になっている。等式の性質や式の中の移項に色を付け，理解を助ける表記をしている。</p> <p>○方程式を利用する問題では代金，速さ・時間・道のり，過不足の 3 種類を線分図，絵，表を用いて理解を助け，答えを導く表記になっている。また，解が答えであるかどうか確かめも表記されている。</p> <p>○さくいんは 2 ページで 141 項目である。記号は別枠に 10 項目ある。</p>
<p>日 文</p>	<p>○方程式の解の意味から，等式の性質や移項を利用して，分数の方程式を解くまで例題 14 問で理解を導く表記になっている。等式の性質や移項など大切なところには色を付けて表現している。</p> <p>●方程式を利用する問題では代金，速さ・時間・道のり，過不足，比例式の 6 種類を線分図，絵，表を用いて理解を助ける表記になっている。ただ 3 問しか答えの表記がない。</p> <p>○さくいんは 118 項目であり，1 ページにまとめている。</p>

(5) 言語活動の充実

視点① 数学的な表現を用いて自分の考えを説明し伝えあう活動の工夫

(方法) ア 数学的な活動の課題がわかりやすく示されているか

イ 考え方を説明する例題や問題の数がいくつあるか

1年「文字式」

発行者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	○「学び合い」のページで式や図などを使って考えを説明し伝え合い深めていく課題が取り上げられ、側注に問題解決の進め方が示されており、学び方が身につくようになっている。 ○「文字式」で、考え方を説明する例題や問題の数は6問である。
大日本	●例題の側注に「見いだそう」「利用しよう」「伝えよう」の印で数学的活動の課題が示されているが、数が少ないので取り扱いにくい。 ○「文字式」で、考え方を説明する例題や問題の数は5問である。
学図	○各章に1つずつ「見つける」「活用する」「伝える」の印で数学的活動の課題が示されている。さらに模範的な説明が例示されていたり、話し合いの内容が提示されたりしているので、考え方を説明する手順や方法が学びやすくなっている。 ○「文字式」で、考え方を説明する例題や問題の数は5問である。
教出	○「みんなで数学」では数学的活動の課題が取り上げられており、問いの中に「伝えよう」「話し合おう」の印があり、自分の考えを説明したり問題解決したりする場面が設けられている。 ●「文字式」で、考え方を説明する例題や問題の数は13問で、答えだけでなく考え方を説明させる問題が多いが、あまり深く考えさせる問題ではない。
啓林館	○「みんなで話し合ってみよう」「自分のことばで伝えよう」「自分の考えをまとめよう」のマークが課題や問いについており、数学的活動が示されている。授業の中で取り扱いやすい問題が多い。 ○「文字式」で、考え方を説明する例題や問題の数は3問である。
数研	○数学的活動に関連するものに「見つけよう」「活用しよう」「伝えよう」のマークがついている。 ●「文字式」で、考え方を説明する例題や問題の数は2問であり、数が少ない。
日文	○初出の用語を使った表現の具体例を「表現の例」として示されているので、数学的な表現の方法が身に付くようになっている。 ●各章に「見つけよう」「生活への利用」「説明しよう」という数学的活動が示されているが、数が少ないので使いにくい。 ○「文字式」で、考え方を説明する例題や問題の数は5問である。



様式 2

【報告書要約】

中学校数学

著者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>●例題のねらいが書かれていない。</li> <li>●平方根の章内に素因数分解があり，利用しにくい。</li> <li>○方程式を利用する問題では，代金，速さ・時間・道のり，過不足，比例式の6種類を線分図，絵，表を用いて理解を助ける表記になっている。</li> <li>○「学び合い」のページで式や図などを使って考えを説明し伝え合い深めていく課題が取り上げられ，側注に問題解決の進め方が示されており，学び方が身につくようになっている。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>●練習問題が例題を用いて解く形式であり，利用しにくい。</li> <li>●扉の内容と内容の第1ページ目が違うテーマになっている。資料の活用では近似値という内容から学習が始まっているので，生徒は困難さを感じやすい。</li> <li>●章末問題は「基本・応用・活用」の区分がなく利用しにくい。</li> <li>●例題の側注に「見いだそう」「利用しよう」「伝えよう」の印で数学的活動の課題が示されているが，数が少ないので取り扱いにくい。</li> </ul>
学図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルーラーキャッチで学習を進めている。生徒の操作活動（実験）を通して資料を収集し，それらを用いて学習の流れを作っている。また，広島県の人口がテーマの問題がある。</li> <li>○図が詳しく（コンピュータ画面を設定），その証明も掲載し，さらに発展的な問題も加えている。</li> <li>○等式の性質，不等式の説明から方程式の解き方まで例題13問で丁寧に理解を導く表記になっている。</li> <li>○各章に1つずつ「見つける」「活用する」「伝える」の印で数学的活動の課題が示されている。さらに模範的な説明が例示されていたり，話し合いの内容が提示されたりしているので，考え方を説明する手順や方法が学びやすくなっている。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題が難易度に応じて「問」と「たしかめ」の2種類に分けて設定されている。また，「たしかめ」の横に補充問題のページも書かれている。</li> <li>●各領域の学習後の章末に基本的な内容の練習問題（2ページ）があるが，章末問題は「基本・応用・活用」の区分がなく利用しにくい。</li> <li>○方程式の解き方の理解を図るために，等式の性質から分数の方程式まで例題11問を使って導く表記になっている。特に，式の中の移項のときには色を付けて表現している。</li> <li>●「文字式」で，考え方を説明する例題や問題の数は13問で，答えだけでなく考え方を説明させる問題が多いが，あまり深く考えさせる問題ではない。</li> </ul>

<p>啓 林 館</p>	<p>○紙コプターで学習を進めている。生徒の操作活動（実験）を通して資料を収集し、それらを用いて学習の流れを作っている。また、活動しやすいように、付録がついている。</p> <p>○「数学展望台」や「千思万考」など、学習したことを活用するうえで、資料が豊富である。</p> <p>○方程式の意味から、等式の性質や移項を利用して、分数の方程式を解くまで例題 11 問で丁寧に理解を導く表記になっている。特に、式の中の移項に色を付け、説明まで表記している。</p> <p>○「みんなで話し合ってみよう」「自分のことばで伝えよう」「自分の考えをまとめよう」のマークが課題や問いについており、数学的活動が示されている。授業の中で取り扱いやすい問題が多い。</p>
<p>数 研</p>	<p>○発展問題にマークをつけてあり、利用しやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●章末に、章で学んだ内容を振り返るページがあるが、応用問題、活用問題がやや少ない。</li> <li>●素因数分解が式の計算の利用の後にあり、利用しにくい。</li> <li>●「文字式」で、考え方を説明する例題や問題の数は 2 問であり、数が少ない。</li> </ul>
<p>日 文</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●素因数分解が式の計算の利用の後にあり、利用しにくい。</li> <li>●方程式を利用する問題では代金、速さ・時間・道のり、過不足、比例式の 6 種類を線分図、絵、表を用いて理解を助ける表記になっている。ただ 3 問しか答えの表記がない。</li> </ul> <p>○初出の用語を使った表現の具体例を「表現の例」として示されているので、数学的な表現の方法が身に付くようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●各章に「見つけよう」「生活への利用」「説明しよう」という数学的活動が示されているが、数が少ないので使いにくい。</li> </ul>

様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

## 種 目 名 ( 理 科 )

## 【観点ごとの具体的な視点】

## (1) 基礎・基本の定着

- 視点① 知識や概念の定着を図り，理解を深めるための工夫  
 視点② 観察，実験の技能を習得するための工夫

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点① 興味・関心を高めるための工夫  
 視点② 探究する能力の基礎と態度の育成を図る工夫  
 視点③ 日常生活との関連や体験を通して学ぶための工夫

## (3) 内容の構成・配列・分量

- 視点① 単元・題材や資料等の配列の工夫  
 視点② 補助的な学習や発展的な学習に関する内容の記述の状況  
 視点③ 学習内容の系統性，既習内容の関連

## (4) 内容の表現・表記

- 視点① 単元・題材の目標及びまとめの示し方  
 視点② 本文記述との適切な関連付けがなされた写真，資料等の活用の状況

## (5) 言語活動の充実

- 視点① 観察，実験の結果を分析し解釈する学習活動の工夫  
 視点② 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 1 )

## (1) 基礎・基本の定着

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>&lt;視点① 知識や概念の定着を図り、理解を深めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年は内容が精選され、文字サイズが大きく読み取りやすい。</li> <li>○章末ごとに「チェック」「学んだことをつなげてみよう」が設定され、重要用語の確認と概念理解ができる。</li> <li>○単元の終わりに「学習内容の整理」があり、用語や科学概念、法則の確認ができる。</li> <li>○単元末に3ページの「確かめと応用」の問題がある。</li> </ul> <p>&lt;視点② 観察、実験の技能を習得するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○標準的実験と発展的実験「調べよう」「どこでも科学」があり、活用しやすい。</li> <li>○観察・実験の具体例「わたしのレポート」「結果の例」があり、参考になる。</li> <li>○実験を安全に行うため注意喚起マーク、注意事項の朱書がある。</li> </ul>
大日本	<p>&lt;視点① 知識や概念の定着を図り、理解を深めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章末ごとに「章末問題」が設定され、重要用語の確認と概念理解ができる。</li> <li>○単元の終わりに「まとめ」があり、用語や科学概念、法則の確認ができる。</li> <li>○単元末に3ページの「単元末問題」がある。</li> </ul> <p>&lt;視点② 観察、実験の技能を習得するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○標準的実験と発展的実験「やってみよう」があり、活用しやすい。</li> <li>●観察・実験の結果例「実験結果の例」「観察結果の例」が多い。生徒が参考にしすぎてしまう恐れがある。</li> <li>○実験を安全に行うため注意喚起マーク、注意事項の朱書、黄色のマークがあるが、他社に比べて記述数が少ない。</li> </ul>
学図	<p>&lt;視点① 知識や概念の定着を図り、理解を深めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章末ごとに「学習の確認」が設定され、重要用語の確認と概念理解ができる。</li> <li>○単元の終わりに「学習のまとめ」があり、用語や科学概念、法則の確認ができる。</li> <li>○単元末には3ページの「単元末問題」がある。最後のページに「学年のまとめの問題」が6ページある。</li> </ul> <p>&lt;視点② 観察、実験の技能を習得するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○標準的実験と発展的実験「チャレンジ」があり活用しやすい。</li> <li>●観察・実験の結果例「実験結果の例」「観察結果の例」が多い。生徒が参考にしすぎてしまう恐れがある。</li> <li>○実験を安全に行うため注意喚起マーク、注意事項の朱書、黄色のマークがある。</li> </ul>
教出	<p>&lt;視点① 知識や概念の定着を図り、理解を深めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章末ごとに「要点をチェック」が設定され、重要用語の確認と概念理解ができる。</li> <li>○図の説明が充実しており、本文の内容を補足している。</li> <li>○カメラ、原子の記号、星座早見表が添付され、実験・観察に活用できる。</li> <li>○単元の終わりに「要点と重要用語の整理」があり、用語や科学概念、法則の確認ができる。</li> <li>○単元末には4ページの「基礎・基本問題」「活用・応用問題」がある。「学年末総合問題」は2ページある。</li> </ul> <p>&lt;視点② 観察、実験の技能を習得するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●発展的な実験・観察は「図」「活用しよう」で示されているが、提示の仕方が分かりにくい。</li> <li>○観察・実験の具体例「わたしのレポート」, 「結果の例」があり、参考になる。</li> <li>○実験を安全に行うため注意喚起マーク、注意事項の朱書がある。</li> </ul>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 2 )

啓 林 館	<p>&lt;視点① 知識や概念の定着を図り，理解を深めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●マイノートが付随し授業で活用できる。しかし，教科書と重複する内容が多い。</li> <li>○章末ごとの「要点チェック」は，マイノートにある。</li> <li>○単元の終わりに「学習のまとめ」があり，用語や科学概念，法則の確認ができる。</li> <li>○単元末の「問題」は本冊になく，マイノートに「問題」がある。</li> </ul> <p>&lt;視点② 観察，実験の技能を習得するための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○標準的実験と発展的実験「ためしてみよう」があり，活用しやすい。</li> <li>○観察・実験の具体例「わたしのレポート」，「結果の例」があり，参考になる。</li> <li>○実験を安全に行うため注意喚起マーク，注意事項の朱書，黄色のマークがある。</li> </ul>
-------------	--

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 3 )

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>&lt;視点① 興味・関心を高めるための工夫&gt;</p> <p>○日常生活や社会，職業と学習内容の関連を「科学でGO!」の中で，「ふしぎ」「すごい!」「エコ(=環境)」「歴史」「防災」「はたらき(=キャリア)」の6種類の見出しに分類してある。(1年生 31, 2年生 52, 3年生 58)</p> <p>ふしぎ(1年生 14, 2年生 9, 3年生 15), すごい!(1年生 8, 2年生 22, 3年生 11), エコ(1年生 2, 2年生 9, 3年生 1), はたらき(1年生 1, 2年生 2, 3年生 2), 歴史(1年生 3, 2年生 8, 3年生 21), 防災(1年生 3, 2年生 7, 3年生 3)の各分野に分けられている。</p> <p>○「from JAPAN ニッポンの科学」では，日本が世界に誇る科学・技術の紹介がある。社会との関連について関心が高まるようにされている。</p> <p>○単元末の「科学の本だな」で，学習内容に関連した図書の紹介があり，学ぶ意欲が高まるようにされている。</p> <p>○導入部の「レッツ トライ!」や巻頭・巻末において，身近な事象について考えることを通して興味・関心を高め，主体的に取り組む意欲につなげるよう工夫されている。</p> <p>&lt;視点② 探究する能力の基礎と態度の育成を図る工夫&gt;</p> <p>○各学年の巻頭に「探究の流れの例」として探究の学習過程が示されている。</p> <p>①課題を見出そう ②関連情報を収集しよう ③仮説を立てよう ④実験計画を立てよう ⑤観察・実験を行おう ⑥結果を整理しよう ⑦探究の結果をまとめよう</p> <p>○2年生，3年生の巻頭に「レポート作成のためのノートの書き方」や「考察のしかた」が図やフローチャートを使って説明してある。</p> <p>○「学びを活かして考えよう」が小単元末にあるが，課題の着眼点がよく生徒の意欲向上につながる。</p> <p>&lt;視点③ 日常生活との関連や体験を通して学ぶための工夫&gt;</p> <p>○校外施設の活用について，各学年の巻末の「校外施設の活用」で各地の科学館・博物館，動物園・植物園・水族館等(1年生 5, 2年生 7, 3年生 5)の紹介がある。また，1年生では，ジオパーク(32)の紹介もある。各学年の学習内容と関連させてある。</p> <p>●校外施設の紹介の中に，広島県内のものがない。</p> <p>○ものづくりの紹介が15個(1年生 7, 2年生 4, 3年生 4)ある。各学年とも「生命」単元以外の多くの単元に設定されている。また，「どこでも科学」で，家庭において生徒自身が手軽に行える活動やものづくりが紹介されており，興味・関心の高まりや学習の深まりにつながるようにされている。</p> <p>○「学びを活かして考えよう」が小単元末にあり，実生活と関連づけて探究できる内容が多くなっている。課題の着眼点が良い。</p> <p>○各単元末に「学びを広げよう-自由研究」として探究の過程を示すと共に「科学の本だな」として探究に役立つ関連本を示している。</p>

様式 1-2

【調査研究結果】

No. ( 4 )

大 日 本	<p>&lt;視点① 興味・関心を高めるための工夫&gt;</p> <p>○日常生活や社会、職業と学習内容の関連を「くらしの中の科学」「トピック」「科学史」「プロフェッショナル(=職業)」の4種類の見出しに分類してある。(1年生 61, 2年生 67, 3年生 44)</p> <p>くらしの中の科学(1年生 19, 2年生 15, 3年生 13), トピック(1年生 28, 2年生 32, 3年生 20), 科学史(1年生 10, 2年生 17, 3年生 9), プロフェッショナル(1年生 4, 2年生 3, 3年生 2)</p> <p>○読み物資料は数多く取り扱われ、内容の分類も簡潔で明確である。</p> <p>&lt;視点② 探究する能力の基礎と態度の育成を図る工夫&gt;</p> <p>○各学年の巻頭に探究の学習過程が示されている。</p> <p>①関連するこれまでの学習を示しています ②学習の課題をつかみます ③課題を解決するための観察や実験を計画します ④観察や実験を行うときの着眼点をしめしています ⑤観察や実験を行います ⑥記録した結果を整理します ⑦整理した結果から考察します</p> <p>○各単元末に「終章 学んだことを活かそう」があり、探究の過程が示してある。</p> <p>○各学年の巻末に「課題研究・自由研究にチャレンジしよう」として探究の過程を示してある。</p> <p>&lt;視点③ 日常生活との関連や体験を通して学ぶための工夫&gt;</p> <p>○校外施設の活用について、各学年の巻末の「Let's go 科学館・博物館」で各地の博物館の紹介がある。(1年生 5, 2年生 5, 3年生 11) また、1年で国内の全ジオパーク(32), 2年で動物園・水族館(31)の紹介がある。数多くの施設が紹介されており、中国地方の施設も広島県内の1つ(安佐動物公園)を含め3つが紹介されている。</p> <p>○23個(1年生 8, 2年生 9, 3年生 6)のものづくりの紹介がある。</p> <p>○ものづくりは、取扱い数が多く、多くの単元に設定されており、原理・法則の理解を深める活動として設定されている。</p>
学 図	<p>&lt;視点① 興味・関心を高めるための工夫&gt;</p> <p>○日常生活や社会と学習内容の関連を「科学の窓」の中で、「日常とのつながり」「科学の歴史」「環境」「資料」の4種類のマークをつけて分類してある。(1年生 41, 2年生 57, 3年生 42)</p> <p>●読み物資料「科学の窓」については、分類マークがなく学習内容との関連がわかりにくいものがある。学年や単元による取扱い数の差が大きい。</p> <p>日常とのつながり(1年生 27, 2年生 28, 3年生 15), 科学の歴史(1年生 5, 2年生 14, 3年生 6), 環境(1年生 1, 2年生 1, 3年生 8), 資料(1年生 8, 2年生 11, 3年生 11)</p> <p>○職業と関連する内容を、各単元末の「科学を仕事に活かす」の中で紹介してある。</p> <p>&lt;視点② 探究する能力の基礎と態度の育成を図る工夫&gt;</p> <p>○各学年の巻頭に「観察、実験の進め方」として探究の学習過程が示されている。</p> <p>①目的 ②計画 ③観察・実験 ④結果 ⑤考察 ⑥まとめ・発表</p> <p>○「チャレンジ」を通して探究の過程が示してある。</p> <p>○各学年の巻末に「自由研究」として探究の過程を示してある。</p> <p>&lt;視点③ 日常生活との関連や体験を通して学ぶための工夫&gt;</p> <p>●校外施設等は読み物資料等で紹介されているが、とても少ない。</p> <p>○14個(1年生 5, 2年生 5, 3年生 4)のものづくりの紹介がある。</p> <p>また、「チャレンジ」の中で、原理や法則の理解を深めるためのものづくりなどの紹介がある。</p> <p>●ものづくりについては、1つの単元に集中しており、扱う単元の偏りもある。</p>

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 5 )

教 出	<p>&lt;視点① 興味・関心を高めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活や環境と学習内容の関連を「ハローサイエンス」の中で、「生活」「安全」「歴史」「環境」の4種類のマークをつけて分類してある。 (1年生 42, 2年生 60, 3年生 44)</li> <li>●読み物資料「ハローサイエンス」では、複数のマークが付けてあるものやマークを付けてないもの、「ハローサイエンス」と明記されていないものがあり、学習内容との関連が分かりにくいものがある。学年や単元による取扱い数の差が大きい。</li> <li>●職業と関連する内容は取り扱われているが、取扱い数は少なく、掲載箇所が分かりにくい。</li> </ul> <p>&lt;視点② 探究する能力の基礎と態度の育成を図る工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○第1学年の巻頭に「理科学習の進め方」として探究の学習過程が示している。 ①疑問をもつ ②課題を設定する ③仮説をもち、計画を立てる ④観察や実験を行い、結果を得る ⑤得られた結果をもとに考察する ⑥新たな疑問からさらなる疑問へ</li> <li>○各単元末に「活用しよう」があり、探究の過程が示してある。</li> <li>○各学年の巻末に「自由研究」として探究の過程が示してある。</li> </ul> <p>&lt;視点③ 日常生活との関連や体験を通して学ぶための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校外施設の活用について、各学年の巻末の「校外の施設を活用しよう」で各地の博物館・科学館、動物園等の紹介がある。(1年生 4, 2年生 3, 3年生 4) 各学年の学習内容と関連したものになっている。</li> <li>○校外施設の中で、広島県内のものが1つ(広島市健康づくりセンター健康科学館) 紹介されている。</li> <li>○11個(1年生 3, 2年生 4, 3年生 4)のものづくりの紹介がある。</li> <li>●ものづくりについては、取扱い数が少なく、扱う単元の偏りもある。</li> </ul>
啓 林 館	<p>&lt;視点① 興味・関心を高めるための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活や社会、職業と学習内容の関連を「ぶれいく time」の中で扱っている。 (1年生 23, 2年生 34, 3年生 32) また、キャリア教育との関連は「はたらく人に聞いてみよう」、科学者については「科学偉人伝」、他にも「先人の知恵袋」「部活ラボ」「日本の技」「伝統文化」の見出しに分類して取り上げている。</li> <li>●読み物資料については、「環境保全」や「防災」という今日的な課題に対応した分類がされていない。また、タイトルから分類された内容がわかりにくい。</li> <li>○3年生巻末の「理科の学習を将来につなげよう」では、中学校理科で学習したことと職業との関連が紹介してある。</li> <li>○各学年の巻末の「地域・環境資料集」で、各地域の特徴的な自然事象や施設等が数多く紹介され、地域教材の参考にすることができ、関心を高めるようにされている。</li> </ul> <p>&lt;視点② 探究する能力の基礎と態度の育成を図る工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生「身のまわりの物質 いろいろな物質とその性質」の単元内において「探究のしかた」として探究の学習過程を示している。 ①探究の課題設定 ②予想 ③実験の目的 ④実験の計画 ⑤観察・実験 ⑥実験の結果 ⑦実験の考察 ⑧探究のまとめ</li> <li>○「考えてみよう」があり、探究の過程が示してある。</li> <li>○各学年の巻末に「探究の道しるべ」として探究の過程を示してある。</li> </ul> <p>&lt;視点③ 日常生活との関連や体験を通して学ぶための工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生巻末の「地域の施設を利用しよう」では、科学館・博物館、植物園等の活用が紹介され、「地域・環境資料集」でも、数多くの校外施設が紹介されている。県内の施設も2つ(広島市こども科学館、安佐動物公園) 紹介されており、地域教材として興味・関心を高めるものになっている。</li> <li>○「部活ラボ」として、学校生活と学習内容との関連を扱っている。</li> <li>○14個(1年生 9, 2年生 3, 3年生 2)のものづくりの紹介がある。</li> <li>●ものづくりについては、1年生での取扱い数は多いが、2年生・3年生での取扱い数が少なく、扱う単元の偏りもある。</li> </ul>



様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 6 )

## (3) 内容の構成・配列・分量

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<p>&lt;視点① 単元・題材や資料等の配列の工夫&gt;  ○B5サイズ, 総ページ数(1年生 276, 2年生 292, 3年生 320)  ○配列(1年生 植物→物質→現象→大地)  (2年生 化学変化→動物→天気→電気)  (3年生 イオン→生命→運動→宇宙→地球と未来(生物含む))  ○巻末資料(各学年9ページ)  &lt;視点② 補助的な学習や発展的な学習に関する内容の記述の状況&gt;  ○単元末に「学習内容の整理」「確かめと応用」を補充的な問題として設定している。  ○発展的な学習の取り扱い数(1年生 21, 2年生 29, 3年生 31)  &lt;視点③ 学習内容の系統性, 既習内容の関連&gt;  ○既習事項の確認として章の始めや途中に「これまでに学んだこと」「～で学んだこと」として示されている。他教科で学んだことも記載されている。</p>
大 日 本	<p>&lt;視点① 単元・題材や資料等の配列の工夫&gt;  ○B5サイズ, 総ページ数(1年生 286, 2年生 310, 3年生 334)  ○配列(1年生 植物→物質→現象→大地)  (2年生 化学変化→動物→電流→天気)  (3年生 運動→生命→自然界のつながり→イオン→宇宙→地球と未来)  ○巻末資料(1年生 7ページ, 2年生 9ページ, 3年生 11ページ)  &lt;視点② 補助的な学習や発展的な学習に関する内容の記述の状況&gt;  ○単元末に「まとめ」「単元末問題」を補充的な問題として設定している。  ●発展的な学習の取り扱い数(1年生 25, 2年生 44, 3年生 43)が多すぎる。  &lt;視点③ 学習内容の系統性, 既習内容の関連&gt;  ○既習事項の確認として, 章の始めに「これまでに学習したこと」, 途中に「思い出そう」が示されている。</p>
学 図	<p>&lt;視点① 単元・題材や資料等の配列の工夫&gt;  ○B5サイズ, 総ページ数(1年生 302, 2年生 310, 3年生 322)  ○配列(1年生 物質→現象→植物→大地)  (2年生 化学変化→電流→動物→天気)  (3年生 運動→イオン→生命→生物と環境→地球と宇宙→科学技術)  ○巻末資料(1年生 7ページ, 2年生 14ページ, 3年生 17ページ)が充実している。  &lt;視点② 補助的な学習や発展的な学習に関する内容の記述の状況&gt;  ○単元末に「学習のまとめ」「単元末問題」を補充的な問題として設定している。  ○発展的な学習の取り扱い数(1年生 10, 2年生 15, 3年生 24)  &lt;視点③ 学習内容の系統性, 既習内容の関連&gt;  ○既習事項の確認として章の始めに「これまでに学んできたことをチェックしよう」「これまでに学んできたこと」, 途中に「思い出してみよう」が示されている。</p>

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 7 )

教 出	<p>&lt;視点① 単元・題材や資料等の配列の工夫&gt;</p> <p>○B5サイズ, 総ページ数(1年生 278, 2年生 282, 3年生 310)</p> <p>○配列(1年生 物質→光・音・力→植物→大地) (2年生 化学変化→電気→動物→気象) (3年生 イオン→運動→エネルギー→生物の連続性→宇宙→自然と人間→科学技術)</p> <p>●巻末資料(1年生 4ページ, 2年生 4ページ, 3年生 7ページ)は少ない。</p> <p>&lt;視点② 補助的な学習や発展的な学習に関する内容の記述の状況&gt;</p> <p>○単元末に「要点と重要用語の整理」「基礎・基本問題」「活用・応用問題」を補充的な問題として設定している</p> <p>○発展的な学習の取り扱い数(1年生 29, 2年生 31, 3年生 26)</p> <p>&lt;視点③ 学習内容の系統性, 既習内容の関連&gt;</p> <p>○既習事項の確認として, 途中に「思い出そう」として示されているが, 単元の最初にはない。</p>
啓 林 館	<p>&lt;視点① 単元・題材や資料等の配列の工夫&gt;</p> <p>○B5サイズ, 総ページ数(1年生 270, 2年生 278, 3年生 302)</p> <p>○配列(1年生 植物→地球→物質→現象) (2年生 動物→気象→化学変化→電流) (3年生 生命→宇宙→イオン→運動→自然と人間)</p> <p>○巻末資料(1年生 11ページ, 2年生 7ページ, 3年生 27ページ)に地域・環境資料がある。</p> <p>&lt;視点② 補助的な学習や発展的な学習に関する内容の記述の状況&gt;</p> <p>○単元末に「学習のまとめ」, 別冊「マイノート」に(サイエンスアプローチとステップアップ)「力だめし」「学年末総合問題」を補充的な問題として設定している。</p> <p>○発展的な学習の取り扱い数(1年生 7, 2年生 10, 3年生 14)</p> <p>&lt;視点③ 学習内容の系統性, 既習内容の関連&gt;</p> <p>○既習事項の確認として, 章の始めに「振り返り」として示されているが単元の途中にはない。</p>

## (4) 内容の表現・表記

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>&lt;視点① 単元・題材の目標及びまとめの示し方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本文中の太字では「○○は本当だろうか。どのように説明したらよいだろうか」と具体的に聞いている。</li> <li>○実験・観察の前には？課題の表し方が丁寧である。「どのような物質でも、<u>水にとかして</u>水溶液にすると電流が流れるのだろうか」「どのようなちがいがあ</li> </ul>
大日本	<p>&lt;視点① 単元・題材の目標及びまとめの示し方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験・観察の前には？課題「どのような水溶液に…流れるのだろうか」「どの部分がなるのだろうか」についてイラストの生徒3人がそれぞれ自分の考えを吹き出しで表している。</li> </ul> <p>&lt;視点② 本文記述との適切な関連付けがなされた写真、資料等の活用の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生巻頭・3年生巻末資料ページ合計数は40ページである。</li> <li>○各学年巻頭写真に自然の風景や花を示しており、短い言葉「生命」などと歴史的な科学者の発見と現代理科のつながりを説明している。</li> <li>○目に見えない力の単元のはじめでは2つの力が一直線上でつりあっていることを具体的にイメージのしやすい写真を1点入れている。また、2つの力の合成と分解の章では、写真1点を提示している</li> <li>○目に見えない力の単元もはじめでは2つの力がつりあっていることを具体的にイメージのしやすい写真を1点入れている。</li> <li>○小単元の最後に「<u>問い</u>」を設けており、振り返りしやすくなっている。</li> <li>●実験結果のページの中で実験結果と本文と写真を見る場合に、目線の動きが縦方向と横方向に交差してとらえ難いところがある。</li> </ul>

## 様式1-2

## 【調査研究結果】

No. ( 9 )

学 図	<p>&lt;視点① 単元・題材の目標及びまとめの示し方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元ごとの最初のページでは、これまで学んだことのチェックシートとなっている1ページに続き 2ページの写真があり「これから学ぶこと」が提示されている。</li> <li>○実験・観察の前に「???課題」が提示してある。「いろいろな水溶液について調べてみよう」「どの花にも共通するつくりは何だろうか」</li> <li>○小単元中に「話し合ってみよう」を設けており、それをもとに振り返りができるようにしている。</li> </ul> <p>&lt;視点② 本文記述との適切な関連付けがなされた写真、資料等の活用の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生巻頭・3年生巻末資料ページ合計数は42ページである。</li> <li>○各学年巻頭写真に1年間学習する4単元の興味を抱かせる写真がそれぞれ提示されている。</li> <li>○迫力のある写真を使用している。</li> <li>○目に見えない力の単元のはじめでは2つの力が一直線上でつりあっていることを具体的にイメージしやすい写真を2点入れている。また、2つの力の合成と分解のところでは、写真2点を提示している。</li> <li>○実験結果の写真では、変化の様子が矢印で示されており、配置も分かりやすい。</li> </ul>
教 出	<p>&lt;視点① 単元・題材の目標及びまとめの示し方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験・観察の前には?課題が提示してある。「どのような物質をとかした水溶液に電流が流れるのだろうか」「どの花にも共通するつくりはあるのだろうか」</li> <li>○「思い出そう」としての既習事項が茶色で提示してある。</li> <li>○実験や観察のまとめとして「実験(観察)から」と提示してある。</li> </ul> <p>&lt;視点② 本文記述との適切な関連付けがなされた写真、資料等の活用の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生巻頭・3年生巻末資料ページ合計数は55ページである。</li> <li>○1年生巻頭写真に「宇宙」「富士山」「植物」を提示しており、理科という教科の説明がある。</li> <li>○単元ごとの最初のページでは、見開き2ページの身近な写真があり、興味を抱かせるのに有効である。</li> <li>●目に見えない力の単元のはじめでは2力の合成や分解を理解しやすい写真を1点提示している。単元で2つの力が一直線上でつりあっていることを学習した後には2力のつりあい具体的にイメージしやすい写真を1点入れている。</li> <li>○単元に関連のある写真を提示しているが、順番などが効果的でない。</li> <li>○実験結果の写真では、変化の様子が矢印で示されており、配置も分かりやすい。</li> <li>○実験結果の写真が大きくて見やすい。分かりやすい。</li> </ul>
啓 林 館	<p>&lt;視点① 単元・題材の目標及びまとめの示し方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実験・観察の課題を?と提示している。「どのような物質でも、水溶液にする」と電流を通すようになるのだろうか」「花のつくりは植物の種類によって共通点や違いがあるのだろうか」</li> <li>○単元のはじめに「ふりかえり」として既習事項を確認させている。</li> <li>○「予想してみよう」もこれまでの学習内容と実験結果から予想させている。</li> <li>○「話し合ってみよう」「考えてみよう」などを用いて振り返りができるようにしている。</li> <li>○各学年80ページからなる「マイノート」が別冊であり、基礎・基本の定着に活用できるようになっている。計算の練習のページもある。</li> </ul> <p>&lt;視点② 本文記述との適切な関連付けがなされた写真、資料等の活用の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生巻頭・3年生巻末資料ページ合計数は40ページである。</li> <li>○各学年巻頭写真に美しい写真を提示してあり、興味を抱かせるのに有効である。</li> <li>○単元ごとの最初のページでは、見開き2ページの写真があり、興味を抱かせるのに有効である。</li> <li>○1年生・2年生には「地域資料集」があり、地域と学習内容がリンクした資料がある。</li> <li>●目に見えない力の単元のはじめでは、後に学習する2力の合成や分解の写真を2点提示している。</li> <li>○単元に関連のある美しい写真を提示している。</li> </ul>

## (5) 言語活動の充実

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<p>&lt;視点① 観察, 実験の結果を分析し解釈する学習活動の工夫&gt; 結果を分析し解釈するために, 仮説を立てたり考えを持たせたりすることを意図した話し合い活動について</p> <p>○課題の提示後に「調べ方を考えよう」という項目があり, 「話す」活動のマークが付記されている。実験計画や予想・仮説を立てる際に話し合い活動をすることが明確に意図されている。(2年生 29)</p> <p>&lt;視点② 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫&gt;</p> <p>①科学概念の使用を補助するための, 既習事項・関連事項の振り返りの示し方について(3年生 44)</p> <p>○章のはじめに「これまでに学んだこと」が示されている。</p> <p>○サイドコラムにも「これまでに学んだこと」として既習事項が示されている。科学用語や実験結果・実験方法などが図や写真入りで示されている場合もある。</p> <p>○算数・数学・社会・技術家庭・保健体育との関連も示されている</p> <p>②主に考察場面での話し合い活動について(2年生 36)</p> <p>○「学びを活かして考えよう」という項目で「話す」マークとともに記されており, 実験の後の考察での話し合い活動を明示している。</p> <p>○「学びを活かして考えよう」で, 説明する場面を設定しており, 書く・話すなどの記号を付記してある。言語活動の充実に向けた学習活動になるような工夫が随所にみられる。</p>
大 日 本	<p>&lt;視点① 観察, 実験の結果を分析し解釈する学習活動の工夫&gt; 結果を分析し解釈するために, 仮説を立てたり考えを持たせたりすることを意図した話し合い活動について</p> <p>○課題の提示後に話し合い活動をする生徒のイラストがあり, 吹き出しに考える視点が示されている。予想や実験計画の立案の際での話し合い活動を推奨している。(2年生 13)</p> <p>&lt;視点② 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫&gt;</p> <p>①科学概念の使用を補助するための, 既習事項・関連事項の振り返りの示し方について(3年生 32)</p> <p>○章のはじめにこれまでの「学習したこと」・これから学習することがまとめてある。</p> <p>○「思い出そう」としてサイドコラムに既習事項が記されている。科学用語や実験結果・実験方法などが図や写真入りで示されている場合もある。</p> <p>○保健体育や算数・数学との関連が示されている。</p> <p>②主に考察場面での話し合い活動について(2年生 5)</p> <p>●「話し合ってみよう」という項目は少なく, 考察するようはっきり明示していないところがある。</p> <p>○単元の終章に「学んだことを活かそう」として新しい課題に取り組み, 結果を説明したり話し合いをする場面を設けている。</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 11 )

学 図	<p>&lt;視点① 観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動の工夫&gt; 結果を分析し解釈するために、仮説を立てたり考えを持たせたりすることを意図した話し合い活動について</p> <p>○話し合ってみようという見出しと課題が示されている。多くの場合は生徒のイラストが付記されており、吹き出しなどにより考える視点が示されている。 (2年生 10)</p> <p>&lt;視点② 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫&gt;</p> <p>①科学概念の使用を補助するための、既習事項・関連事項の振り返りの示し方について(3年生 23)</p> <p>○章のはじめにこれまで学んできたことが1ページを使って示されて、今後の学習内容との関連が示されている。</p> <p>○1・2年生では章のはじめに振り返りの記述のみであるが、3年になるとサイドコラムに思い出してみようという振り返り事項が示されるようになる。</p> <p>②主に考察場面での話し合い活動について(2年生 13)</p> <p>●活用・表現や考察において話し合ってみようという見出しがつけられている場合もある。</p> <p>○「活動」というキーワードを用いて、説明する場面や考える場面を設定している。</p>
教 出	<p>&lt;視点① 観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動の工夫&gt; 結果を分析し解釈するために、仮説を立てたり考えを持たせたりすることを意図した話し合い活動について</p> <p>○課題の提示後に話しあおうという項目が示されている。生徒の話し合い場面のイラストも入る場合もある。逆に、項目は示されないが生徒の話し合いのイラストにより話し合い活動を暗示していることもある。(2年生 4)</p> <p>&lt;視点② 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫&gt;</p> <p>①科学概念の使用を補助するための、既習事項・関連事項の振り返りの示し方について(3年生 30)</p> <p>○章のはじめにこれから学んでいくことが示されており、その中に既習内容の項目も示されている。</p> <p>●サイドコラムに思いだそうという振り返り事項が示されている。文章だけで図・イラスト・写真などは示されていない。</p> <p>②主に考察場面での話し合い活動について(2年生 3)</p> <p>●考えようと活用しようという見出しがあるが、考察場面での話し合い活動を明示していない。</p> <p>○「活用しよう」において、説明する場面を設けている。</p>
啓 林 館	<p>&lt;視点① 観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動の工夫&gt; 結果を分析し解釈するために、仮説を立てたり考えを持たせたりすることを意図した話し合い活動について</p> <p>○課題の提示後に話し合ってみようや予想してみようという活動がある場合もある。生徒の話し合いのイラストなどで暗示している場合もある。 (2年生 12)</p> <p>&lt;視点② 科学的な概念を使用して考えたり説明したりする活動の工夫&gt; 科学概念の使用を補助するための、既習事項・関連事項の振り返りの示し方について(3年生 28)</p> <p>○章のはじめに見出しとして振り返りが示されている。既習事項を質問形式で記述している。すぐ下に解答が記されており確認しやすい。</p> <p>○文中・サイドコラムにも振り返りがあるが、文章記述が多く、一部イラストが使用されている。</p> <p>②主に考察場面での話し合い活動について(2年生 4)</p> <p>●考察場面において考えてみようという見出しはあるが、話し合い活動を明示していない。</p> <p>○「マイノート」に話し合う内容について、記述して表現する場面を設定している。また、「活用してみよう」において、学習した事項を日常生活の中で活用できないか考えたり説明したりする場面を設けている。</p>

## 様式 2

## 【報告書要約】

## 中学校理科

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○ 1 年は内容が精選され、文字サイズが大きく読み取りやすい。</p> <p>○ 「科学の本だな」で学習内容に関連した図書の紹介があるとともに、「どこでも科学」で、生徒自身が手軽に行える活動やものづくりが紹介されており、興味・関心の高まりや学習の深まりにつながられている。</p> <p>○ 各学年の巻頭に探究の流れが示してある。特に「学びを活かして考えよう」が小単元末にあるが、課題の着眼点がよく、生徒が意欲的に学習する上で意欲の向上につながる。</p> <p>○ 既習事項の確認として、章の始めや途中に「これまでに学んだこと」「～で学んだこと」として示されている。他教科で学んだことも記載されている。</p> <p>○ 単元ごとの最初のページでは、1 ページの写真があり、before after としてその単元での課題を単元最後のページにも提示することでまとめを自らできるようにしてある。</p> <p>○ 実験結果の写真では、変化の様子が矢印で示されており、配置も分かりやすい。</p> <p>○ 主に考察場面での話し合い活動について、学びを活かして考えようという項目で話すマークとともに記されており (1 年生 2 2, 2 年生 2 2, 3 年生 1 5), 実験の後の考察での話し合い活動を明示している。</p>
大日本	<p>● 観察・実験の結果例「実験結果の例」「観察結果の例」が多く、生徒が参考にしすぎてしまう恐れがある。</p> <p>○ 各学年の巻頭に探究の学習過程が示されており、各単元末の「終章 学んだことを活かそう」を通して探究学習を進めることができる。</p> <p>○ 校外施設の活用について、各学年の巻末の「Let's go 科学館・博物館」で各地の博物館の紹介がある。(1 年生 5, 2 年生 5, 3 年生 1 1) また、1 年生で国内の全ジオパーク (3 2), 2 年で動物園・水族館 (3 1) と数多くの施設が紹介されており、中国地方の施設も広島県内の 1 つ (安佐動物公園) を含め 3 つが紹介されている。</p> <p>● 発展的な学習の取扱い数が他社と比較して多すぎる。 (1 年生 2 5, 2 年生 4 4, 3 年生 4 3)</p> <p>○ 単元ごとの最初のページでは、1 ページの写真があり、身近に見られる生物の美しい写真を使用している。</p> <p>○ 目に見えない力の単元のはじめでは 2 つの力が一直線上でつりあっていることを具体的にイメージのしやすい写真を 1 点いれている。また、2 つの力の合成と分解の章では、写真 1 点を提示している</p> <p>● 実験結果のページの中で実験結果と本文と写真を見る場合に、目線の動きが縦方向と横方向に交差してとらえ難いところがある。</p> <p>● 主に考察場面での話し合い活動について、話し合ってみようという項目 (1 年生 3, 2 年生 5, 3 年生 4) は少なく、考察するようはつきり明示していないところがある。</p>

学 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観察・実験の結果例「実験結果の例」「観察結果の例」が多く、生徒が参考にしすぎてしまう恐れがある。</li> <li>●校外施設等は読み物資料等の中で紹介されているが、取扱い数がとても少ない。</li> <li>○各学年の巻頭に探究の学習過程が示されており、「チャレンジ」を通して探究学習を進めることができる。</li> <li>○巻末資料が充実している。(1年生 7ページ, 2年生 14ページ, 3年生 17ページ)</li> <li>○目に見えない力の単元のはじめでは、2つの力が一直線上でつりあっていることが具体的にイメージのしやすい写真2点を提示している。また、2つの力の合成と分解のところでは、写真2点を提示している。</li> <li>○実験結果の写真では、変化の様子が矢印で示されており、配置も分かりやすい。</li> <li>●主に考察場面での話し合い活動について、活用・表現や考察において話し合ってみようという見出し(1年生 10, 2年生 9, 3年生 8)が付けられている場合もある。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発展的な実験・観察は「図」「活用しよう」で示されているが、提示の仕方が分かりにくい。</li> <li>●読み物資料「ハローサイエンス」では、複数のマークが付けてあるものやマークが付けてないもの、「ハローサイエンス」と明記されていないものがあり、学習内容との関連がわかりにくいものがある。学年や単元による取扱い数の差が大きい。</li> <li>○1年生の巻頭に探究の学習過程が示されており、「活用しよう」を通して探究学習を進めることができる。</li> <li>●巻末資料(1年生 4ページ, 2年生 4ページ, 3年生 7ページ)は少ない。</li> <li>●目に見えない力の単元のはじめでは、2力の合成や分解を理解しやすい写真を1点提示している。単元で2つの力が一直線上でつりあっていることを学習した後に、2力のつりあいが具体的にイメージしやすい写真を1点いれている。</li> <li>○実験結果の写真では、変化の様子が矢印で示されており、配置も分かりやすい。</li> <li>●主に考察場面での話し合い活動について考えようという見出し(1年生 0, 2年生 1, 3年生 3)があるが、考察場面での話し合い活動を明示していない。</li> </ul>
啓 林 館	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マイノートが付随し授業で活用できる。しかし、教科書と重複する内容が多い。</li> <li>○1年生「身のまわりの物質 いろいろな物質とその性質」の単元内において探究の学習過程が示されており、「考えてみよう」を通して探究学習を進めることができる。</li> <li>○各学年の巻末の「地域・環境資料集」で、各地域の特徴的な自然事象や施設等が数多く紹介され、地域教材の参考にできる。県内の施設も2つ(広島市こども科学館, 安佐動物公園)紹介されており、興味・関心を高めるものになっている。</li> <li>○巻末資料が充実している。(1年生 11ページ, 2年生 7ページ, 3年生 27ページ)</li> <li>○各学年巻頭写真に美しい写真を提示してあり、興味を抱かせるのに有効である。</li> <li>●目に見えない力の単元のはじめでは、後に学習する2力の合成や分解の写真を2点提示している。</li> <li>●主に考察場面での話し合い活動について考察場面において考えてみようという見出し(1年生 2, 2年生 1, 3年生 1)はあるが、話し合い活動を明示していない。</li> </ul>



様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

## 種 目 名 ( 音楽【一般】 )

## 【観点ごとの具体的な視点】

## (1) 基礎・基本の定着

- 視点① 題材の目標の示し方
- 視点② 歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫
- 視点③ 創作の基礎・基本の定着を図るための工夫
- 視点④ 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫
- 視点⑤ 共通事項の指導の工夫

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点① 興味・関心を高めるための工夫
- 視点② 表現と鑑賞の関連
- 視点③ 主体的な学習活動

## (3) 内容の構成・配列・分量

- 視点① 多様な音楽からの選曲
- 視点② 発達段階に応じた配列と分量
- 視点③ 発展的な学習に関する内容
- 視点④ 発行者の特徴

## (4) 内容の表現・表記

- 視点① 説明の分かりやすさ
- 視点② 写真・イラスト等の活用

## (5) 言語活動の充実

- 視点① 表現領域における言語活動の工夫
- 視点② 鑑賞領域における言語活動の工夫

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 1 )

## (1) 基礎・基本の定着

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
教 出	<p><b>視点① 題材の目標の示し方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 目次は3つの柱で構成され、教材名があるが、各題材の目標は示されていない。</li> <li>● 各教材に目標が2つ以上示されているが、やや多い。</li> </ul> <p><b>視点② 歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 変声（声変わり）について詳しく掲載されている。</li> <li>○ 歌唱の基礎・基本が、楽譜とイラストで示されている。（「Let's Sing!」）</li> <li>● 歌唱の基礎・基本は1年生のみの取り扱いで、他の学年には掲載されていない。</li> <li>○ 我が国の伝統的な歌唱について、歌い方を詳しく取り扱っている。</li> <li>○ 楽典のページが見開き資料で載せてあり、基礎的な事項を確認しやすい。</li> </ul> <p><b>視点③ 創作の基礎・基本の定着を図るための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 創作のページが書き込みのワークシートなので基礎・基本の定着を図れる。</li> <li>○ 学年ごとに段階的に取り組めるよう示されている。</li> </ul> <p><b>視点④ 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ページの端の年表で、曲ができた時代を系統的に整理されている。</li> <li>○ 楽譜などの資料が詳しく掲載されている。</li> <li>○ 音楽史年表では各時代の特徴をまとめた説明文がある。</li> </ul> <p><b>視点⑤ 共通事項の指導の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共通事項アについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・各題材の目標に、共通事項が示されている。</li> <li>・鑑賞曲において、共通事項について楽譜や絵図を用いて示されている。</li> </ul> </li> <li>○ 共通事項イについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲に新しく出てきた記号や用語の解説、または解説されているページが示されており、解説ページにも各ページに戻れるよう楽曲のページが示されている。</li> </ul> </li> </ul>

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 2 )

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
教 芸	<p><b>視点① 題材の目標の示し方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材が領域と関連させて示されている。（「音楽学習MAP」）</li> <li>○ 各題材で扱う共通事項が記号で示されている。</li> <li>○ 目次にも各頁にも「題材の目標」が明記されている。</li> </ul> <p><b>視点② 歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌唱の基礎・基本が、楽譜とイラストで示されている。（「My Voice!」）</li> <li>○ 曲種に応じた発声を学ぶための教材が各学年にある。</li> <li>○ 発達段階に応じた合唱曲が多い。</li> <li>○ 「ここが分かればGrade up!!」に示された共通事項を切り口にした解説は、歌唱表現の工夫に繋がられる。</li> <li>○ 表現の工夫について学習すべき事項が3年間繰り返して示されている。</li> </ul> <p><b>視点③ 創作の基礎・基本の定着を図るための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 創作の基礎・基本の定着について、段階的に取り組めるよう示されている。</li> <li>○ リズム創作、旋律創作それぞれに取り組めるよう、分けて示されている。（リズム創作＝「Let's Create!」、旋律創作＝「My Melody」）</li> <li>○ 短時間でも創作できるように工夫されている。</li> </ul> <p><b>視点④ 鑑賞の基礎・基本の定着を図るための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標を達成するための説明や写真が分かりやすい。</li> <li>○ 目標の提示が適切に効果的に扱われている。</li> <li>○ ねらいに応じて指導すべき事項が、無駄なく確実に示されている。</li> </ul> <p><b>視点⑤ 共通事項の指導の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共通事項アについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・各題材で扱う共通事項が記号化されて示されている。</li> <li>・共通事項を切り口にした解説が示されている。（「ここが分かればGrade up!!」）</li> </ul> </li> <li>○ 共通事項イについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽曲に新しく出てきた記号や用語の解説、または解説されている頁が示されている。</li> <li>・前学年で既習した記号や用語が復習できる。（「RHYTHM GAME」）</li> </ul> </li> </ul>

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 3 )

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
教 出	<p><b>視点① 興味・関心を高めるための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現在活躍している著名な音楽家からのメッセージや作曲家のエピソードを掲載し、音楽文化への興味を喚起している。</li> </ul> <p><b>視点② 表現と鑑賞の関連</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 箏曲の鑑賞教材に縦譜が掲載され、表現との関連を図ることができる。</li> <li>● 文楽・能等の採譜が掲載されているが、専門的な知識がないと活用しにくい。</li> </ul> <p><b>視点③ 主体的な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 変奏曲の鑑賞で、音楽を形づくっている要素を感受し、それを伝え合う活動ができる。</li> <li>○ 鑑賞教材にワークシートが置かれ、感じ取ったことをそのまま書き込んで活用できる。</li> <li>● 創作活動の課題がやや難しく、短時間では扱いにくい。</li> </ul>
教 芸	<p><b>視点① 興味・関心を高めるための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌唱共通教材について、世代を超えて親しみ、歌い継いでいこうとする工夫がある。</li> <li>○ 諸外国の鑑賞教材において、当時の日本の文化との関連を図ることができる。</li> <li>○ 我が国の伝統的な音楽、自然音、環境音を扱った美しい口絵資料等、我が国の伝統的な感性にふれる資料が豊富に掲載されている。</li> <li>○ 「BHYNGO GAME」等で、楽典に楽しく取り組むことができる。</li> <li>● 演奏発表向けの、取り組みがいのある合唱教材が少ない。</li> </ul> <p><b>視点② 表現と鑑賞の関連</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ どの表現教材と鑑賞教材が関連するのか明確に示し、前後に配列するなど関連が図られている。</li> <li>○ 民謡、長唄、能を歌唱教材として扱っており、我が国の伝統的な音楽の鑑賞との関連が図られている。</li> <li>○ 我が国の伝統的な音楽の、伝承方法（<small>ひちりき</small>筆楽の唱歌）を体験することができる。</li> </ul> <p><b>視点③ 主体的な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発展的なコラム、言語活動の手引き等、生徒の学習意欲を喚起する情報が豊富である。</li> <li>○ 「創作」について、ねらいや手順が丁寧に示されている。</li> <li>○ 創作活動において、グループで協力しながら進めることができるような課題設定がある。</li> <li>○ 指揮、発声、楽典等、楽しみながら自学自習することができる。</li> </ul>

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 4 )

## (3) 内容の構成・配列・分量

発行者名	意見（○ 長所 ● 課題）
教 出	<p><b>視点① 多様な音楽からの選曲</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌唱教材1年生18曲, 2・3年生(上)19曲, 2・3年生(下)18曲</li> <li>鑑賞教材1年生6曲, 2・3年生(上)7曲, 2・3年生(下)6曲</li> <li>創作教材1年生3曲, 2・3年生(上)2曲, 2・3年生(下)2曲</li> <li>と各学年の発達段階に応じた選曲がなされている。</li> <li>● 選曲に工夫はあるが3学年を見通した配列になっていない部分がある。</li> </ul> <p><b>視点② 発達段階に応じた配列と分量</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 青・ピンク・緑のマークで, 題材名や, 表現と鑑賞との関連が示されているが, やや分かりにくい。</li> <li>● 説明の文章量が多い。</li> <li>● 単独で共通事項が示されている。</li> </ul> <p><b>視点③ 発展的な学習に関する内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習方法や学習のポイントが明確に示されていない。</li> </ul> <p><b>視点④ 発行者の特徴</b></p> <p>目次において, 配列が「音楽の要素を捉えながら」, 「さまざまな音楽文化」, 「歌い合わせ聴き深める喜び」の3つの柱で示されている。</p>
教 芸	<p><b>視点① 多様な音楽からの選曲</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌唱教材1年生23曲, 2・3年(上)20曲, 2・3年(下)17曲</li> <li>鑑賞教材1年7曲, 2・3年(上)8曲, 2・3年(下)10曲</li> <li>創作教材1年2曲, 2・3年(上)2曲, 2・3年(下)2曲</li> <li>と各学年の発達段階に応じた選曲がなされている。</li> </ul> <p><b>視点② 発達段階に応じた配列と分量</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「音楽学習MAP」において, 歌唱・鑑賞・創作のそれぞれの教材で何を学習するのが確認できる。</li> <li>○ 説明の文章量が適切である。</li> <li>○ 学習内容に即して共通事項が分かりやすく示されている。</li> </ul> <p><b>視点③ 発展的な学習に関する内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発展的な学習へのアプローチがある。</li> </ul> <p><b>視点④ 発行者の特徴</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌唱や創作等の活動につながる「ここが分かればGrade up!」, 「確認しよう」, 「発声」, 「指揮」をすべての学年で掲載している。</li> <li>○ 歌唱と創作の活動を関連させながら配列している。</li> </ul>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 5 )

## (4) 内容の表現・表記

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
教 出	<p>視点① 説明の分かりやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽典が巻末に折り込みであるので、調べる際すぐに分かる。</li> <li>○ 鑑賞曲は見開きで示されているものが多い。</li> <li>○ 鑑賞曲での主旋律の楽器が写真なので分かりやすい。</li> <li>○ 楽典の内容と使用頁が併記されている。</li> <li>○ 製本がしっかりして背表紙が読みやすい。</li> </ul> <p>視点② 写真・イラスト等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 曲の情景が大きく写真で示されている。</li> <li>● 巻末の折り込み資料は破損しやすい。</li> <li>● 写真からのイメージが強すぎて発想の偏りが考えられる。</li> <li>● 他は写真または多色刷りだが、「資料」では楽譜が2色刷りである。</li> </ul>
教 芸	<p>視点① 説明の分かりやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 共通事項がイラストで表記されており、学習時の手掛りになる。</li> <li>○ 鑑賞では、日本とアジアの楽器の比較がされて分かりやすい。</li> <li>● 背表紙が読みにくい。</li> </ul> <p>視点② 写真・イラスト等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習のポイントや視点がキャラクターで示されている。</li> <li>○ 巻頭や巻末の写真に迫力があり、引き込まれるものが多い。</li> <li>○ 楽譜の両端にイラストがあり、温かい雰囲気でも歌唱できる。</li> </ul>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 6 )

## (5) 言語活動の充実

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
教 出	<p><b>視点① 表現領域における言語活動の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 歌唱教材に、自分の思いや意図をもち、相互に伝え合う活動が示されていない。</li> </ul> <p><b>視点② 鑑賞領域における言語活動の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鑑賞教材に、自分の意見や考えを書き込む個所があり、伝える活動が仕組みられている。（「伝えてみよう！」）</li> </ul>
教 芸	<p><b>視点① 表現領域における言語活動の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の思いや意図をもち、互いの意見を発表し合う活動が多く仕組みられている。</li> </ul> <p><b>視点② 鑑賞領域における言語活動の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現活動と関連させて、話し合う視点が吹き出しで示されている。</li> <li>○ 鑑賞教材に、自分の意見や考えを書いたり交流したりする手掛りがある。</li> </ul>

## 様式 2

## 【報告書要約】

## 中学校音楽（一般）

発行者名	意見（○ 長所 ● 課題）
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3つの柱で教材（楽曲）を構成し、各教材（楽曲）に学習のねらいが2つずつ示されているが、構成や配列の意図が分かりにくく、1曲の学習のねらいが多い。</li> <li>○ 歌唱の基礎・基本の定着を図るために、変声期の指導や我が国の伝統的な歌唱の発声を取り上げており、創作では直接書き込みができる工夫がある。</li> <li>○ 鑑賞において、感じ取ったことを直接書き込む工夫がある。</li> <li>● 鑑賞において、表現との関連が図られているが、専門的な知識がないと活用しにくいものがある。</li> <li>● 興味・関心を高める工夫はあるが、主体的に学習に取り組むための説明やアプローチがあまり見られない。</li> <li>● 歌唱教材に、自分の思いや意図を伝え合う活動が示されていない。</li> <li>● 発展的な学習のための学習方法やポイントが分かりにくい。</li> <li>● 写真のイメージが強すぎる。折り込みは扱いにくく破損しやすい。</li> </ul>
教芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 領域ごとに学習指導要領の指導内容を柱として教材（楽曲）が構成されており、各教材（楽曲）にも学習のねらいが焦点化して示されている。</li> <li>○ 歌唱及び創作の基礎・基本の定着を図るために、段階的に学習する工夫や継続して取り組むための手掛りがある。</li> <li>● 歌唱教材は多いが、楽曲の特徴やよさを感じ取りにくい。</li> <li>○ 鑑賞においては、表現との関連を図る工夫があり、演奏体験を通した深まりのある学習ができる。</li> <li>○ 主体的に学習に取り組むために、生徒の学習意欲を喚起する情報が豊富で具体的な手掛りが示されている。</li> <li>○ どの領域にも自分の思いや意図をもち、意見を発表し合う活動が多く仕組まれている。</li> <li>○ 発展的な学習へのアプローチがある。</li> <li>○ 写真やイラストが効果的である。</li> </ul>



様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

## 種 目 名（ 音楽【器楽合奏】 ）

## 【観点ごとの具体的な視点】

## (1) 基礎・基本の定着

- 視点① 題材の目標の示し方  
 視点② 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫  
 視点③ 共通事項の指導の工夫

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点① 興味・関心を高めるための工夫  
 視点② 主体的な学習活動

## (3) 内容の構成・配列・分量

- 視点① 多様な音楽からの選曲  
 視点② 発達段階に応じた配列と分量  
 視点③ 発展的な学習に関する内容  
 視点④ 発行者の特徴

## (4) 内容の表現・表記

- 視点① 説明の分かりやすさ  
 視点② 写真・イラスト等の活用

## (5) 言語活動の充実

- 視点① 器楽における言語活動の工夫

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 1 )

## (1) 基礎・基本の定着

発行者名	意見（○ 長所 ● 課題）
教 芸	<p><b>視点① 題材の目標の示し方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材が領域と関連させて示されている（「音楽学習MAP」）。</li> <li>○ 題材の目標の示し方が具体的で分かりやすい。</li> </ul> <p><b>視点② 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な楽器の基礎的な知識や奏法の解説が分かりやすい。</li> <li>○ サミング（※1）の表記が分かりやすく適切である</li> <li>○ ラテン打楽器の奏法の頁もあり，説明も分かりやすい。</li> <li>● アルトリコーダーだけのアンサンブル（合奏）曲が少なく，ソプラノリコーダーとアルトリコーダーを両方使う器楽曲が多い。</li> </ul> <p><b>視点③ 共通事項の指導の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ここが分かればGrade up!!」に示された共通事項を切り口にした解説は，器楽表現の工夫に繋がられる。</li> </ul> <p>※1 管楽器における親指の使い方</p>
教 出	<p><b>視点① 題材の目標の示し方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材ごとに目標が示されている。</li> <li>● 目標の示し方が抽象的でやや分かりにくい。</li> </ul> <p><b>視点② 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な楽器の基礎的な知識や奏法の解説が詳しい。</li> <li>○ 内容が豊富で，学校や生徒の実態に応じて取り組める。</li> <li>○ ギター&amp;キーボードのコード表が一覧で示されており分かりやすい。</li> </ul> <p><b>視点③ 共通事項の指導の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ リコーダーや箏を使った創作「音のスケッチ」では，創作活動を通して共通事項についての学習ができる。</li> </ul>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 2 )

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
教 芸	<p><b>視点① 興味・関心を高めるための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な小打楽器についての扱いがある。</li> <li>○ 長唄「勸進帳」から寄せの合方の演奏を編曲してリズムアンサンブル（合奏）で体験できるような工夫がある。</li> <li>● アルトリューダーのみでアンサンブル（合奏）できる教材が少ない。</li> </ul> <p><b>視点② 主体的な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 箏で簡単な旋律を創作し、我が国の伝統的な音楽に親しむことができる。</li> <li>○ ラテンパーカッション（打楽器）を活用してリズム伴奏を創作し、グループで工夫してアンサンブル（合奏）することができる。</li> <li>● ダイアグラム（図表・線図）が単独で掲載され、五線や鍵盤との関連は示されていない。</li> </ul>
教 出	<p><b>視点① 興味・関心を高めるための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 箏の教材としてポピュラー音楽である「もののけ姫」が扱われており、和楽器に親しみやすい。</li> <li>○ 長唄「勸進帳」から寄せの合方の演奏を、三味線を中心に原曲に近く体験できるような工夫がある。</li> <li>● ラテンパーカッション（打楽器）が取り扱われていない。</li> </ul> <p><b>視点② 主体的な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 箏で前奏を創作し、発表し合う活動が扱われている。</li> <li>○ 親しみやすい曲を、リコーダーだけでなく様々な楽器でアンサンブル（合奏）することができる。</li> <li>○ ギター&amp;キーボードコード表がカラー見開きで掲載され、ギターのタブ譜（※2）だけでなく五線と鍵盤でも図示されているため、自学自習できる。</li> <li>○ 塩ビ管で横笛を製作する方法が掲載されている。</li> </ul> <p>※2 弦楽器用の楽譜</p>

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 3 )

## (3) 内容の構成・配列・分量

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
教 芸	<p><b>視点① 多様な音楽からの選曲</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アルトリコーダー，ギター，和楽器，及びアンサンブル（合奏）の楽曲がある。</li> <li>○ 箏による創作の教材を取り入れている。</li> <li>○ ラテン楽器（※3）を扱っている。</li> </ul> <p><b>視点② 発達段階に応じた配列と分量</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目次と「音楽学習MAP」において，それぞれの教材で何を学習するのかが確認できる。</li> <li>○ 学習内容に即して共通事項が分かりやすく示されている。</li> <li>○ 生徒の発達段階や各校の実態に応じて選曲できるよう，教材（楽曲）の数が適切である。</li> </ul> <p><b>視点③ 発展的な学習に関する内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽器ごとに発展的な学習として，名曲の鑑賞を取り入れている。</li> <li>○ 楽器のよさやおもしろさ，奏法の基本などを掲載することで，生涯学習への導入となっている。</li> </ul> <p><b>視点④ 発行者の特徴</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽器別教材とアンサンブル（合奏）教材によってバランスよく構成されている。特に，映画・ポピュラー音楽等のアンサンブル曲の分量が豊富である。</li> </ul> <p>※3 カウベル（打楽器ベル），ボンゴ（手打ち小太鼓），コンガ（手打ち大太鼓）等</p>
教 出	<p><b>視点① 多様な音楽からの選曲</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アルトリコーダー，ギター，和楽器，及びアンサンブル（合奏）の楽曲がある。</li> <li>○ アルトリコーダー，箏，篠笛による創作の教材を取り入れている。</li> </ul> <p><b>視点② 発達段階に応じた配列と分量</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ソプラノリコーダーからアルトリコーダーへの移行への工夫がある。</li> <li>○ 生徒の発達段階や各校の実態に応じて選曲できるよう，教材（楽曲）の数が適切である。</li> </ul> <p><b>視点③ 発展的な学習に関する内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手作りの横笛製作は，他教科との連携が図れる。</li> <li>● 発展的な学習の内容が分かりにくい。</li> </ul> <p><b>視点④ 発行者の特徴</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽器別教材とアンサンブル（合奏）教材によってバランスよく構成されている。</li> <li>○ 特に，アルトリコーダー以外の楽器別の楽曲数が豊富である。</li> </ul>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 4 )

## (4) 内容の表現・表記

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
教 芸	<p><b>視点① 説明の分かりやすさ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 名曲のテーマ曲では作曲者や簡単な説明がある。</li> <li>○ 巻末に楽典があり，調べやすい。</li> <li>○ リコーダーの4つの奏法が分かりやすい。</li> </ul> <p><b>視点② 写真・イラスト等の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 楽譜の上下にカラーデザインがあり温かい雰囲気になる。</li> <li>○ 打楽器の演奏写真は関心が持ちやすい。</li> <li>○ ギターの多くの種類の写真が掲載されている。</li> </ul>
教 出	<p><b>視点① 説明の分かりやすさ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ リコーダーの姿勢において，息の吸い方の写真がある。</li> <li>○ 指孔と指番号のイラストがある。</li> <li>○ ページの横に運指が書いてあり調べやすい。</li> <li>○ 巻末に楽典があり調べやすい。</li> <li>○ 和太鼓の説明がきめ細かい。</li> <li>○ サミング（※1）の方法の説明がきめ細かい。</li> </ul> <p><b>視点② 写真・イラスト等の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ギターの奏法の写真の角度が分かりやすい。</li> <li>○ ページ上部のカラーデザインが優しい感じで使われている。</li> <li>● 折り込み資料は3年間使うと破損しやすく扱いにくい。</li> </ul> <p>※1 管楽器における親指の使い方</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 5 )

## (5) 言語活動の充実

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
教 芸	<p>視点① 器楽における言語活動の工夫</p> <p>○ グループアンサンブル（合奏）において、話し合いながら工夫するよう示されている。</p>
教 出	<p>視点① 器楽における言語活動の工夫</p> <p>○ 自分たちの演奏を紹介するための手がかかりがある。</p>

## 様式 2

## 【報告書要約】

## 中学校音楽（器楽合奏）

発行者名	意見（○ 長所 ● 課題）
教 芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 領域ごとに学習指導要領の指導内容を柱として教材（楽曲）が構成されており，各教材（楽曲）の学習のねらいも具体的で分かりやすい。</li> <li>○ 器楽の基礎・基本の定着を図るための，基礎的な知識の説明や奏法の示し方が分かりやすい。</li> <li>● 創作の教材は箏だけである。</li> <li>● アルトリコーダーのための教材（楽曲）が少ない。</li> <li>○ ラテン楽器（※1）の奏法や教材（楽曲）を取り扱っている。</li> <li>○ 主体的に学習に取り組むために，創作を取り入れたグループ活動がある。</li> <li>○ 楽器ごとに発展的な学習への取組があり，生涯学習へのアプローチもある。</li> <li>○ 映画・ポピュラー音楽等のアンサンブル（合奏）の教材（楽曲）が豊富である。</li> <li>○ グループ演奏において，話し合いながら工夫するよう示されている。</li> </ul> <p>※1 カウベル（打楽器ベル），ボンゴ（手打ち小太鼓），コンガ（手打ち大太鼓）等</p>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目標が教材（楽曲）ごとに示されているが，抽象的で分かりにくい。</li> <li>○ 器楽の基礎・基本の定着を図るための，基礎的な知識の説明や奏法の示し方がきめ細かく分かりやすい。</li> <li>○ アルトリコーダー，箏，篠笛による創作の教材を取り入れている。</li> <li>○ ソプラノリコーダーからアルトリコーダーへの移行のための工夫がある。</li> <li>○ 主体的に学習に取り組むために，親しみやすい楽曲や多様な楽器でのグループ演奏の工夫がある。</li> <li>○ ギターのタブ譜（※2），五線，鍵盤の併記は，自学自習に効果的である。</li> <li>○ 塩ビ管で横笛を制作する方法が記載されており，授業外でも楽しめる。</li> <li>● 発展的な学習へのアプローチや内容が分かりにくい。</li> <li>● 折り込みは扱いにくく破損しやすい。</li> <li>○ 自分たちの演奏について紹介するための手掛りがある。</li> </ul> <p>※2 ギターの演奏に用いる専用の楽譜</p>

様式1-1

中学校教科用図書調査研究報告

## 種 目 名 ( 美 術 )

## 【観点ごとの具体的な視点】

## (1) 基礎・基本の定着

視点1 題材の提示や各題材の目標の示し方

視点2 表現と鑑賞に関する内容（日本の美術文化）

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点1 興味・関心を高めるための工夫

視点2 生活や社会との関わりを高めるための工夫

## (3) 内容の構成・配列・分量

視点1 題材や資料等の配列

視点2 掲載されている作品の数

## (4) 内容の表現・表記

視点1 題材と作品理解を深めるための工夫

## (5) 言語活動の充実

視点1 言語を用いた発想・構想の工夫

視点2 作者の言葉の記述



## (1) 基礎・基本の定着

## ● 題材の提示や各題材の学習目標の示し方

新着	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
開隆堂	<p>○図画工作から美術となる第1学年の初めのページは「美術って、何だろう？」と題し、震災後の美術館の作品の写真を使用。また、「集める・試す・組み立てる」の言葉と作品制作を行う過程を写真や図を用いて表わしている。</p> <p>○絵画の題材の提示は「ものを見つめる」「心ひかれる風景」等で題材提示の次に「形や色彩を観察しよう」等、学習の重点を示している。4観点別の学習のふりかえりの記述が下部にあり、生徒自身がまとめを行う工夫がされている。また、作品制作のための発想に役立つヒントとなるアイデアスケッチなどがある。</p>
光村	<p>○図画工作から美術となる第1学年の初めのページは谷川俊太郎の「うつくしい！」の詩とシャガールの絵画をもとに鑑賞の導入としている。さらに、「美術って何だろう？」と題し、建築されたものや社会の中で人があらゆる表現を行う際の過程や多種類の作品例を記載している。</p> <p>○絵画の題材の提示は「見て描く楽しみ」「心安らぐ私の風景」等で、題材の目標として各題材とも4観点別に示し、チェックができる欄がある。また、学習を進めていく上で他教科につながることや発想を広げるためのポイントを10のマークの種類に分け学習を深めていく工夫がされている。</p>
日本文	<p>○図画工作から美術となる第1学年の初めのページは「出合って広げよう」の言葉とゴッホの絵画を使用し、学習の導入に活用できる工夫がされている。さらに「図画工作、そして…美術へ」の言葉と表現を行うきっかけとなるタイトルとともに制作の活動写真や作品の写真を表示している。</p> <p>○絵画の題材の提示は「見て感じて、描く」「なぜか気になる情景」等で次に「身近なものの美しさをスケッチする」と示している。学びのねらいとして4観点をそれぞれに特徴あるマークをつけ表示し、記述している。</p>

## (1) 基礎・基本の定着

## ●表現と鑑賞に関する内容（日本の美術文化）

新 裕	意 見 ( ○ 長所 ● 課題 )
開 隆 堂	<p>○近年話題となった日本の出来事に関連したことが掲載されている。美術1では少ないが、美術2・3では日本の伝統に関する題材の中では特に絵巻物を現在のアニメーションと関連づけ、生徒の関心を高める工夫がされている。</p> <p>【美術1】において</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋と日本の絵画の比較の学習がある。デザイン・工芸の分野で生活の中のおもしろい文字・ユニットを使うデザイン・竹細工・うちわ・曲げわっぱなどがある。</li> <li>・「原寸ギャラリー」では樹花鳥獣図屏風</li> </ul> <p>【美術2・3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「絵巻物の世界」「モノトーンの美しさ」「原寸ギャラリー」「伝統美に学ぶ」「ゴッホと日本」「祈りの造形」「和様柄」「伝統の美に学ぼう」「人が作る技を究める」「日本の歴史」など</li> </ul> <p>○絵画の遠近法の学習を行う際に歴史を振り返り、日本と西洋の方法、作品の修復へと学習の広がりを持たせる題材の設定がされている。</p> <p>○基本的な技法や知識などに関する記載については次のような学習内容がある。</p> <p>【美術1】ガイダンスや資料的な内容として「パレットコーナー」「道具箱」「色彩のホームページ」「作品集をデザインする」</p> <p>【美術2・3】「美術はいつもの生活や暮らしの中に」「劇的な瞬間を描く」「ルネサンスの美術」「原寸ギャラリー」「生きることと美術」「ゲルニカ」「人の表現から見る美術の歴史」「色彩のホームページ」</p>
光 村	<p>○美術1から日本の伝統に関する内容が多種多様に、取り上げられている。</p> <p>【美術1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展示室「風神雷神, 自然と人と」「自然と向き合う日本の美」「文様, 飾りの小宇宙」「木のぬくもりと暮らす」「生活の中の焼き物」</li> <li>・原寸大で鑑賞しよう」火焰型土器 「アジアをつなぐ仮面の舞」資料の中から「日本の伝統色」「紙木竹土」</li> </ul> <p>【美術2・3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「阿修羅像」「墨の世界を体感しよう」「想像の生物を作る」「浮世絵から学ぶ」「江戸職人像」「鳥獣花木屏風」「北と南の風土から」「季節感のある暮らしを楽しむ」「平螺鈿背円鏡」「美術史」「ジャポニズム」「日本に関する内容 歴史, 遺産」</li> </ul> <p>○見開きの鑑賞作品は生徒に押さえておきたい内容のものが選択されている。また、ESDを意識した内容も設定されている。</p> <p>○基本的な技法や知識などに関する記載について次のような学習内容がある。</p> <p>【美術1】「発想のためのスケッチブック」「鉛筆やペンで描く」「絵の具で描く」「さまざまな技法で描く」「文字をデザインする」「粘土で作る」「木で作る」「色と光の特徴を知ろう」「形と材料の特徴を知ろう」「体験しよう！美術館」</p> <p>【美術2・3】「発想のためのスケッチブック」「映像メディアを活用する」「金属や石で作る」「色と光の特徴を知ろう」「トピックス美術史」「美術史年表」「絵巻物を楽しむ」「中学校美術, 最後の時間に」</p>

日 文	<p>○美術1には日本の伝統に関する内容は少ないが、美術2・3の上・下に多く取り上げられている。特に仏像に関する内容は2学年の修学旅行に向けた学習に生かすことができると思われる。</p> <p>【美術1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインや工芸などから・焼き物 お椀, 箸置き</li> <li>・「伝統の中の動物たち」</li> </ul> <p>【美術2・3上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「不動明王」「墨が生み出す豊かな世界」「東へ西へ」「日本の美術」</li> <li>「日本美術の展開と世界との交流」「工芸に見る日本の伝統色」</li> </ul> <p>【美術2・3下】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「美を探し求めて」「刻まれた祈り」「自然を愛でる空間」「日本の文化遺産」</li> <li>「うけつぎつくる人の姿」「仏像の種類」</li> </ul> <p>○ESDに関する内容があり、地元の遺産が掲載されている。</p> <p>○【美術1】で遠近法が資料の技法の中に掲載されている。</p> <p>○基本的な技法や知識などに関する記載について次のような学習内容がある。</p> <p>【美術1】学習に役立つ資料として「自然界や身の回りにある形や色」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「鉛筆で描く」「水彩で描く」「遠近感を表す」</li> <li>「色の広がり, 色の魅力, 三原色から生まれる色, 色を学ぶ」</li> <li>「モダンテクニック」「木版画」「木工の技法」「焼き物を作る」</li> </ul> <p>【美術2・3上】「街を彩るパブリックアート」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「日本美術の展開と世界との交流」「現代にうけつがれる浮世絵版画」</li> <li>「水墨画の技法」「粘土でつくる」「木でつくる」</li> <li>「色について理解を深めよう 配色 日本の伝統色」</li> </ul> <p>【美術2・3下】「日本の世界文化遺産」「受け継ぎつくる人の姿」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「アートを体験する場に出かけよう」「写真撮影の第一歩」</li> <li>「コンピューター・グラフィックスの表現」「アニメーションの表現」</li> <li>「石を掘る」「織る」「仏像の種類」「近代の建築」</li> </ul>
--------	--

## (2) 学習方法の工夫

## ●興味・関心を高めるための工夫

新着	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
開隆堂	<p>○美術1の巻頭では「美術って何だろう？」で、美術で学ぶ大切なことがまとめられている。また「集める・試す・組み立てる」で、これからの表現活動で大切なことが整理されている。</p> <p>○題材の分野・内容を、ページ左上の色帯で表示してある。</p> <p>○「ふりかえり」が各題材の最後のページに示されていて、どんな力がついたかを確かめながら学習を進めることができる。</p> <p>○「パレットコーナー」や「工具箱」など、表現するための基本的な知識がまとめられている。</p> <p>○原寸ギャラリーとして、樹花鳥獣図屏風(美術1)、モナ・リザ(美術2・3)、櫻図(美術2・3)が取り上げられており、原寸大で作品をイメージできる工夫がされている。</p> <p>○文章は短いですが、作者の言葉が多く載せられていて、作品理解に役立つとともに制作のヒントにもなる。</p> <p>○「基礎基本」や「知識・情報」や「安全に関する内容」などに、わかりやすくするための工夫として、8種類のマークが設定してある。</p>
光村	<p>○美術1の巻頭では「美術って何だろう？」で、小学校からの流れが整理されている。美術2・3の巻頭では、生徒の一日の生活に合わせて美術との関わりが整理されている。</p> <p>○題材の分野・内容を、ページ左上の色帯で表示してある。</p> <p>○制作過程を丁寧に載せてある。また、「みんなの工夫」として、美術1で2回、美術2・3で4回、それぞれの段階での考えが書いてある。</p> <p>○「生活に生かそう」では、生徒が制作に目的を持ちやすくするため、完成後に飾ったり使ったりしている写真が載せられている。</p> <p>○火焰型土器(美術1)、灰色のフェルト帽の自画像(美術2・3)、鳥獣花木図屏風(美術2・3)、平螺鈿背円鏡(美術2・3)など、原寸大で作品をイメージできる工夫がされている。</p> <p>○「作者の言葉」が多く載せられていて、作品理解に役立つとともに制作のヒントにもなる。</p> <p>○生徒の表現と鑑賞の手助けとなる「学習を支える資料」が、美術1の46ページ以降と美術2・3の78ページ以降にまとめられている。</p> <p>○「目標」や「発想を広げるヒント」や「国宝」などに、わかりやすくするための工夫として、10種類のマークが設定してある。</p>

日 文	<p>○美術1「出会いと広がり」、美術2・3上「学びの広がり」、美術2・3下「美の探求」という各学年の各巻のつながりが明記されている。</p> <p>○美術1の巻頭では「図画工作、そして・・・美術へ」で、小学校からの流れが整理されている。</p> <p>○題材の分野・内容を、ページ左上の色帯で表示してある。</p> <p>○富嶽三十六景（美術2・3上）が原寸大で載せられており、実際の作品をイメージできる工夫がされている。</p> <p>○生徒の表現と鑑賞の手助けとなる「学習に役立つ資料」が美術1の50ページ以降と美術2・3上の48ページ以降と美術2・3下の48ページ以降にまとめられている。</p> <p>○「学習のポイント」や「安全に関する注意」などに、わかりやすくするための工夫として、8種類のマークが設定してある。</p> <p>○作者の言葉が多く載せられていて、作品理解に役立つとともに制作のヒントにもなる。</p> <p>○生徒の興味・関心の高い漫画を、「漫画表現の豊かさ」で取り上げている。</p>
--------	--

## ●生活や社会との関わりを高めるための工夫

発行者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
開隆堂	<p>○美術1では、「生活を豊かに」という内容が6ページにわたり扱われている。学校生活など、生徒にとって特に身近な生活場面が取り上げられている。</p> <p>○美術2・3では、「美術はいつも生活や暮らしの中に」として、庭師やケーキ職人など幅広い職業の方と美術との関わりが紹介してある。</p> <p>○美術2・3の「デザインする心」の中では、楽しさや優しさやわかりやすさなど、生活における美術の役割を実感できる構成になっている。また「環境をデザインする」の中でも生活とデザインの関係について考えることができ、「学校をデザインしよう」でより具体的に身の回りを見つめ直すことができる。</p> <p>○美術2・3の「生きることと美術」として、社会の中における美術の目的などについて触れている。また、課題や責任といった言葉が使われている。</p>
光村	<p>○「生活に生かそう」では、生徒が制作に目的を持ちやすくするため、完成後に飾ったり使ったりしている写真が載せられている。</p> <p>○美術2・3の巻頭では、生徒の一日の生活と美術との関わりが整理されており、生徒がより美術を身近に感じられる工夫がされている。</p> <p>○美術2・3の「情報を整理して伝える」「みんなのためのデザイン」「暮らしの中のキャラクター」「包の工夫パッケージデザイン」「暮らしやすい町づくり」では、デザインと私たちの生活との関わりを考えやすくするため、10ページにわたり身近にあるユニバーサルデザインやマークなどが多く取り上げられている。</p>
日文	<p>○美術1では「デザインの扉を開こう」「楽しく伝える文字のデザイン」などで、生活の中の美術の役割を感じ取ることができる。美術2・3上では「情報をわかりやすく伝えよう」「やさしさのデザイン」「座ることから考える」「まちを彩るパブリックアート」で、8ページにわたり身近にあるマークや日用品などが取り上げられている。また美術2・3下では「魅力が伝わるパッケージ」「自分たちの生活の場を飾ろう」「生活を彩る染の味わい」「暮らしを心地よくするインテリア」「デザインと環境」「デザインで変える現在と未来」などで、デザインと私たちの生活との関わりを考えやすい内容になっている。</p> <p>○美術2・3下ではオリエンテーションに「夢をかたちにするデザイン」があり、未来の生活をより豊かにしていくデザインが紹介されている。</p>

## (3) 内容の構成・配列・分量

## ●題材や資料等の配列

新着	学年	題材等の数	項目別の題材等の数			構成・配列の仕方
			絵画 ・ 彫刻等	デザイン ・ 工芸等	鑑賞	
開隆堂	1	16	7	4	(5)	○美術1が1冊、美術2・3が1冊の2冊で構成されている。(美術1が45ページ、美術2・3が107ページ) ○題材が分野別に配列されている。「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「ガイダンスや資料的な内容」「鑑賞」としての内容が含まれる)
	2・3	28	9	8	(11)	○どちらも巻頭で「美術を通して学ぶ大切なこと」が見開きページで紹介されている。美術2・3では巻末資料の中にも紹介されている。巻末については、美術1は資料的な内容が掲載され、美術2・3は鑑賞学習につながる内容、美術史が掲載されている。
	合計	44	16	12	(16)	○題材については、「生徒の興味・関心を高める魅力ある題材の開発」、「自己と社会、美術と社会の関わりを考える題材の開発」「表現と鑑賞の領域の関連や系統性、バランスを考えた題材の構成」が図られている。 ○鑑賞の題材であることは明記されていない。
光村	1	18	6	5	7	○美術1が1冊、美術2・3が1冊の2冊で構成されている。(美術1が67ページ、美術2・3が105ページ) ○題材が分野別に配列されている。「はじめに」「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「学習を支える資料」
	2・3	33	14	10	9	○各題材等は、「表現」中心の題材か「鑑賞」中心の題材かが明記されている。 ○巻頭は、どちらも「感じたことを話し合う」で始まり「美術って何だろう？」と生徒の視点で導入されている。巻末は、どちらも「学習を支える資料」が掲載されている。
	合計	51	20	15	16	○題材については、各学年の系統性を配慮し、美術1では、小学校とのつながり、基礎となる資質や能力の定着を図る題材、美術2・3では、さらに深め、歴史や社会との関係に視野を広げる内容で、豊富な題材を各校の実情に合わせて選択できるよう図られている。

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 8 )

新着誌	学年	題材等の数	項目別の題材等の数			構成・配列の仕方
			絵画・彫刻等	デザイン・工芸等	鑑賞	
日 文	1	21	7	7	7	○美術1が1冊，美術2・3上が1冊・美術2・3下が1冊の3冊で構成されている。(美術1が59ページ，美術2・3上が57ページ，美術2・3下が55ページ)
	2	18	6	5	7	○題材が分野別に配列されている。「オリエンテーション」「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」「学習に役立つ資料」 ○各題材等は、「表現する活動」を主とした題材か「鑑賞する活動」を主とした題材かが明記されている。
	3	19	6	6	7	○巻頭は，3冊ともに各学年のねらいをオリエンテーションで導入されている。巻末は，3冊ともに「学習に役立つ資料」が掲載されている。
	合計	58	19	18	21	○題材については，美術科の基礎・基本を踏まえ，生徒のみずみずしい感性に働きかけ，豊かな情操と道徳心を培うような題材選定や構成に配慮し，「個に軸を置く題材」「身の回りの生活に関わる題材」「社会，自然や生命，環境と関わる題材」など自律・自立の精神を養えるよう図られている。



様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 9 )

## ●掲載されている作品の数

発行者	教科書	作家作品	生徒作品	合計	作家に関連・鑑賞風景	生徒の活動・活用風景	意見 (○ 長所 ● 課題)
開隆堂	1	21	96	116	9	37	○作家等の作品より生徒作品が多い。
	2・3	142	164	306	18	23	
光村	1	87	74	161	18	37	○生徒作品よりも作家等の作品の掲載が多い。生徒活動場面と作家に関連する写真が多い。
	2・3	242	102	344	28	25	
日本文	1	69	100	169	10	25	○作家に関連する内容や生徒の活動場面のものが少ない。
	2・3上	141	56	197	9	8	
	2・3下	85	55	140	11	21	

## (4) 内容の表現・表記

## ●題材と作品理解を深めるための工夫

新着	学年	折り込みページの内容	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
開隆堂	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美術って何だろう」被災地支援の活動作家の作品及び中学生の活動の紹介</li> <li>・「集める・試す・組み立てる」構想から制作の手順がわかりやすい提示</li> <li>・「心ひかれる風景」モネの作品の部分・全体・美術館展示風景の紹介</li> <li>・「工具箱」使用することの多い道具への理解と職人技の紹介</li> <li>・「色彩ホームページ」色彩の学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題材ごとに「学びのねらい」明示(全)</li> <li>○生徒や作家の作品の制作意図が作者の言葉として提示されている。</li> <li>○作家や作者の構想, 制作, 工夫, 活動・活用風景の提示(全)</li> <li>○鑑賞と表現の関連(全)</li> <li>・「なぜか気になる情景」(1)</li> <li>・わたしの「みち」(2・3)</li> <li>・「自分と向き合う」(2・3)</li> <li>・「版画の世界」(2・3)</li> <li>・「人の形に込めたもの」(2・3)</li> </ul>
	2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と違うこと, 他人と同じであること—美術を通して学ぶ大切なこと—</li> <li>・「群青富士」一人一人の個性的な表現</li> <li>・「生きることと美術」継承・責任, 社会の課題, 共生</li> <li>・「ゲルニカ」美術を通して学ぶこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「デザインで伝える」デザインのプロセス(2・3)</li> <li>・「人がつくる, 技を極める」(2・3)</li> <li>○生徒のアイデアスケッチの掲載に重点をおいている</li> <li>○原寸大の作品鑑賞(彫刻・絵画・工芸)</li> <li>・「モナ・リザ」(2・3)</li> <li>・「桜図」(2・3)</li> </ul>

	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩「うつくしい」とシャガール作品による詩と絵画を関連付けた鑑賞</li> <li>・「美術って何だろう」</li> <li>・「風神雷神」詩と彫刻作品と屏風作品による鑑賞</li> <li>・「色と光の特徴を知ろう」</li> <li>・「形と材料の特徴を知ろう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題材ごとに「目標」明示(全)問いかける題材提示</li> <li>○生徒や作家の作品の制作意図を作者の言葉として提示。生徒の文字のものもある(全)</li> <li>○作家や作者の構想,制作,工夫,活動・活用風景の提示(全)○鑑賞と表現の関連(全)</li> <li>・「見て描く楽しみ」(1)</li> <li>・「人のしぐさを捉える」(1)</li> <li>・「写して表す版画の魅力」(1)</li> <li>・「文様,飾りの小宇宙」(1)</li> <li>・「発想のためのスケッチブック」(1)</li> <li>・「空想の世界を旅する」(2・3)</li> <li>・「情景,気持ちを重ねて」(2・3)</li> <li>・「浮世絵から学ぶ江戸の職人技」(2・3)</li> </ul>
光村	2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩「うつくしい」と阿修羅像による詩と彫刻を関連付けた鑑賞</li> <li>・「朝起きてから夜眠るまでの美術」生活の中の美術</li> <li>・「風神雷神」詩と彫刻作品と屏風作品による鑑賞</li> <li>・「色と光の特徴を知ろう」</li> <li>・「形と材料の特徴を知ろう」</li> <li>・詩「生きる」と「ゲルニカ,明日への願い」詩と絵画を関連付けた鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「灰色のフェルト帽の自画像」(2・3)</li> <li>・「手紙～拝啓十五の君へ～」(2・3)</li> <li>・「環境とともに生きる彫刻」(2・3)</li> <li>・「絵や立体が動き出す」(2・3)</li> <li>・「ともにつくる喜び」(2・3)</li> <li>・「メッセージを伝えるポスター」(2・3)</li> <li>・「北と南の風土から」(2・3)</li> <li>・「季節感のある暮らしを楽しむ」(2・3)</li> <li>・「暮らしやすい町づくり」(2・3)</li> <li>・「夢を形にするデザイン」</li> <li>・「平螺鈿背円鏡」(2・3)</li> <li>・「発想のためのスケッチブック」「映像メディアを活用する」「金属や石でつくる」「色と光の特徴を知ろう」「形と材料の特徴を知ろう」(2・3)</li> <li>○詩や作者の言葉を印象づけた作品鑑賞による作品理解</li> <li>・「うつくしい」(全)</li> <li>・「風神雷神」(1)</li> <li>・「手紙～拝啓十五の君へ～」(2・3)</li> <li>・「生きる」</li> <li>○原寸大の作品鑑賞(彫刻・絵画・工芸)</li> <li>・「火炎型土器」(1)</li> <li>・野焼きの理解(2・3)</li> <li>・「灰色のフェルト帽の自画像」(2・3)</li> <li>・「鳥獣花木図屏風」(2・3)</li> <li>・「柘目描きに挑戦」(2・3)</li> <li>・「平螺鈿背円鏡」(2・3)</li> <li>○実物の色彩に近いものを再現した印刷である。</li> <li>○情報と鑑賞作品を分けることによって,先入観を持たせない工夫がなされている。</li> </ul>

日 文	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「出会って広げよう」ゴッホ、光や浮世絵との出会い</li> <li>・「図画工作、そして美術へ」ガイダンス</li> <li>・「花の生命」自然物を観察して特徴をとらえる</li> <li>・田中一村「奄美の海に蘇鉄とアダン」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題材ごとに「学びのねらい」を明示(全)</li> <li>○生徒や作家の作品の制作意図が作者の言葉として提示。生徒の文字のものもある。(全)</li> <li>○作品を見る視点の提示の工夫</li> <li>○作家や作者の構想段階、制作活動風景、活用風景の提示(全)鑑賞と表現の関連(全)</li> </ul>
	2・3 上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びを深めよう」井上直久とエルンストの作品の制作意図と工夫「表現の可能性を求めて」材料や方法から表現の可能性を追求する</li> <li>・「東へ、西へ」「富嶽三十六景」美術がつなぐ人と文化(ジャポニスム)を紹介</li> <li>・鑑賞の資料と技法の資料「日本の美術の展開と世界との交流」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美しさを発見する」対象の選択→主題の選択→対象の理解→表現の工夫→制作意図「好きな場所を紹介する」(1)</li> <li>・「人の形のおもしろさ」瞬間クロッキー(毛筆による)紹介(1)</li> <li>・「彫刻動物園」「生活を豊かに」「私の歩み」多彩な生徒作品、生徒の制作風景(1)</li> </ul>
	2・3 下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「美を探し求めて」備前焼作家と琉球紅型作家の紹介</li> <li>・「夢を形にするデザイン」工業デザイナーと職人の制作過程と作品が紹介</li> <li>・「刻まれた祈り」「三十三間堂」仏像の紹介→修学旅行事前鑑賞</li> <li>・「アートを体験する場に出かけよう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しぐさで語る動物たち」(2)</li> <li>・「手作りを味わう喜び」(2)</li> <li>・「デザインと環境」(3)</li> <li>○作品の多様な活用</li> <li>・「生活を豊かに」「材料を生かして」「美しさの交流」作品の多様な活用を紹介(1)</li> <li>・「自分たちの生活の場を飾ろう」(3)</li> <li>・「生活を彩る染めの味わい」(3)</li> <li>○鑑賞作品に対する情報量が多い、授業で教材として扱いにくい「名画の魅力に迫る」(2)</li> <li>・「三十三間堂」写真(3)</li> <li>・「ゲルニカ」(3)</li> <li>○地域と学校とのつながりのある活動の紹介。企画からプレゼンまで(3)</li> <li>○原寸大の作品鑑賞</li> <li>・「樹花鳥獣図屏風」(1)</li> <li>・「富嶽三十六景」(2)</li> </ul>

## (5) 言語活動の充実

## ●言語を用いた発想・構想の工夫

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
開隆堂	<p>○言語活動(文章表記による発想の充実)への配慮として美術1では4題材取り上げている。</p> <p>○話し合いを促す記述が美術1では6題材ある。</p> <p>○発想のヒントとなるアイデアスケッチやワークシートなどの事例は美術1において7通りあげられている。美術2・3では8通りあげられている。</p> <p>○「ふりかえり」という項目を設け、4観点の各項目に関する気づきを問いかけている。美術1では13題材、美術2・3では17題材ある。</p> <p>○鑑賞のきっかけとなる発問・問いかけを明確にするため、定められた色枠をレイアウトに用いている。</p>
光村	<p>○言語活動(文章表記による発想の充実)への配慮として美術1では2題材、美術2・3では3題材取り上げている。</p> <p>○話し合いを促す記述が美術1では7題材ある。美術2・3では15題材取り上げられている。</p> <p>○発想のヒントとなるアイデアスケッチやワークシートの事例は美術1において4通りあげられている。美術2・3では11通りあげられている。</p> <p>○美術1では道徳との関連が4題材、美術2・3では13題材ある。ただし、レイアウト上、教科書の一番下の行に「●」記号以下1.5mm画程度の大きさを1行示されているが、道徳の項目であるとは表記されていない。</p> <p>○形・色・材料・光などのことや、それらがもたらすイメージについて考えるための問いかけが各題材冒頭「Q」記号以下に表記しており、美術1において14題材、美術2・3において26題材ある。</p> <p>○作品に関連する「詩」を紹介することで作品のイメージを膨らませている。</p>
日本文	<p>○言語活動(文章表記による発想の充実)への配慮として美術1では2題材、美術2・3上で3題材、2・3下では1題材あげられている。</p> <p>○話し合いを促す記述が美術1では6題材ある。美術2・3上では5題材、美術2・3下では10題材あげられている。</p> <p>○発想のヒントとなるアイデアスケッチやワークシートなどの事例は美術1において7通りあげられている。美術2・3上では3通り、美術2・3下では8通りあげられている。</p> <p>○美術1では道徳との関連が2題材、美術2・3上で4題材、美術2・3下では9題材ある。ただし、レイアウト上、教科書の一番下の行に「★」記号以下1.5mm画程度の大きさを1行示されているが、道徳の項目であるとは表記されていない。</p> <p>○「Point」という項目を設けて学習内容における生徒の思考を促しており、美術1において17題材、美術2・3上で13題材、美術2・3下で17題材ある。</p>

様式1-2

## 【調査研究結果】

No. ( 14 )

## ●作者の言葉の記述

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
開隆堂	<p>○美術1において作者の言葉は41箇所、美術2・3においては89箇所記述されている。そのうち作家による言葉は美術1において6箇所、美術2・3において11箇所あげられている。文字の大きさは1.5mm前後の若干小さいものが用いられている。</p> <p>○作家の言葉は「私の一連の竹の文房具シリーズには EMPTY という名前をつけました。これはからっぽという意味ですが、竹の中空部分を生かしていることからつけた名前です」等がある。</p> <p>生徒の言葉は「1年間の私の成長が伝わるように、写真を選んだり、文字のデザインを工夫したりしました。」等がある。</p> <p>○作者の言葉のうち、生徒作品のコメントの数が多いものの、大部分は50文字未満の短文である。</p>
光村	<p>○美術1において作者の言葉は14箇所、美術2・3において29箇所記述されている。そのうち作家の言葉は美術1において8箇所、美術2・3において7箇所あげられている。</p> <p>○作者の言葉を枠線で囲み、見つけやすいレイアウトとしている。文字は2.5mm前後。ただし、作家の言葉、生徒作品についての作者の言葉は、「作者の言葉」枠で囲まれたものや、文脈上で用いられているものなどレイアウトが複数混在している。</p> <p>○作家の言葉「普段からノートを持ち歩き、イメージが浮かんだときにすぐに描けるようにしています。」等がある。生徒の言葉は「この絵では、15の僕を赤やオレンジなどの色であらわしています。」等がある。</p>
日文	<p>○美術1において作者の言葉は27箇所、美術2・3上においては20箇所、美術2・3下では21箇所記述されている。そのうち作家による言葉は美術1において4箇所、美術2・3上において2箇所、美術2・3下において2箇所あげられている。文字は2.5mm前後。</p> <p>○作家の言葉「人がものとかかわる時に起きる問題を、形や色などの工夫で改善するのがデザインの力です。」等がある。生徒の言葉は「つらいことがあっても、それを乗り越えれば楽しいことがあるという変化を色のグラデーションで表しました。」等がある。</p>

## 様式 2

## 報告書要約

## 中学校美術

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
開隆堂	<p>○掲載されている生徒作品の数が多く、多様な表現に触れることで生徒の表現活動の手助けになる。</p> <p>○題材ごとにページの最後に「ふりかえり」があり、生徒が自ら考える手助けとなる。</p> <p>○近年話題となった日本の出来事に関連したことが掲載されている。</p> <p>●作者のコメントは多いが、その多くが生徒の言葉で、50字以内の短文である。</p> <p>●制作する上での意欲づけにつながる生徒作品が多く掲載されているが、美術1での作家の作品数が少なくバランスに欠ける。</p>
光村	<p>○「ゲルニカ」など、生徒たちが有名な絵画と出会うとき、とても大切な要素である作品の色が他社よりも本物に近く再現されている。</p> <p>○制作過程を丁寧に載せてある。また、「みんなの工夫」でそれぞれの段階での考えが書いてあり、多くの生徒の参考になる。</p> <p>○生徒が作品と出会うとき、情報と鑑賞作品を分けることによって、先入観を持たせない工夫がなされている。</p> <p>○美術2・3の巻頭をはじめ、生徒の生活と美術との関わりが整理されており、生徒がより美術を身近に感じられる工夫がされている。</p> <p>●作家の作品の割合が高いために、生徒作品の数は他社より少ない。</p>
日本文	<p>○教科書のサイズが他社よりも大きく、その分作品を詰め込んだような感じがなくゆとりがある。</p> <p>○仏像に関する内容が他社よりも充実している。修学旅行に向けた学習と関連付けて学習することができればより深い作品理解につながる。</p> <p>○浮世絵を取り扱うページは紙質を変えるなど、日本の良さや伝統文化を感じさせるための工夫がされている。</p> <p>●生徒が制作のイメージをもつための、「作家に関連する写真・鑑賞風景」や「生徒の活動・活用風景」が3社の中で最も少ない。</p> <p>●鑑賞作品に対する情報量が多く、生徒が自由に感じ取ろうとする妨げになる。</p>

様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

## 種 目 名 ( 保健体育 )

## 【調査研究の具体的視点】

## (1) 基礎・基本の定着

- 視点1 単元や題材の目標は明確に示されているか。
- 視点2 保健・安全に関する科学的な理解を図るための工夫がなされているか。
- 視点3 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るための工夫がなされているか。

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点1 興味・関心を高め、自ら学び、自ら考えるための工夫がなされているか。
- 視点2 問題解決的な学習や体験的な学習を実施するための工夫がなされているか。
- 視点3 実生活・実社会に関連付けるための工夫がなされているか。

## (3) 内容の構成・配列・分量

- 視点1 単元・題材や資料等の配列が適切であるか。
- 視点2 発達段階を踏まえて体系化されているか。
- 視点3 1単位時間の内容がその時間内で完結する分量となっているか。

## (4) 内容の表現・表記

- 視点1 本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用が図られているか。
- 視点2 知識を活用する学習を進めることができるように表記・表現されているか。
- 視点3 グラフや資料等により、論理的な思考が深められるよう工夫がなされているか。

## (5) 言語活動の充実

- 視点1 自分の考えをまとめて書いたり、話し合ったりする活動に活用できるように工夫がなされているか。



様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 1 )

(1) 基礎・基本の定着

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「今日の学習」で学習の課題や内容を提示しているが、文章が長く、学習者が到達したい「めあて」「目標」としての「～できる」という点では明確でない。</li> <li>○「この教科書の使い方」として、「今日の学習」→「やってみよう」→「本文」→「考えてみよう」→「生かそう」という流れが確立されており、学びの道筋がわかりやすくなっている。「考えてみよう」「やってみよう」「生かそう」で学習の流れも工夫され、資料もグラフや表、図が多く準備され、わかりやすい。(2007～2011年)</li> <li>○各章末に「資料」や「確認問題」「活用問題」「学習のまとめ」を設けている。</li> <li>○学習指導要領に示されている語句のほとんどが目次に掲載されている。</li> <li>●喫煙の害についての項目で、周囲への被害や妊婦に与える影響について触れていない。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「この教科書で学習するみなさんへ」として、「今日の学習課題」→「考えよう」→「本文」→「学習を活かして」という流れが確立されているが、目標としてはわかりにくい。単元によっては「学習を活かして」が発展的なものとなっていない。</li> <li>○各章末に学習のまとめとして「重要な言葉」と「学習の要点」で解説をしている。</li> <li>○「トピックス」の切り口がよく、資料のグラフや表、図が多く準備され、新しいデータもあり、理解しやすい。(2007～2013年)</li> <li>●学習指導要領に示されている語句の一部が本文には表記されているものの、目次に掲載されていないものがある。</li> </ul>
大修館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「クエスチョン」として「～でしょうか」などの形態で、学習課題を提示している。</li> <li>○トライや章末のチャレンジにより、学習の流れも工夫されている。資料のグラフや表、図、コラム、事例も多く準備され、具体的である。(2012年のものがメイン)</li> <li>○「この教科書の使い方」として、「Question」→「本文」→「Try」となっており、学びの道筋がシンプルになっている。「Question」では「答えは教科書の中にある」と明確にし、「Try」では学習の確認と日常生活に活かすことを狙った投げかけがされている。各章末に学習のまとめとして「学んだことを振り返ってみよう」「学びを生かそう」「学びを広げよう」を設けている。</li> <li>●使用されている語句と学習指導要領に示されている語句との統一性が見えにくい。</li> <li>○各ページの各項目の標題が具体的な表現になっている。</li> </ul>

様式1-2

【調査研究結果】

No. (2)

学 研	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各章の始めに学習することが掲載されており、「学習の目標」「キーワード」で学習課題を提示している。</li> <li>○「この教科書の使い方」として、「学習の目標」→「ウォームアップ」→「本文」→「エクササイズ」→「活用しよう」という流れが確立されており、「めあて」や「目標」が明確で学びの道筋がわかりやすくなっている。</li> <li>○各章末に「探求しよう」「章のまとめ」を設けており、記述で答える内容が多い。</li> <li>○資料として、グラフや表、図が多く準備されている。(2011~2013年)</li> <li>●学習指導要領に示されている語句の一部が目次に掲載されていないものがある。</li> <li>●エイズの学習内容が単独の項目になっていない。</li> <li>○「もっと広げる 深める」でアレルギーに関してページをとって学習できるのでタイムリーである。</li> </ul>
--------	---

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 3 )

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○「読み物」や「章末資料」として、具体的な説明をしたり、先輩からのメッセージを掲載したりするなど、身近に感じさせる工夫をし、興味関心を引き出している。</p> <p>○導入としての「やってみよう」は、生徒の興味・関心を引き出すことができるように、身近な内容であったり、直接書き込みができたり、十分に工夫されている。</p> <p>△章末資料にはテーピングやRICEなど、体験的な学習の場面が設定されているが、章によっては、問題解決的な学習を進めるための題材や体験的な学習を進めるための内容は、特に準備されていない。</p> <p>△中学生が遭遇しそうな悩みや、疑問など、実生活との関連や学習したことと関連付けて実生活・実社会へと発展させる工夫がされているが、盛りだくさん過ぎて、煩雑となっている感もある。</p>
大日本	<p>○章末資料「トピックス」は世界で活躍しているスポーツ選手の紹介や競技の歴史など身近に感じさせる工夫をし、興味関心を引き出している。</p> <p>●導入としての「考えよう」は、しっかりとした思考が必要とされるので、生徒の興味・関心を十分引き出すことができないように感じる。</p> <p>△各単元の資料の中に体験的な学習を促す内容が示されているが、章によっては、問題解決的な学習を進めるための題材や体験的な学習を進めるための内容は、特に準備されていない。</p> <p>△「学習を活かして」として、学習したことと関連付けて、実生活・実社会へと発展させようとしているが、中学生で遭遇しそうな悩みや、疑問などと関連を図った資料は少ない。</p>
大修館	<p>●各章のはじまりに吹き出しにて学ぶポイントが挙げられているが、分かりにくい。キーワードもあるが言葉だけで工夫がほしい。</p> <p>○生徒の身近な内容や過去の経験を活かした思考ができるように「Question」や「コラム」・「トピック」で歴史上の人物やオリンピック・パラリンピックなどについて提示し、興味関心を引き出す工夫がされている。</p> <p>△单元ごとの「チャレンジ」は体験的な学習につながる内容が示されているが、章によっては問題解決的な学習を進めるための題材や体験的な学習を進めるための内容が準備されていない。</p> <p>△各章での学習のまとめにおいて学びを振り返る、生かす、広げることにより、実生活・実社会へと発展させようとしているが、意図や中学生で遭遇しそうな悩み・疑問などとの関連が感じられない。</p> <p>○脈拍を測るなど体験的な学習の場面が設定されている。</p>

様式1-2

【調査研究結果】

No. (4)

学 研	<p>○「ウォーミングアップ」で日常生活に準じる内容の提示や新しい内容の資料などにより、身近に感じさせる工夫をし、興味関心を引き出している。</p> <p>△「活用しよう」「エクササイズ」など習得した知識や技能から体験的な学習の場面につなげる工夫がされているが、章によっては問題解決的な学習を進めるための題材や体験的な学習を進めるための内容は、特に準備されていない。</p> <p>○「コラム」や章のまとめの「生活への活用」は、実生活・実社会へと発展させるよう、考える場を提供しており、中学生で遭遇しそうな悩みや疑問など、実生活との関連が十分意識されている。</p> <p>●実習が掲載されているが、各章に1つ程度で広がりが多い。</p>
--------	---

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 5 )

(3) 内容の構成・配列・分量

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○学習指導要領にそった内容が項目としておこされて配列されている。</p> <p>●学習の流れが番号で示されており，学習内容を理解しやすい資料が豊富に掲載されているが，本文の幅がページによって違っており，グラフなどの資料の掲載場所も統一されていない。</p> <p>○「やってみよう」では小学校で学んだ事や生徒の実生活により近い内容を掲載し，課題に取り組みやすくしている。</p> <p>○本文の量と資料の量がバランスよく配置されており，横に幅広いA B判にすることで資料を見やすくし，見開き2 ページが1 時間分となっており，配当時間も適切と思われる。</p> <p>○版を大きくすることで，資料が豊富で見やすいレイアウトになっており，色使いも優しい感じがする。</p> <p>●版のサイズや重量が大きくなり続けると困る。</p>
大日本	<p>○学習指導要領にそった内容が項目としておこされて配列されており，資料の番号が各章で通し番号になっており，示しやすい。</p> <p>●本文は内側に配置され，幅もほぼ統一されていて見やすい。グラフなどの資料が占める割合が5 0 %以上であり，本文の内容が若干不十分であると思われる。</p> <p>○内容を理解するための資料が多く掲載され，分かりやすい内容となっているが，章によってばらつきがある。</p> <p>△字間や行間が適当で文章は読みやすいが，色使いがシャープで冷たい感じを受ける。</p> <p>●本文の量と資料の量がバランスよく配置されており，見開き2 ページが1 単位時間の中で終了する量であると思われるが，若干補足が必要であると思われる。</p> <p>●版のサイズや重量が大きくなり続けると困る。</p>
大修館	<p>○学習指導要領にそった内容が項目としておこされて配列されている。</p> <p>○本文の幅や配置が統一されており，グラフなどの資料は下の部分に，補足説明は横の部分に掲載され，統一感があって非常に見やすい。</p> <p>○章によっては，見開き2 ページ以上で構成されている単元もあり，補助資料の準備など指導の工夫を要する部分もあるが，概ね1 単位時間の中で終了できる量であると思われる。</p> <p>○本文の背景をクリーム色で読みやすく分けてあり，視覚支援が必要な生徒には効果的である。</p> <p>●字間が狭いと感じる</p>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 6 )

学 研	<p>△学習指導要領にそった内容が項目としておこされて配列されているが，章によっては，学習指導要領の内容の配列との整合性が分かりにくい。</p> <p>○本文の量と資料の量，配置ともにバランスがよく統一感があり見やすい。見開き 2 ページが 1 単位時間の中で終了する量であると思われる。</p> <p>○教科の専門的な用語を使用しながらも，中学校 1 年生にとってもわかりやすく書かれている。</p> <p>△資料に多くのスペースを割くなどしているため，本文の記述が十分でない單元もあり，指導の工夫を要する部分もあるが，見開き 2 ページが 1 時間分となっており，若干内容を追加する必要があるものの概ね適切と思われる。</p> <p>●本文が読みにくい感じがする。</p>
--------	--

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 7 )

(4) 内容の表現・表記

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>△本文との関連付けがなされた、たくさんのグラフや図などの資料が掲載されており、分かりやすい。どのように深めていくかポイントがイラストで分かりやすく示されている。しかし、「読み物」の占める割合が多く、これに触れると1時間の中では終わらない量となってしまう。</p> <p>○活用する場面として「考えてみよう」が準備されており、導入の「やってみよう」との関連も深く、思考を膨らませることのできる内容となっている。</p> <p>○単位時間ごとに関連するクイズや章末資料が設定されており、過去の経験やこれからのことが知識を活用して考える場となっている。</p> <p>○「生かそう」や学習のまとめ等で論理的な思考を深めることができる工夫がされている。</p>
大日本	<p>△学習の目標を達成するためのグラフや図などの資料は豊富で活用を図る工夫がされており、本文との関連性もある。しかし、挿絵やグラフ、図のそれぞれが大きく、本文とのバランスが悪い。</p> <p>○「リンク」により関連した学習内容のページを示すとともに「ミニ知識」が表記され、過去の経験や知識を活用する場面を設定している。</p> <p>●章によっては、資料やグラフから思考を深める機会が少ない。</p> <p>●活用する場面として「学習を活かして」が準備されているが、授業の振り返りという要素が強く、日常生活での実践に結びつくものとなっていない。</p> <p>○章末資料「トピックスプラス」が分かりやすい。</p>
大修館	<p>△本文の字が読みやすく、本文と関連付けがなされたたくさんの写真と資料が掲載され、読み取ってほしいポイントが書かれており、わかりやすい。章によっては、資料の説明が十分ではなく、本文と関連付けにくいものとなっており、空白の部分も多い。</p> <p>○活用の学習ができるように、「Q&amp;A発展」や「活用」「実習」「発展」「関連するホームページのURL」などが示されており、日常生活での実践に向けて、思考を膨らませることのできる内容となっている。</p> <p>○多くの資料から思考したり、「学びを広げよう」や「チャレンジ(発展)」で自分の感じたことをまとめたりすることで、論理的に考えさせる場面を多く設定できるものとなっている。</p>

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 8 )

学 研	<p>△本文との関連付けがなされたグラフや表などのたくさんの資料が掲載されており効果的であるが、大きく紙面をとって豊富な資料を提示しているものの、本文との関連付けなど説明が不足している部分もある。</p> <p>○各単元での「活用しよう」「リンク」や章のまとめで「活用問題」や「生活への活用」が設定され、知識を活用する学習が進めやすくなっている。</p> <p>△「活用しよう」「探究しようよ！」で学んだことを生かし、より深められるようにされており、「エクササイズ」による意見交流や、章のまとめには記述により、論理的な思考が深められるよう工夫されている。若干発展しすぎており、生徒が難しく感じる事が懸念される。</p> <p>●エイズについての内容は見開き2ページあるが、項目立てしていない。</p>
--------	--



様式1-2

【調査研究結果】

No. (9)

## (5) 言語活動の充実

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○巻頭で、「事例などを用いたディスカッション」「ブレinstーミング」「ロールプレイング」「インタビュー」などの学習方法を紹介しており、「やってみよう」「考えてみよう」「いかそう」で言語活動に係る学習活動を促す工夫が見られる。章末には考えを記述する場面を設定している。章によっては、自分の考えをまとめる内容は設定されているが、意図的に交流の場を仕組んだところはない。</p> <p>○「生かそう」や「学習のまとめ」で自分の生活に生かしたり、さらに調べ学習を促したりして、発展する内容となっている。</p>
大日本	<p>●「考えよう」「学習を活かして」で自分の考えをまとめる工夫はなされているが、書かせる学習活動につながる工夫が少ない。</p> <p>△「学習を活かして」で、「話し合ってみましょう」と呼びかけるなど、言語活動に係る学習活動を促す工夫が見られる。章によっては、自分の考えをまとめる内容は設定されているが、意図的に交流の場を仕組んだところはない。</p>
大修館	<p>○「トライ」や「チャレンジ」で自分の考えをまとめて記述したり、仲間と話し合って自分の考えを説明したりできるよう工夫がなされている。</p> <p>△自分の考えをまとめる内容が設定されており、「活用」を利用して、意見交換の場を設定できそうであるが、意図的に交流の場を仕組んだところはない。</p> <p>○「クエスチョン」が答えやすい問いかけになっている。</p>
学研	<p>○「エクササイズ」「活用しよう」で自分の考えをまとめて記入したり、自分の考えを説明したりできる場面が工夫されているとともに、章のまとめで自分の考えを記述する欄が多く設定されている。</p> <p>△「もっと広げる深める」「探求しようよ!」で考えを深めたり、学び合ったりする工夫が見られる。「実習」として意図的に交流の場を仕組んだ内容もある。言語活動に結びつけるために、指導の工夫が必要である。</p>

## 様式 2

## 【報告書要約】

## 中学校保健体育

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○学習指導要領に示されている語句のほとんどが目次に掲載されており、各章末に「確認問題」や「自己評価確認欄」を設けている。</p> <p>○「読み物」や「章末資料」で具体的な説明をしたり、先輩からのメッセージを掲載したりするなど身近に感じさせる工夫をしており、実生活・実社会へと発展させる工夫もされている。</p> <p>●見開き2ページが1単位時間の量で、学習内容を理解しやすい資料が豊富に掲載されているが、本文や資料のレイアウトが統一されていない。</p> <p>○導入と学習内容が関連付けられており分かりやすい。学習を深めるポイントをイラストで示し、クイズや章末資料を活用したり、論理的思考を高めたりする工夫がされている。</p> <p>○巻頭で、学習方法を紹介しており、学習活動の中で言語活動に係る学習活動を促す工夫が見られる。章末には考えを記述する場面を設定している。</p>
大日本	<p>●学習の流れが確立されているが、目標としてはわかりにくい。単元によっては「学習を活かして」が発展的なものとなっていない。</p> <p>●章末資料では身近に感じさせる工夫がされているが、導入でしっかりとした思考が必要とされるので、生徒の興味・関心を十分引き出すことができないように感じる。</p> <p>●資料が占める割合が50%以上であり、本文の内容が若干不十分である。字間や行間が適当で文章は読みやすいが、色使いがシャープで冷たい感じを受ける。</p> <p>○学習内容と関連した「リンク」や「ミニ知識」が表記され、過去の経験や知識を活用する場面を設定している。学習の目標を達成するための資料は豊富で活用を図る工夫がされている。</p> <p>○話し合いや自分の考えをまとめる言語活動に係る学習活動を促す工夫はされているが、書く学習活動につながる工夫が若干少ない。</p>
大修館	<p>○学習課題の提示からまとめまでの学習の道筋が、シンプルである。</p> <p>●生徒の身近な内容や過去の経験を活かした思考ができるように工夫がされているが、実生活や実社会へと発展させるという意図が強く感じられない。</p> <p>○本文の幅や配置、資料、補足説明などの配置も統一感があって非常に見やすい。本文の背景がクリーム色で読みやすく分けてあり、視覚支援が必要な生徒には効果的である。</p> <p>○本文と関連付けがなされた写真と資料が掲載され、読み取るポイントが明確で、分かりやすい。活用の場が準備され、実践に向けて、思考を膨らませる内容となっている。</p> <p>○「クエスチョン」が答えやすい問いかけになっており、自分の考えをまとめて記述したり、仲間と話し合っって自分の考えを説明したりできるよう工夫がされている。</p>
学研	<p>○各章の始めに学習することが掲載されており、「学習の目標」「キーワード」で学習課題を提示している。</p> <p>○導入で身近に感じさせる工夫をし、習得した知識や技能から体験的な学習の場面につなげる工夫が概ねされている。章のまとめも実生活・実社会へと発展させようとしている。</p> <p>○教科の専門的な用語も分かりやすく記述されており、本文と資料の量や配置のバランスもよく、統一感があり見やすい。見開き2ページが1単位時間の中で終了する量である。</p> <p>○本文との関連付けされた、たくさんの資料が掲載されており、効果的である。学んだことを生かし、より深められるように工夫されており、論理的な思考の深まりが期待できる。</p> <p>○学習の中に自分の考えをまとめたり、深めたり、学び合ったりする場面が工夫され、章のまとめで自分の考えを記述する欄が多く設定されている。</p>

様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

## 種 目 名 ( 技術・家庭【技術分野】 )

## 【観点ごとの具体的な視点】

## (1) 基礎・基本の定着

- 視点① 題材のねらいの示し方
- 視点② 伝統と文化に関する内容
- 視点③ 環境の保全に関する内容

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点① 興味・関心を高めるための工夫
- 視点② 実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫
- 視点③ 主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫

## (3) 内容の構成・配列・分量

- 視点① 題材の配列と分量
- 視点② 発展的な学習の扱い方

## (4) 内容の表現・表記

- 視点① 本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用

## (5) 言語活動の充実

- 視点① 実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫
- 視点② 言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習の工夫

## 様式 1 - 2

## 【調査研究結果】

## (1) 基礎・基本の定着

発行者	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東 書	<p><b>【題材のねらいの示し方】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小单元ごとに目標がページ上部に明記してある。</li> <li>○学習目標が観点に基づき明確に示されている。</li> <li>○各内容の終わりに振り返りがあり，ABCで評価するだけでなく，評価問題が設定されており，総括的に理解度がチェックできる。</li> <li>○評価・活用のページがあり，記入できる欄がある。</li> <li>●目標の表記が小さく目につきにくい。</li> </ul> <p><b>【伝統と文化に関する内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「技術の匠」というコラムを設け，伝統的な技術等について解説している。（P61, P73 など）</li> <li>○「ひとくちQ」において伝統文化に関するクイズがあり生徒に興味を持たせる工夫がされている。（P61 など）</li> <li>●生物・情報の「技術の匠」では，伝統・文化が触れられていない。</li> <li>●歴史的変遷に関する年表がなく，体系的にとらえにくい。</li> </ul> <p><b>【環境の保全に関する内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○技術の評価・活用でグラフや写真等を活用して書かれている。（P84～88, 140～144）</li> <li>○発電方法の長所と短所を表に絵入りで記載している。（P97）</li> <li>○ガイダンスに省資源，省エネルギーに関する記載がある。（P11）</li> <li>○「ひとくちQ」において環境に関する出題がある。（P31 など）</li> </ul>
教 図	<p><b>【題材のねらいの示し方】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学習目標が，単元の初めに長い文章で表現されており，授業ごとの明確な目標は示されていない。</li> <li>●目標，ねらい等の表示が無い。</li> <li>●章末問題はあるが，自己の学習を振り返る項目はない。</li> </ul> <p><b>【伝統と文化に関する内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○材料と加工（P57），エネルギー（P94～97），生物（P152～155），情報（P254～259）にグラフや写真等を用いて記載してある。</li> <li>●伝統に関する内容が少ない。（特に材料と加工法）</li> </ul> <p><b>【環境の保全に関する内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○材料と加工（P23, 61），エネルギー（P99, 140～143），生物（196～199）にグラフや写真等を用いて記載してある。</li> <li>○ガイダンスに環境問題に関する記述がある。（P5）</li> </ul>

開 隆 堂	<p><b>【題材のねらいの示し方】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小单元ごとにねらいが「学習目標」と明記されページ右上に記されている。</li> <li>○学習目標が観点に基づき明確に示されている。</li> <li>○「学習目標」と明確に表記され、本時の目標が明確に伝わる。</li> <li>○各内容の終わりと单元ごとに振り返りがあり、ABCで評価するだけでなく、具体的な記述が求められ、形成的にも総括的にも理解度がチェックできる。</li> </ul> <p><b>【伝統と文化に関する内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元の初めに年表や写真を活用して技術の歴史の変遷が書かれている。(P20～23, 92～93, 136～137, 176～177)</li> <li>○写真を多用して日本の伝統技術について紹介し、技術への関心を高める工夫がされている。(P20 など)</li> <li>●材料と加工法以外に伝統文化に関する記述が少ない。</li> </ul> <p><b>【環境の保全に関する内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ガイダンスにおいて技術と環境に関する記述があり、持続可能な社会の実現に向けて考えさせている。(P12, 13)</li> <li>○持続可能な技術にむけて環境に関する記述がある。</li> <li>○技術を評価する際に環境的側面を一つの視点としている。(P244)</li> <li>○探究的な学習として「持続可能な社会」を築くために考えさせる構成となっている。(P248～249)</li> <li>○社会・環境とのかかわりが内容ごとに設定され、グラフや写真等を活用して取り組みやすくなっている。(P84～91, 130～135, 170～175, 238～243)</li> <li>○单元途中に「参考」として書かれている。(P23, 33, 85, 97, 101, 139)</li> </ul>
-------------	--

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行者名	意見（ ○ 長所      ● 課題 ）
東 書	<p><b>【興味・関心を高める工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ガイダンスにおいて「夢」をキーワードに技術の価値や学ぶ意義について解説している。(P6～7)</li> <li>○各ページの下にQ&amp;Aを設け、クイズ形式で出題されている。</li> <li>○実際に生徒が作成した作品を本人とともに写真で紹介し、身近に感じさせている。(P38)</li> <li>○写真も豊富にあり、大きく見やすい。</li> <li>○実習例を多く掲載し、製作に向けて意欲付けがされている。(P74～P81)</li> <li>○マークや写真の種類が多く目を引きやすい。</li> </ul> <p><b>【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のまとめに「生活に生かそう」の欄がある。</li> <li>○情報に関してパソコンの画面を載せて応用ソフトの使用法を説明している。(P265～270)</li> <li>○技術を評価し活用するための記述が明確にあり、内容も充実している。</li> <li>○学習のまとめにおいて、生活に生かす視点から振り返る項目がある。</li> </ul>

	<p><b>【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○写真や図が多く、主体的な実習が可能である。</li> <li>○どの内容においても実習例が豊富であり、生徒が主体的に製作、実習を行うことができる。</li> <li>○実験により、材料の性質や特徴について確認できるようになっている。</li> </ul>
<p>教 図</p>	<p><b>【興味・関心を高める工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻頭にガイダンス的内容が記載されている。</li> <li>○写真の量も豊富である。</li> <li>●コラムを設け、トピック的な話題を提供している（P194）ものの量的には少ない。</li> <li>●実習例がやや少ない。</li> <li>●マークが少ない。</li> </ul> <p><b>【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●生活への活用を促す記載がない。</li> <li>○内容ごとの末に技術が生活の中で活用されている例を挙げ記述している。</li> <li>●評価・活用についての明確な記述はない。</li> </ul> <p><b>【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○章末問題があるので、主体的な復習が行える。</li> <li>○作業について大きめの写真を掲載しているので、主体的な実習が行いやすくなっている。</li> <li>●かんながけの記載が少ない（2/3ページ）ので、かんながけの指導では、補助プリント等が必要になると考えられる。（P41）</li> <li>●生物育成、情報において実習例が少なく、生徒が主体的、実践的、体験的に学習する機会が少ない。</li> <li>○実験により、材料の性質や特徴について確認できるようになっている。</li> </ul>
<p>開 隆 堂</p>	<p><b>【興味・関心を高める工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ガイダンスにおいて、学習の進め方や技術の素晴らしさが記載されている。（P4～19）</li> <li>○各ページの下に「豆知識」を設け、作業のポイント等を示している。</li> <li>○写真の量も豊富にある。</li> <li>○実習例を多く掲載し、製作に向けて意欲付けがされている。（P47～P52）</li> <li>○「参考」というコラムを設け、技術的な知識を広げ、興味、関心を持たせる工夫がある。</li> <li>○マークや写真の種類が多く目を引きやすい。</li> </ul> <p><b>【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のまとめにおいて「生活に生かそう」の項目が多く設定してある。</li> <li>○情報に関して巻末に応用ソフトウェアの活用法が詳しく記載されている。</li> <li>○技術を評価し活用するための記述が明確にあり、内容も充実している。</li> <li>○技術を評価する際、社会的側面、環境的側面、経済的側面から考察できるようになっている。</li> <li>○学習のまとめにおいて、生活に活かす視点から振り返る項目がある。</li> <li>○探究的な学習により、社会や生活との関連が深く学習できるような工夫がされている。</li> </ul>

	<p><b>【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</b></p> <p>○写真やイラストが多く、主体的な実習が可能である。</p> <p>○どの内容においても実習例が豊富であり、生徒が主体的に製作、実習を行うことができる。</p> <p>○実験により、材料の性質や特徴について確認できるようになっている。</p>
--	--

## (3) 内容の構成・配列・分量

発行者	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<p><b>【題材の配列と分量】</b></p> <p>○ガイダンスの内容が質・量とも充実している。（12ページ分）</p> <p>○A（材料と加工）において各材料がバランスよく取り上げられている。</p> <p>●B（エネルギー変換）において、実習例の仕組みがブラックボックス化され、特定のキットを製作することを前提として説明されている。（P135）</p> <p>○D（情報）において、情報モラル、セキュリティの記述が充実している。</p> <p><b>【発展的な学習の扱い方】</b></p> <p>○発展的な内容は、B（エネルギー変換）で2か所。（P129, P131）</p>
教図	<p><b>【題材の配列と分量】</b></p> <p>●ガイダンスの内容が質・量とも不十分である。（6ページ分）</p> <p>●製作題材例が一般的でないものがある。</p> <p>●D（情報）において、情報モラル、セキュリティの記述が不十分である。</p> <p><b>【発展的な学習の扱い方】</b></p> <p>○発展的な内容は、B（エネルギー変換）で2か所、D（情報）で1か所。（P103, P113, P248～253）</p>
開隆堂	<p><b>【題材の配列と分量】</b></p> <p>○ガイダンスの内容が質・量とも充実している。（18ページ分）</p> <p>○A（材料と加工）において木材に関する記述が充実している。</p> <p>○B（エネルギー変換）において、実習例の仕組みが回路図を基に丁寧に説明されている。（P125）</p> <p>○D（情報）において、情報モラル、セキュリティの記述がとても充実している。</p> <p><b>【発展的な学習の扱い方】</b></p> <p>○発展的な内容は、B（エネルギー変換）で2か所。（P127, P129）</p>

## (4) 内容の表現・表記

発行者	意見（○ 長所 ● 課題）
東書	<p>【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「リンク」「安全」「環境」など17種類のマークで表示。</li> <li>○「ひとくちQ&amp;A」においてクイズ形式で知識を学ぶ形式となっている。</li> <li>○読みやすいフォント（丸ゴシック）が表題等に使用されている。</li> <li>○写真が鮮明で鮮やかである。</li> <li>○ワイドな書面で写真や図の大きさも十分である。</li> </ul>
教図	<p>【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●マークは「発展」「安全」「注意」「コツ」の4種類しかない。</li> <li>●写真が多用されているが、文字による説明が不足しており、隙間が多い。</li> <li>○ユニバーサルデザインの考えに基づき編集されている。</li> <li>●B5サイズにもかかわらず空白が多く、情報量が少ない。</li> </ul>
開隆堂	<p>【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習の目標」「探究」「発展」など15種類のマークで表示。</li> <li>○「豆知識」で学習に関する面白い知識を記述している。</li> <li>○表題等にゴシック体を使用し、見やすく配慮されている。</li> <li>○できるだけ多くの生徒に見やすいようCUDマーク取得見込み。</li> <li>○B5サイズの紙面にコンパクトにわかりやすくまとめてあり、情報量も多い。しかも軽量である。</li> </ul>

## (5) 言語活動の充実

発行者	意見（○ 長所 ● 課題）
東書	<p>【実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○評価・活用についてのワークシートを例示している。</li> <li>●学習のふり返りでは、ABCの3段階評価であり、文章での記述は求められていない。</li> </ul> <p>【言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「考えてみよう」において、考えたりする内容が言葉を中心に示されている。</li> </ul>



教 図	<p>【実習等の結果を整理し，考察する学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●評価・活用についてのワークシートの例示はない。</li> <li>●学習のまとめは，問題形式であり，文章での記述が求められていない。</li> </ul> <p>【言葉や図表，概念などを用いて考えたり，説明したりするなどの学習の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「考えよう」「調べよう」という項目はあるが，言語活動による回答はあまり求められていない。</li> </ul>
開 隆 堂	<p>【実習等の結果を整理し，考察する学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○評価・活用についてのワークシートを例示している。</li> <li>○学習のまとめにおいてABCの3段階評価に加え，文章で振り返り記述するようになっている。</li> <li>○各単元のふり返りにおいても文章での記述が求められている。</li> </ul> <p>【言葉や図表，概念などを用いて考えたり，説明したりするなどの学習の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「考えてみよう」「話し合ってみよう」において図や写真，表などを基に考えたり，説明したりする項目が設定されている。</li> </ul>

様式 2  
報告要約

中学校技術・家庭（技術分野）

発行者	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東 書	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点①○小单元ごとに目標がページ上部に明記してある。 ○各内容の終わりに振り返りがあり、ABCで評価するだけでなく、評価問題が設定されており、総括的に理解度がチェックできる。 ●目標の表記が小さく目につきにくい。</p> <p>視点②○技術の匠というコラムを設け、伝統的な技術等について解説している。(P61, P73 など) ●歴史的変遷に関する年表がなく、体系的にとらえにくい。</p> <p>視点③○技術の評価・活用でグラフや写真等を活用して書かれている。 (P84~88, 140~144) ○ガイダンスに省資源、省エネルギーに関する記載がある。(P11)</p>
	<p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点①○ガイダンスにおいて「夢」をキーワードに技術の価値や学ぶ意義について解説している。(P6~7) ○写真も豊富にあり、実際に生徒が作成した作品を本人とともに写真で紹介し、身近に感じさせている。(P38)</p> <p>視点②○学習のまとめに「生活に生かそう」の欄があり、生活を生かす視点から振り返る項目がある。</p> <p>視点③○実習例が豊富であり、生徒が主体的に製作・実習を行うことができる。</p>
	<p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点①○ガイダンスの内容が質・量とも充実している。 (12ページ分)</p> <p>視点②○発展的な内容は、B（エネルギー変換）で3か所。(P128, P129, P131)</p>
	<p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点①○「リンク」「安全」「環境」など17種類のマークで表示。 ○ワイドな書面で写真や図の大きさも十分である。</p>
	<p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点①○A（材料と加工）とB（エネルギー変換）に評価活用シートが記載されている。(P89, 145) ●学習のふり返しでは、ABCの3段階評価であり、文章での記述は求められていない。</p> <p>視点②○「まとめよう」「考えてみよう」のコーナーにおいて、企画書やグラフを用いて考えをまとめるように示されている。 (P127, 143)</p>

教 図	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点①●学習目標が、単元の初めに長い文章で表現されており、授業ごとの明確な目標は示されていない。</p> <p>●章末問題はあるが、自己の学習を振り返る項目はない。</p> <p>視点②○材料と加工（P57）、エネルギー（P94～98）、生物（P152～157）情報（P254～259）にグラフや写真等を用いて記載してある。</p> <p>●伝統に関する内容が少ない。（特に材料と加工）</p> <p>視点③○材料と加工（P23, 61）エネルギー（P99, 140～143）、生物育成（P152, 155～199, 196～199）情報（P254～259）にグラフや写真等を用いて記載してある。</p> <p>○ガイダンスに環境問題に関する記述がある。（P5）</p>
	<p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点①○巻頭にガイダンス的内容が記載されている。</p> <p>●コラムを設け、トピック的な話題を提供している（P194）ものの量的には少ない。</p> <p>視点②●生活への活用を促す記載がない。</p> <p>視点③●実習例が少なく、生徒が主体的、実践的、体験的に学習する機会が少ない。</p>
	<p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点①●ガイダンスの内容が質・量とも不十分である。（6ページ分）</p> <p>視点②○発展的な内容は、B（エネルギー変換）で2か所、D（情報）で1か所。（P103, P113, P248）</p>
	<p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点①●4つのマークの意味が記載されているのみである。（P11）</p> <p>●B5サイズにもかかわらず空白が多く、情報量が少ない。</p>
	<p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点①●評価・活用についてのワークシートの例示はない。</p> <p>●学習のまとめは、問題形式であり、文章での記述は求められていない。</p> <p>視点2○「考えよう」のコーナーがある。（P254）</p>

開 隆 堂	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点①○「学習目標」と明確に表記され、本時の目標が明確に伝わる。 ○各内容の終わりと單元ごとに振り返りがあり、A B Cで評価するだけでなく、具体的な記述が求められ、形成的にも総括的にも理解度がチェックできる。</p> <p>視点②○単元の初めに年表や写真を活用して技術の歴史的変遷が書かれている。 (P20～23, 92～93, 136～137, 176～177)</p> <p>視点③○探究的な学習として「持続可能な社会」を築くためにはどうすればよいか考えさせる構成となっている。(P248～249) ○社会・環境とのかかわりが内容ごとに設定され、グラフや写真等を活用して取り組みやすくなっている。 (P84～91, 130～135, 170～175, 238～243)</p>
	<p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点①○ガイダンスにおいて、学習の進め方や技術の素晴らしさが記載されている。 (P4～19) ○「参考」というコラムを設け、技術的な知識を広げ、興味、関心を持たせる工夫がある。</p> <p>視点②○社会的側面、環境的側面、経済的側面から技術の評価について考察できるようになっている。</p> <p>視点③○実習例が豊富であり、生徒が主体的に製作、実習を行うことができる。</p>
	<p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点①○ガイダンスの内容が質・量とも充実している。 (18ページ分)</p> <p>視点②○発展的な内容は、B（エネルギー変換）で2か所。(P127, P129)</p>
	<p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点①○「学習の目標」「探究」「発展」など15種類のマークで表示している。 ○B5サイズの紙面にコンパクトにわかりやすくまとめてあり、情報量も多い。しかも軽量である。</p>
	<p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点①○評価・活用についてのワークシートを例示している。 ○学習のまとめにおいてA B Cの3段階評価に加え、文章で振り返り記述するようになっている。</p> <p>視点②○「考えてみよう」「話し合ってみよう」において図や写真、表などを基に考えたり、説明したりする項目が設定されている。</p>

様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

## 種 目 名（ 技術・家庭【家庭分野】 ）

## 【観点ごとの具体的な視点】

## (1) 基礎・基本の定着

- 視点 1 題材のねらいの示し方
- 視点 2 伝統と文化に関する内容
- 視点 3 環境の保全に関する内容

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点 1 興味・関心を高めるための工夫
- 視点 2 実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫
- 視点 3 主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫

## (3) 内容の構成・配列・分量

- 視点 1 題材の配列と分量
- 視点 2 発展的な学習の扱い方

## (4) 内容の表現・表記

- 視点 1 本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用

## (5) 言語活動の充実

- 視点 1 実習等の結果を整理し，考察する学習活動の工夫
- 視点 2 言葉や図表，概念などを用いて考えたり，説明したりするなどの学習の工夫

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 1 )

## (1) 基礎・基本の定着

発行者名	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>【題材のねらいの示し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○調理の「基礎技能」が写真で分かりやすく提示されている。野菜の切り方も手順が分かりやすい。(P52～55)</li> <li>○衣生活の「基礎技能」のほころび直し、スナップ付けが丁寧で分かりやすく掲載されている。(P124～125)</li> <li>○单元ごとに学習の目標とまとめが設定されており、単元のポイントも明記してある。</li> </ul> <p>【伝統と文化に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「和服の文化に触れよう」等では和服の写真や着付けの方法・地域に伝わる織物や文様などの資料が豊富で、生徒の興味関心をひく内容である。(P108～111)</li> <li>●「和食」についての資料が少ない。(P41)</li> </ul> <p>【環境の保全に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○それぞれの单元の中に環境について考えるポイントが示されている。(環境に配慮しましょう)マークの表示)</li> <li>●「エネルギー消費を減らす方法を考えよう」では、ごく一般的な資料や記述のみで文字も多く、インパクトに欠ける。(P242, 243)</li> </ul>
教図	<p>【題材のねらいの示し方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習のふり返り」では、確認問題が单元ごとに設定されており、おさえるポイントが明確である。(例P60～61)</li> <li>●調理レシピは豊富であるが、基礎基本をおさえる調理実習としては内容の幅が広がりすぎている。(P116～133)</li> <li>●調理の基礎「包丁の扱い方」では、写真の配置が整理されておらず分かりにくい。(P106～107)</li> </ul> <p>【伝統と文化に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域の食材をみつめよう」では、各地の郷土料理の写真や説明、実習例や資料が豊富である。(P134～141)</li> <li>○「ゆかたを自分で着てみよう」では、男性、女性の浴衣の着付けについて分かりやすく図示されている。(P182～183)</li> </ul> <p>【環境の保全に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●章の初めの「宇宙から撮影した夜の地球の画像」は、内容的には良い資料であるが分かりにくく、生徒が課題意識を持ちにくい。(P259)</li> </ul>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 2 )

開 隆 堂	<p>【題材のねらいの示し方】</p> <p>○「衣服の補修」では，スナップ付け，まつり縫いの写真が大きく取り上げられており，大変分かりやすく生徒の実践意欲につながる。(P187～189)</p> <p>●「調理の基本」では，野菜の切り方が1ページにまとめてあるが，写真が小さく分かりにくい。(P97)</p> <p>【伝統と文化に関する内容】</p> <p>○「受け継がれる食文化」では，行事食や和食について詳しく丁寧に掲載されている。(P134～135)</p> <p>【環境の保全に関する内容】</p> <p>○「自ら取り組むエコ生活」では，身近な例が分かりやすくまとめてあり，実生活と結びつけて考えられるように提示されている。(P236～237)</p>
-------------	---

様式1-2

【調査研究結果】

No. ( 3 )

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

発行誌	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<p>【興味・関心を高めるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭分野のガイダンスでは、中学校の学習の見通しが分かりやすく示されている。(P8～19)</li> <li>○小学校からの学習のつながりが明確である。(P10～11)</li> <li>○写真が鮮明で生徒の関心意欲を高めるのに効果的である。</li> </ul> <p>【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食品の概量を簡単に把握するための方法として、手ばかりや目ばかりの資料が掲載されており、分かりやすく工夫してある。(P36～37)</li> <li>○調理実習の実習例が豊富であり、写真の美しさ、手順の分かりやすさ等、生徒が作ってみたいくなるよう工夫されている。(P60～87)</li> </ul> <p>【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「幼児と触れ合おう」では、幼児の表情豊かな写真がたくさん掲載されており、メッセージ性が伝わる。(P204～209)</li> <li>○どの単元でも、「探究」や「生活に生かそう」が取り上げられており、学習したことを実生活に生かし、実践力を高めるための工夫がみられる。</li> </ul>
教図	<p>【興味・関心を高めるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○項目の最初に「Q」のマークで学習内容の問いかけをしている。</li> </ul> <p>【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「住まいのはたらき」では、写真も豊富で、日本や世界の住まいの特徴が一目でわかる工夫がされている。(P150～153)</li> </ul> <p>【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「つくってみよう」では、布を使った題材を多く取り上げ、生徒が作ってみたいくなるような内容にしている。また分かりやすい説明なので自分にもできそうだと感じられる。(P210～221)</li> </ul>
開隆堂	<p>【興味・関心を高めるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○項目の最初に「話し合ってみよう」「振り返ってみよう」「考えてみよう」などが記されており、生徒の興味・関心を高める工夫がみられる。</li> </ul> <p>【実生活に活用する能力と態度を育てるための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「実物の食品のおよその重さを知ろう」では、実物大の食品の写真が提示してあり、実生活でも活用することができる。(P75～77)</li> </ul> <p>【主体的・実践的・体験的な学習を実施するための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「調理実習例にあと1品加えてみよう」では、プラス1として簡単に調理できるレシピや電子レンジを使った調理例などが掲載されており、実践につながる工夫がしてある。(P124～125)</li> </ul>



様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 4 )

## (3) 内容の構成・配列・分量

発行者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<p>【題材の配列と分量】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ガイダンスの内容が充実している。(P8~19)</li> <li>○小学校家庭科や他教科とのつながりが明記しており、さまざまな教科の学習と関連づけて考えることで家庭分野の学習が深まる工夫がされている。</li> <li>○BCADの順に配列されている。</li> </ul> <p>【発展的な学習の扱い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○巻末に、「生活の課題と実践」のページがあり、学んだことを社会に生かすなどの内容が充実している。(P251~269)</li> </ul>
教 図	<p>【題材の配列と分量】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○A B C Dの順に配列されている。</li> <li>●小学校のふり返りがないため、中学校家庭分野の学習の見通しが立てにくい。</li> </ul> <p>【発展的な学習の扱い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●巻末の「家庭分野の学習をふり返ろう」が1ページのみで資料も少なく発展させにくい。(P272)</li> </ul>
開 隆 堂	<p>【題材の配列と分量】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○A B C Dの順に配列されている。</li> <li>●小学校のふり返りがないため、中学校家庭分野の学習の見通しが立てにくい。</li> </ul> <p>【発展的な学習の扱い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●巻末に実践例はあるが、文字が多く扱いにくい。(P246~257)</li> </ul>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 5 )

(4) 内容の表現・表記

著者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「資料」と「リンク」や「他教科」のマークで示してあり、深める内容や関連する内容が分かりやすい。</li> <li>○「資料：スポーツと栄養」など、生徒の興味を引きつける資料やデータが掲載されている。(P29)</li> <li>○「豆知識」がクイズや○×問題など、生徒目線で展開されており、生徒の興味・関心が高まる。</li> </ul>
教図	<p>【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「参考」「コラム」や「リンク」で内容に関する資料や技術分野との関連が提示されている。</li> <li>●技術分野とのリンクはあるが、他教科との関連については示されていない。</li> </ul>
開隆堂	<p>【本文記述との適切な関連付けがなされた資料等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「参考」「リンク」「探究」で内容に関連した資料や、深めるための資料が提示されている。</li> <li>●「豆知識」が掲載されているが、文字が多く生徒の興味をひくものになっていない。</li> </ul>

様式 1 - 2

【調査研究結果】

No. ( 6 )

(5) 言語活動の充実

発行者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>【実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼児の観察記録カードの見本があり、観察する時のポイントが示されている。(P193)</li> <li>○ 触れ合い体験のまとめ方の例があり、生徒がまとめる時の参考になる。(P211)</li> </ul> <p>【言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「生活の課題と実践」に「まとめと発表の仕方」が示されている。</li> <li>○ 「言葉のページ」で、衣食住生活でよく使われる用語についての説明がある。(P270~271)</li> </ul>
教図	<p>【実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼児とのふれ合いレポートでは、レポートをまとめるためのポイントが示されている。(P57)</li> </ul> <p>【言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「生活の課題と実践」について、それぞれの章末に実践例が分かりやすく示されている。</li> </ul>
開隆堂	<p>【実習等の結果を整理し、考察する学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ふれ合い体験レポート、幼児の世界の体験レポートでは、まとめ方の例が示されている。(P49)</li> </ul> <p>【言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「生活と課題の実践」について、探究方法の例やまとめ方が示されている。</li> </ul>

様式 2

【報告書要約】

中学校技術・家庭（家庭分野）

発行者名	意見（ ○ 長所 ● 課題 ）
東書	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点1 ○調理の「基礎技能」が写真で分かりやすく提示されている。野菜の切り方も手順が分かりやすい。(P52~55)</p> <p>○衣生活の「基礎技能」のほころび直し、スナップ付けが丁寧で分かりやすく掲載されている。(P124~125)</p> <p>○单元ごとに学習の目標とまとめが設定されており、おさえるポイントが明記してある。</p> <p>視点2 ○「和服の文化に触れよう」等では和服の写真や着付けの方法、地域に伝わる織物や文様など資料が豊富で、生徒の興味関心をひく内容である。(P108~111)</p> <p>●「和食」についての資料が少ない。(P41)</p> <p>視点3 ○それぞれの单元の中に環境について考えるポイントが示されている。(「環境に配慮しましょう」マークの表示)</p> <p>●「エネルギー消費を減らす方法を考えよう」では、ごく一般的な資料や記述のみで文字も多く、インパクトに欠ける。(P242, 243)</p>
	<p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点1 ○家庭分野のガイダンスでは、中学校の学習の見通しが大変分かりやすく示されている。(P8~19)</p> <p>○小学校からの学習のつながりが明確である。(P10~11)</p> <p>○写真が鮮明で生徒関心意欲を高めるのに効果的である。</p> <p>視点2 ○食品の概量を簡単に把握するための方法として、手ばかりや目ばかりの資料が掲載されており、分かりやすく工夫してある。(P36~37)</p> <p>○調理実習の実習例が豊富で、写真の美しさ、手順の分かりやすさ等生徒が作ってみたいくなるよう工夫されている。(P60~87)</p> <p>視点3 ○「幼児と触れ合おう」では、幼児の表情豊かな写真がたくさん掲載されておりメッセージ性が伝わる。(P204~209)</p> <p>○どの单元でも「探究」や「生活に生かそう」が取り上げられており、学習したことを実生活に生かし、実践力を高めるための工夫がみられる。</p>
	<p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点1 ○ガイダンスの内容が充実している。(P8~19)</p> <p>○小学校家庭科や他教科とのつながりが明記してあり、さまざまな教科の学習と関連づけて考えることで家庭分野の学習が深まる工夫がされている。</p> <p>○BCADの順に配列されている。</p> <p>視点2 ○巻末には、「生活の課題と実践」のページがあり、学んだことを社会に生かすなどの内容が充実している。(P251~271)</p>
	<p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点1 ○「資料」と「リンク」や「他教科」のマークで示してあり、深める内容や関連する内容が分かりやすい。</p> <p>○「資料：スポーツと栄養」など、生徒の興味を引きつける資料やデータが掲載されている。(P29)</p> <p>○「豆知識」が、クイズや○×問題など、生徒目線で展開されており、生徒の興味・関心が高まる。</p>
	<p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点1 ○幼児の観察記録カードの見本があり、観察する時のポイントが示されている。(P193)</p> <p>○触れ合い体験のまとめ方の例があり、生徒がまとめる時の参考になる。(P211)</p> <p>視点2 ○「生活の課題と実践」に「まとめと発表の仕方」が示されている。</p> <p>○「言葉のページ」があり、衣食住生活でよく使われる用語についての説明がある。(P270~271)</p>

教 図	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点1 ○「学習のふり返し」では確認問題が單元ごとに設定されており、おさえるポイントが明確である。(例P60～61)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●調理レシピは豊富であるが、基礎基本をおさえる調理実習としては内容の幅が広がりすぎている。(P116～133)</li> <li>●調理の基礎「包丁の扱い方」では、写真の配置が整理されておらず分かりにくい。(P106～107)</li> </ul> <p>視点2 ○「地域の食材をみつめよう」では、各地の郷土料理の写真や説明、実習例や資料が豊富である。(P134～141)</p> <p>○「ゆかたを自分で着てみよう」では、男性、女性の浴衣の着付けについて分かりやすく図示されている。(P182～183)</p> <p>視点3 ●章の初めの「宇宙から撮影した夜の地球の画像」は、内容的には良い資料であるが分かりにくく、生徒が課題意識を持ちにくい。(P259)</p>
	<p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点1 ○項目の最初に「Q」のマークで学習内容の問いかけをしている。</p> <p>視点2 ○「住まいのはたらき」では、写真も豊富で、日本や世界の住まいの特徴が一目でわかる工夫がされている。(P150～153)</p> <p>視点3 ○「つくってみよう」では、布を使った題材を多く取り上げ、生徒が作ってみたいくなるような内容にしている。また分かりやすい説明なので自分にもできそうだと感じられる。(P210～221)</p>
	<p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点1 ○A B C Dの順に配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校のふり返りがないため、中学校家庭の学習の見通しが立てにくい。</li> </ul> <p>視点2 ●巻末は「家庭分野の学習をふり返ろう」が1ページのみで資料も少なく発展させにくい。(P272)</p>
	<p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点1 ○「参考」「コラム」や「リンク」で内容に関連した資料や技術分野との関連が提示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●技術分野とのリンクはあるが、他教科との関連については示されていない。</li> </ul>
	<p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点1 ○幼児とのふれ合いレポートでは、レポートをまとめるためのポイントが示されている。(P57)</p> <p>視点2 ○「生活の課題と実践」について、それぞれの章末に実践例が分かりやすく示されている。</p>

開 隆 堂	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点1 ○「衣服の補修」では、スナップ付け、まつり縫いの写真が大きく取り上げられており、大変分かりやすく生徒の実践意欲につながる。(P187～189)</p> <p>●「調理の基本」では、野菜の切り方が1ページにまとめてあるが、写真が小さく分かりにくい。(P97)</p> <p>視点2 ○「受け継がれる食文化」では、行事食や和食について、詳しく丁寧に掲載されている。(P134～135)</p> <p>視点3 ○「自ら取り組むエコ生活」では、身近な例が分かりやすくまとめてあり、実生活と結びつけて考えられるように提示されている。(P236～237)</p>
	<p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点1 ○項目の最初に「話し合ってみよう」「振り返ってみよう」「考えてみよう」などが記されており、生徒の興味・関心を高める工夫がみられる。</p> <p>視点2 ○「実物の食品のおよその重さを知ろう」では、実物大の食品の写真が提示してあり、実生活でも活用することができる。(P75～77)</p> <p>視点3 ○「調理実習例にあと1品加えてみよう」では、プラス1として簡単に調理できるレシピや電子レンジを使った調理例などが掲載されており、実践につながる工夫がしてある(P124～125)</p>
	<p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点1 ○A B C Dの順に配列されている。</p> <p>●小学校のふり返りがないため、中学校家庭の学習の見通しが立てにくい。</p> <p>視点2 ●巻末に実践例はあるが、文字が多く扱いにくい。(P246～257)</p>
	<p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点1 ○「参考」「リンク」「探究」で内容に関する資料や、深めるための資料が提示されている。</p> <p>●「豆知識」が掲載されているが、文字が多く生徒の興味をひくものになっていない。</p>
	<p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点1 ○ふれ合い体験レポート、幼児の世界の体験レポートでは、まとめ方の例が示されている。(P49)</p> <p>視点2 ○「生活と課題の実践」について、探究方法の例やまとめ方が示されている。</p>

様式 1 - 1

中学校教科用図書調査研究報告

## 種 目 名 ( 英 語 )

## 【調査研究の具体的視点】

## (1) 基礎・基本の定着

- 視点① 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの基礎・基本が定着できる。  
視点② 文法事項が効果的に指導できるよう工夫されている。  
視点③ 単元・題材の目標が適切に示されている。

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

- 視点① 問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れている。  
視点② 1年導入期における小学校外国語活動からの接続の工夫がされている。

## (3) 内容の構成・配列・分量

- 視点① 言語材料の配列が適切である。  
視点② 題材の内容構成と分量が適切である。  
視点③ 発展的な学習に関する内容の記述が工夫されている。  
視点④ 題材の工夫がされている。

## (4) 内容の表現・表記

- 視点① 文字の大きさが適切である。  
視点② レイアウトがわかりやすい。  
視点③ 挿絵や登場人物が工夫されている。  
視点④ 巻末等の資料が工夫されている。  
視点⑤ 活動の内容を表す記号の工夫がされている。

## (5) 言語活動の充実

- 視点① 4技能を統合的に活用させる言語活動の充実を図るための工夫がされている。  
視点② 学習内容を繰り返し指導し、定着を図る工夫がされている。

## 様式 1-2

## 【調査研究結果】

## (1) 基礎・基本の定着

発行者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<p>○ 4技能を習得する活動は、Listenでは正しいものを選ぶ活動の設定。Speakでは対話形式である。Readで本文の内容について質問に答える活動等を設定。Writeで本文に基づいて自分の意見や感想を書く活動等を設定している。4技能がバランスよく習得できるように工夫されている。</p> <p>○ 文法事項は「まとめと練習」でまとめてあり、構造的で分かりやすい。演習問題があり、理解度を確認できる。</p> <p>○ 各Unit(中単元)の冒頭と小単元に学習目標が提示されている。また、目標の示し方もCAN-DO (何ができるようになるのか) の形で明示されている。</p>
開隆堂	<p>○ 4技能を習得する活動は、Listenでは対話等を聞いて答える問題。Speakでは、対話練習を行う活動を設定している。Readで本文の内容についての質問。Writeで基本表現を用いて書く活動等を設定している。4技能がバランスよく習得できるように工夫されている。</p> <p>○ 文法事項は「英語のしくみ」でまとめてあり、シンプルで分かりやすい。新文型で特徴的で重要な単語等を表にして理解しやすい。演習問題があり、理解度を確認できる。</p> <p>○ Program(中単元)のセクション(小単元)ごとに、CAN-DO (何ができるようになるのか) の形で明示されている。</p>
学図	<p>○ 4技能を習得する活動は、Listenでは対話等を聞いて質問に答え、Speakで対話をペアで行う活動、Readでは読む活動等を設定している。Writeで基本表現を含む文章を書く活動等を設定している。</p> <p>● 文法事項は構造的でなく、文法事項の説明が長い。演習問題がない。</p> <p>● Chapter(大単元)ごとに学習目標が提示してあり、小単元の提示がない。</p>
三省堂	<p>○ 4技能を習得する活動は、Listenでは対話等を聞いて空所に記号を書き入れ、Speakで対話練習を行い、Readで本文内容を英語で答え、Writeで例に習い、基本表現を用いて書く活動等を設定している。</p> <p>○ 文法事項は「文法のまとめ」でまとめている。文法の説明が丁寧で、文構造が分かりやすい。文法の復習として他の文法と比較して説明してある。</p> <p>● レッスン(中単元)ごとに学習目標を提示してあり、小単元の提示がない。</p>
教出	<p>○ Listenでは対話等を聞いて適切な絵を選択し、Speakで例に習って基本表現を用いて対話練習を行い、Readで空欄に適切な語を書き入れる活動。Writeで例に習い基本表現を用いて対話練習した英文を書く活動等を設定してある。</p> <p>● 文法事項は「英語のしくみ」でまとめている。文法の説明を吹き出しにして文法の重要なことを示しているが、文構造が分かりにくい。演習問題がない。</p> <p>○ Lesson(中単元)のパート(小単元)ごとに学習目標が提示されている。</p>



光 村	<p>○Listenでは対話等を聞いて適切な絵を選択したり，記号を書きいれたりする活動等を設定している。Speakで対話練習やスピーチ等を設定し，Readでは英語で答え，Write で基本表現を用いて自分の意見や考えを書く活動等を設定している。</p> <p>●文法事項はLanguage Focusとしてまとめているが英文が構造的に示されていない。</p> <p>●Unit(中単元)ごとに学習目標が提示されており，小単元ごとの提示がない。</p>
--------	---

## (2) 主体的に学習に取り組む工夫

著者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<p>○各学年に Presentation「発信」が3つ設定してあり，習得した基礎学力を積み上げて活用し，自分の言葉で世界に発信するための表現力を，4技能を使って総合的に育成できるようにしている。</p> <p>○Presentationの単元が3年間で9個設定されており，そのすべてがスピーチ(発表)する内容のものであり，口頭による表現力の育成に効果的な題材である。</p> <p>●中学校最後の「Presentation」は，題材名「中学校生活」，主なモデル文は5文・55語，目標が「5文以上で発表」とやや少なめである。</p> <p>○入門期は，「Hi,English!」(話す・聞く)と「Unit0」(アルファベット)の二段階になっており，小学校の外国語活動から中学校英語への接続をスムーズにしている。</p>
開 隆 堂	<p>○各学年3回，「My project」が設定してあり，日常の学習がこの到達目標につながっている。各Projectは4ページ構成となっていて，手順を追って活動しやすくしてあり，仲間と協働し，推敲できるように工夫されている。</p> <p>●各「Project」は，4ページ構成になっており，内容が多く，十分に指導時間が確保できるかが課題となる。</p> <p>○小中接続をよりスムーズにするために，入門期は「Let's Start」(話す・聞く)と「Program 1」(アルファベット)の二層型になっている。</p>
学 図	<p>○各学年5回の「Project」が設定してあり，そのchapterで学習し，習得した目標文や重要表現を実際に活用して書いたり話したりするなど，表現活動に工夫がある。</p> <p>●「Project」の数が年5回であり，内容も比較的多く，十分に指導時間が確保できるかが課題となる。</p> <p>●入門期に「Pre-lesson」と「Let's start」があるが，区別があまり明確ではない。</p>
三 省 堂	<p>○各学年3回「Project」と題して，複数のLessonの言語活動をまとめ，4技能の統合的な活動ができる。</p> <p>●中学校最後の「Project」は，「ディスカッションをしよう」とあるが，モデル文がListeningで与えられており，文章表記されていないので，生徒にとってゴールの姿が明確ではなく，活動に取りかかるのに難しい印象を与える。</p> <p>●小中接続で「Get Ready」があるが，1ページに出てくる英単語の量が多く生徒の負担が多い。</p>

教 出	<p>○1, 2年で3回, 3年で2回の Project が設定しており, 4技能の統合的, 総合的な活動ができるようになっている。</p> <p>●中学校最後の「Project」は, 「英語で卒業スピーチをしよう!」でモデル文が Listening で与えられており, 文章表記されていないので, 生徒にとってゴールの姿が明確ではなく, 活動に取りかかるのに難しい印象を与える。</p> <p>●入門期の1ページに出てくる語彙が多く学習者の負担が大きい。</p>
光 村	<p>○各学年で3回ずつの「Go for It!」を設定し, 「聞く」「読む」「書く」「話す」の順でステップを踏みながら4技能を総合的駆使した学習課題が設定してある。</p> <p>○中学校最後の「Go for It!」は, 「卒業文集を作ろう」でモデル文は15文・125語であり, 目標とすべき姿が提示されている。</p> <p>●活動の手順としてのスモールステップがなく, 生徒に書きにくい印象を与える。</p> <p>●入門期の「Let's Enjoy English!」の内容配列の意図が明確でなく, 活動が混在している。</p>

## (3) 内容の構成・配列・分量

発行者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<p>○受け身を3年で学習するが, 言語材料の配列は適切である。</p> <p>●単元数や分量がやや少ない。指導者で補足や工夫が必要である。</p> <p>○英文を書くときに使いやすい tool box に単語や表現が示されている。</p> <p>●英文を書く手順などの説明がやや少ない。</p> <p>○1年では Hi, Friends と同じ教材のイラストを使っているため親しみやすい。</p> <p>○題材では「なでしこジャパン」の宮間選手やアウサンスーチャーさん, 東京五輪・パラリンピックの招致プレゼンテーションを行った佐藤真海さんや, マララ・ユスフザイさんなど話題になった実在の人物を教材にしており, 生徒の関心を引くもので興味深い。</p>
開 隆 堂	<p>●1年では be 動詞と一般動詞の区別がつきにくい配列となっている。</p> <p>●基本文は Basic Dialog という対話文になっている。本文とは異なる内容であるためわかりにくい。単元数は最も多く文の量も多い。</p> <p>○ My Project では学習の手順や説明がくわしくていねいである。</p> <p>○ マララ・ユスフザイさんについての単元やマザーテレサの伝記など題材は幅広い。</p>
学 図	<p>●一般動詞や複数形が1年最初に出てくるので生徒には負担である。</p> <p>○分量は適切である。</p> <p>○Project では例文がたくさんあり, テーマも興味が持ちやすい。</p> <p>○実在の人物を題材にしたものが多くある。しかし, 生徒にとって身近に感じられない人物の題材もある。</p>

三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>●3年では、関係代名詞のあとに分詞の後置修飾を学習するので、生徒にとっては少しわかりづらい。</li> <li>○分量は適切であるが Reading のパートは文の量がやや多い。</li> <li>●Project は書く手順はあるが、書くためのヒントが少ない。</li> <li>○錦織圭選手の話や、広島で被爆した佐々木禎子さんの生涯やキング牧師のスピーチなど生徒に読ませたい題材が多い。英語と自分のかかわりについて考える単元も興味深い。</li> </ul>
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言語材料の配列は適切である。</li> <li>●本文の量は多すぎるほどではないが、文字が小さく読みづらい。</li> <li>●Project では、英語を書く手順やヒントなど少ない。</li> <li>○題材は適切であるが、生徒が身近に感じる人物が少なく、興味や関心を持ちにくいものもある。</li> </ul>
光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言語材料の配列はわかりやすい。受け身が2年と3年両方で扱っており、文法理解の上で有効である。</li> <li>○本文の量は多すぎず、行間が開いているので読みやすい。</li> <li>○自己表現がしやすいように、ページの途中に単語がまとめて掲載されている。</li> <li>●題材は登場人物の日常生活に則したものが多く、英語を通して幅広く考えさせる上ではやや物足りない。</li> </ul>

## (4) 内容の表現・表記

発行者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○レイアウトは、活動の位置が一定であり、すっきりしている。また、書き込めるスペースがとってある。</li> <li>○巻末 Bonus Word Box はカテゴリーで分けられ、絵が生徒にとって親しみやすく、興味を引くものである。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ページ内のレイアウトは、言語活動の位置が一定であり分かりやすい。また、色がやさしく、視覚的な配慮がされている。</li> <li>○巻末に英語で「できるようになったこと」(CAN-DO リスト) などがあり、学習の達成度を自分で振り返るよう工夫されている。</li> </ul>
学図	<ul style="list-style-type: none"> <li>●レイアウトは、左ページに本文と新出語句、右ページに Target Sentence と Activities があるが、白い部分が少なく、生徒の学習に圧迫感を与える。</li> <li>●巻末資料に特色は見られない。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○左ページ下に Target Sentence, 右ページに Practice が配置されており、レイアウトは固定され、すっきりしている。</li> <li>○巻末に CAN-DO リストがついているなど、学習の達成度を自分で振り返る機会を大切にするなど、巻末資料に工夫が見られる。</li> </ul>

教出	<p>●レイアウトは、見開きで両ページに本文がまたがっている。また、基本文は左ページ下、右下に活動という配置になっており、他社と比べて言語活動の量が少ない。</p> <p>○巻末に CAN-DO 自己チェックリストなどがついており、関連箇所の表記もある。3年間の見通しを持った表になっているなど、巻末資料に工夫が見られる。</p>
光村	<p>○レイアウトは、右ページに本文とリンクした基本文 Try It が配置されている。色づかいには、目にやさしい配慮がされている。</p> <p>○巻末資料として「英語のしくみ」や「音声のまとめ」があり、イラストも入っていて工夫されている。</p>

## (4) 内容の表現・表記 参考資料

発行者	第 2 学 年 巻 末 資 料 等 一 覧
東書	<p>「資料編」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1. Word List 2. Bonus Word Box 3. 形容詞・副詞比較変化表 4. 不規則動詞変化表 5. 基本文・Basic Expression 一覧 6. 表現のまとめ 7. 名作鑑賞 I'll Always Love You</p> <p>「巻末資料」として、次の資料を掲載している。</p> <p>手話・点字, Word Room</p>
開隆堂	<p>「巻末資料」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1. Basic Dialog のまとめ 2. クイック Q&amp;A 3. 英語の音声 4. 英語のつづり字と発音 5. 短縮形のまとめ 6. 数の言い方 7. 英語の歌 8. 単語と熟語 9. 不規則動詞活用表 10. 学校の内外 11. いろいろな職業 12. いろいろな前置詞 13. 感情や状態を表す形容詞 14. 日本の祝日・学校行事 15. 町を案内しよう</p> <p>「付録」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1. Extensive Reading 2. 英語で「できるようになったこと」リスト (とじ込み)</p>
学図	<p>「付録」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1. 英語の歌 2. More Words (職業・感情と性格) 3. つづりと発音 4. 不規則動詞の変化表 5. 形容詞と副詞の変化表 6. 目標文のまとめ 7. ミニ辞典コーナー 8. 色と形 9. ジェスチャー</p>
三省堂	<p>「付録」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1. Further Reading 2. Songs (英語の歌) 3. つづりと発音 (子音) 4. 絵でわかる英語のしくみ 5. 基本文のまとめ 6. 数の表現と数字の読み方 7. いろいろな符号 8. いろいろな単語 9. 会話表現 10. 不規則動詞活用表 11. 形容詞・副詞比較変化表 12. 単語の意味</p>

教 出	<p>「付録」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1. 辞書についていっしょに学ぼう！  2. Optional Reading 3. Sing Along 4. 重要構文復習リスト  5. Word List 6. 形容詞・副詞比較変化表 7. 不規則動詞変化表  8. Can-Do 自己チェックリスト</p>
光 村	<p>「付録」，として、次の資料を掲載している。</p> <p>Your Coach / CLIL 英語で学び、考えよう /  Word Square / Writing Fun / 英語の歌</p> <p>「巻末資料」として、次の資料を掲載している。</p> <p>1. Let's Read More 2. 数字の読み方  3. 短縮形のまとめ 4. 英語のしくみ  5. 不規則動詞活用表／形容詞・副詞の変化 6. 音声のまとめ  7. Word List 8. 基本文一覧 9. Classroom English  10. こんなときどう言うの</p>

## (5) 言語活動の充実

著者	意見 ( ○ 長所 ● 課題 )
東 書	<p>○1年生の教科書では、Unitの中で speak から write につながる活動が設定されている。</p> <p>○Presentation と題した表現活動の単元が3年間で9個設定されている。そのすべてがスピーチ（発表）する内容のものであり、表現力の育成に効果的な題材である。</p> <p>○Daily Scene という単元で Speaking と Writing をスパイラルな指導ができる。(Speaking が3年間で12回、Writing が3年間で8回)</p>
開 隆 堂	<p>●1年生の教科書では、Lessonの中で speak から write へつながっていない。小単元では書くことの活動がやや少ない</p> <p>○Project と題した表現活動の単元が3年間で9個設定されている。その内容は4個がスピーチ（発表）で、残りはインタビュー、スキット作成、CM、文集であり、種類が豊富である。</p> <p>○4技能を高めるために技能ごとに繰り返し指導ができる内容がある。(Speaking は3年間で13回、Listening は3年間で9回、Reading は3年間で2回、Writing は3年間で7回)</p>
学 窓	<p>○1年生の教科書では、Unitの中で speak から write につながる活動が設定されている。</p> <p>●Chapter Project と題した表現活動の単元が3年間で12個設定されており、活動量が他社に比較して多く、生徒の負担が多い。</p> <p>●Chapter Project だけではなく、Book Project と題した表現活動が年間1回ずつ（3年間で3回）設定されており、さらに Action という技能統合活動が6つあり、課題の量がやや多い。</p>

三省堂	<p>○Project と題した表現活動の単元が3年間で9個設定されている。その内容は、5個がスピーチ（発表）で、残りはポスター作成、ディスカッションであり、種類が豊富である。</p> <p>●Let's listen や Let's talk では、Listening と Speaking が取り扱われており、他の技能との総合的な指導の工夫が少ない。</p>
教出	<p>●Project と題した表現活動の単元が3年間で8個設定されている。その内容は、4個がスピーチ（発表）で、残りは新聞作成、ガイドブック作成、ポスター作成であり、スピーチが少ない。</p> <p>○Trip という内容で Listening, Reading, Writing を繰り返し指導できるようにしている。</p>
光村	<p>●Go for It と題した表現活動の単元が3年間で9個設定されている。その内容は、3個がスピーチ（発表）、その他は新聞作成、しおりづくり、文集、ディスカッションであり、スピーチの活動が少ない。</p> <p>○You can do it. と題した内容があり3年間で25個あり、技能の統合を目指した学習課題がある。</p>

## 中学校英語

発行者	意見（○ 長所 ● 課題）
東書	<p>○入門期は、「Hi,English!」（話す・聞く）と「Unit 0」（アルファベット）の二段階になっており、小学校の外国語活動から中学校英語への接続をスムーズにしている。</p> <p>○1年生の教科書では、Unitの中でspeakからwriteにつながる活動が設定されている。</p> <p>○単元数や分量は生徒の学習の負担を考えてやや少なめにおさえている。また、各活動のページ上の配置が同じで分かりやすく、書き込みができるスペースがある等、指導者が様々な工夫をすることができる。</p> <p>○文法事項は「まとめと練習」でまとめてあり、構造的で分かりやすい。演習問題があり、理解度を確認できる。</p> <p>○4技能を総合的に活用させる言語活動として、Presentationと題した表現活動の単元が3年間で9個設定されている。そのすべてがスピーチ（発表）する内容のものであり、表現力の育成に効果的な題材である。</p> <p>●中学校最後の「Presentation」は、題材名「中学校生活」、主なモデル文は5文、55語、目標が「5文以上で発表」とやや目標設定が低い。</p>
開隆堂	<p>○入門期は「Let's Start」（話す・聞く）と「Program 1」（アルファベット）の二段階になっており、小学校の外国語活動から中学校英語への接続をスムーズにしている。</p> <p>○各活動の配置が分かりやすく、学習の手順や説明がくわしい。色使いも良い。</p> <p>○巻末に「できるようになったこと」リストがあり、自己評価ができるよう工夫されている。</p> <p>○4技能を総合的に活用させる言語活動として、各学年3回、「My project」が設定してあり、日常の学習がこの到達目標につながっている。各Projectは4ページ構成となっていて、手順を追って活動しやすくしてあり、仲間と協働し、推敲できるように工夫されている。</p> <p>●1年文法事項の配列においてBe動詞と一般動詞の区別がつきにくい。</p> <p>●基本文はBasic Dialogという対話文になっているが、本文とは異なる内容である。</p> <p>●単元数が最も多く、文の量や言語活動の量も多いので、生徒の負担となる。各Projectも4ページ構成になっており、内容が多く、十分に指導時間が確保できるか課題である。。</p>
学図	<p>●入門期に「Pre-lesson」と「Let's start」があるが、区別が明確ではない。</p> <p>○Listenでは対話等を聞いて質問に答え、Speakで対話をペアで行う活動、ReadではReadingで読む活動を設定している。Writeで基本表現を含む文章を書く活動を設定しており4技能を定着できる。</p> <p>●4技能を総合的に活用させる言語活動として、「Project」が設定されているが、年5回と多く、内容も比較的多いので、十分に時間が確保できない。</p> <p>●一般動詞や複数形が1年の最初に出てくるので、生徒には、負担である。</p>
三省堂	<p>●入門期に「Get Ready」があるが、1ページに出てくる英単語の量が多い。</p> <p>○4技能を総合的に活用させる言語活動として、「Project」が3年間で9個設定されている。その内容は、5個がスピーチ（発表）で、残りはポスター作成、ディスカッションであり、種類が豊富である。</p> <p>●中学校最後の「Project」は、モデル文が文章表記されていないので、生徒にとってゴールの姿が明確ではなく、活動に取りかかるのに難しい。</p> <p>○錦織圭選手の話、広島で被爆した佐々木禎子さんの生涯や、キング牧師のスピーチなど生徒に読ませたい題材が多い。</p>

教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入門期の1ページに出てくる語彙量が多く、本文の文字が小さく読みづらい。</li> <li>○Listen で適切な絵を選択したり、Speak で対話練習を行い、Read で英語で回答、Write で対話練習した英文を書く活動を設定するなど工夫している。</li> <li>○巻末に Can-Do 自己チェックリストが付いており、巻末資料に工夫が見られる。</li> <li>●4技能を総合的に活用させる言語活動として、「Project」が3年間で8個設定されている。中学校最後の「Project」は、モデル文が文章表記されていないので、生徒にとってゴールの姿が明確ではなく、活動に取り組むのに難しい。</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入門期の「Let's enjoy English!」の内容配列の意図が明確でなく、活動が混在している。</li> <li>○「受け身形」を2年と3年で両方扱っている等、言語材料の配列は生徒が時間をかけて学習できるような工夫がされている。</li> <li>○レイアウトについて、色使いが目に優しく工夫されている。</li> <li>●4技能を総合的に活用させる言語活動として、「Go for It」が3年間で9個設定されている。その内容はスピーチは3つにとどまり、口頭での表現が少ない。</li> <li>●題材は登場人物の日常生活に則したものが多く、英語を通して幅広く考えさせる上ではやや物足りない。</li> </ul>